令和８年度　台山公園トイレ改築工事

設　計　図

図面リスト

図面番号	図　面　名　称	図面番号	図　面　名　称	図面番号	図　面　名　称	図面番号	図　面　名　称
	・建築図		・解体図		・電気設備図		・機械設備図
Ａ－０１	建築工事新営特記仕様書（１）	Ｋ－０１	解体工事特記仕様書	Ｅ－０１	電気設備改修工事特記仕様書	Ｍ－０１	機械設備工事特記仕様書
Ａ－０２	建築工事新営特記仕様書（２）	Ｋ－０２	撤去　配置図	Ｅ－０２	構内配線線路（改築後）	Ｍ－０２	屋外配管図（１）
Ａ－０３	建築工事新営特記仕様書（３）	Ｋ－０３	撤去　平面図　立面図　基礎伏図	Ｅ－０３	構内配線線路（改築前）	Ｍ－０３	屋外配管図（２）
Ａ－０４	建築工事新営特記仕様書（４）	Ｋ－０４	撤去　断面図　展開図　建具表	Ｅ－０４	電気設備図	Ｍ－０４	給排水設備図
Ａ－０５	建築工事新営特記仕様書（５）	Ｋ－０５	撤去・復旧　既存トイレ外構図			Ｍ－０５	排水ポンプ槽参考図
Ａ－０６	建築工事新営特記仕様書（６）	Ｋ－０６	撤去（浄化槽　単独200人槽）（参考図）			Ｍ－０６	下水本管接続　排水経路　全体縦横断図
Ａ－０７	建築工事新営特記仕様書（７）						
Ａ－０８	案内図・解体全体配置図						
Ａ－０９	案内図・改築全体配置図						
Ａ－１０	敷地求積図						
Ａ－１１	仮設計画図(全体)						
Ａ－１２	現況図・仮設計画図(拡大)						
Ａ－１３	改築図・仮設計画図(拡大)（多目的広場側）						
Ａ－１４	外構配置図						
Ａ－１５	仕上表・平面図・立面図						
Ａ－１６	断面詳細図						
Ａ－１７	展開図（１）						
Ａ－１８	展開図（２）						
Ａ－１９	建具表						
Ａ－２０	基礎廻り詳細図						
Ａ－２１	外構断面図・詳細図（１）						
Ａ－２２	外構断面図・詳細図（２）						
Ａ－２３	外構復旧図						

令和７年９月

株式会社　櫻田建築設計事務所

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌善

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事		設計年月日 2025 年 9 月　日
図面名称	図面リスト	縮尺	図面番号 A — 00

建 築 工 事 特 記 仕 様 書 【令和７年４月版】

Ⅰ 工 事 概 要

１ 工事番号・名称　　－　号　　令和6年度　台山公園トイレ改修工事
２ 工 事 場 所　　角田市角田字寺前地内外
３ 用途地域等
都市計画区域（⊙ 内 ・ 外） 用途地域（　　指定なし　　）
防火地域等（・ 防火 ・ 準防火 ⊙ 指定なし ⊙ ２２条 ）
その他の地域・地区（　　）
４ 主 要 用 途　　公衆便所
５ 敷 地 面 積　　56,276.71 ㎡
６ 工 事 の 概 要

-1.以下の建築物の建築工事

名　　称	構 造 ・ 規 模	面　積
① 屋外トイレ1	鉄骨造/1F	49.10㎡

-2.外構の新設　　図示

７ 別 途 工 事

８ そ の 他

９ 特記仕様書の範囲
特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印もので構成する。
・ 構造特記仕様書　・ 外構工事特記仕様書　・ 植栽工事特記仕様書
⊙ 解体工事特記仕様書　⊙ 電気設備工事特記仕様書　⊙ 機械設備工事特記仕様書
・　・

Ⅱ 建 築 工 事 仕 様

１．共通仕様
図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(令和7年版)」（以下、「標準仕様書」という。）による。ただし、標準仕様書に記載されていない事項は、「公共建築改修工事標準仕様書（令和7年版）（以下「改修標準仕様書」という。）「公共建築木造工事標準仕様書（令和7年版）」（以下「木造標準仕様書」という。）及び「建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）」（以下「解体共通仕様書」という。）による。　なお、施工条件明示書は、特記仕様書に含める。
２．特記仕様
１）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
２）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。⊙印のつかない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。
３）特記事項に記載の（ ）、＜ ＞及び［ ］内の表示番号は、それぞれ「標準仕様書」、「改修標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	①. 一般事項	⊙ 工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合は、監督職員に報告の上，指示に従うこと。 ⊙ 受注者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ⊙ 施工体系図を現場に掲示すること。 ・ 工事着手前及び完成時に，以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤，擁壁，内外壁，床，建具等）を調査・記録し，報告書を監督職員に提出すること。 ※工事に伴う環境調査要領 平成28年4月（東京都建設局編集）による ※調査に先立ち調査計画書を作成し監督職員の確認を受けること 調査範囲　　※　図示
	②. 適用基準等	⊙ 建設工事執行規則(昭和39年3月宮城県規則第9号) ⊙ 宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱 ⊙ 建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和4年版） ⊙ 営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部 令和5年版）及び工事写真撮影ガイドブック＜建築工編及び解体工事編＞（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和5年度版） ・ 建築構造設計基準（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和3年版）
	３．概成工期	工事工期より　　日前　　(1.2.1)
	④. 工事実績情報(CORINS)の登録	※ 適用する（請負精算額が500万円以上の場合）　　(1.1.4) 受注時、変更時及び工事完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け、契約締結後及び工事完成後の10日以内に登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督職員に提出すること。 ・ 適用しない
	⑤. 発生材の処理等	発生材の処理　　(1.3.11) ・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 受入れ施設名・所在地(km) ・再生資源化を図るもの

種　類	受 入 施 設 名	所　在　地　(Km)	備　考
・ セメントコンクリート塊	(株)杉沢工務店	6.0	
・ アスファルトコンクリート塊	(株)ジェーエーシー 角田センター	4.2	
・ 建設発生木材	株式会社コスモ宮城県カド(株)センター	23.2	
・ 建設汚泥	(有)佐建	15.0	

・現場において再利用を図るもの（　　）
・その他の廃棄物（安定型)（　　）
受入れ施設名・所在地(km)
・その他の廃棄物（管理型)（　　）
受入れ施設名・所在地(km)
上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督職員と協議すること。
また、処理、処分に先立ち処分場等の受入の可否を確認すること。

	⑥. 電気保安技術者	・ 適用する　※ 適用しない　　(1.3.3)
	⑦. 事故報告	(1.3.9) 工事の施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，監督職員から指示があった場合は「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。（宮城県HP「事故発生報告」参照）

	⑧. 建築材料等	材料の品質等　　(1.4.2) 本工事に使用する材料は，設計図書に定める品質及び性能を有するものとし，その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督職員の承諾を受ける。 特定のものが特記された場合は，設計図書に規定するもの又は，これと同等のものとする。ただし，同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受ける。
		環境への配慮　　(1.4.1) 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。
		ホルムアルデヒド仕様 使用する材料のホルムアルデヒド放散量は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量　規制対象外　の場合の建築材料 １）ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆ ２）建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品 ３）次の表示のあるＪＡＳ適合品 ａ．非ホルムアルデヒド系接着剤使用 ｂ．接着剤等不使用 ｃ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 ｄ．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 ｅ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
	９．室内の空気中の化学物質濃度の測定	※ ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定　　(1.5.9) 試料採取及び測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか，拡散方式ではサンプラー製造所の定める仕様により行う。 測定対象物質　※ ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ（濃度指針値　100μg/m3 ・ 0.08ppm） ※ ｽﾁﾚﾝ（濃度指針値　220μg/m3 ・ 0.05ppm） ※ ﾄﾙｴﾝ（濃度指針値　260μg/m3 ・ 0.07ppm） ※ ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ（濃度指針値 3,800μg/m3 ・ 0.88ppm） ※ ｷｼﾚﾝ（濃度指針値　200μg/m3 ・ 0.05ppm） 測定する室等：（　　） 採取方法：吸引方式又は拡散方式とし，拡散方式では８時間採取する。 測定結果等報告書の提出 次の事項を記載した報告書を１部提出する。 ａ測定結果 ｂ試料採取時の状況（気温・湿度（室外・室内），天候，風の状況，日射遮入状況，測定年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成時から測定日までの日数） ｃ試料採取方法，測定方法，使用した測定機器 測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は，引渡は受けない。
		※ 室内ＶＯＣ濃度の測定結果に関する書面の当該施設への掲示については，施設管理者に依頼する。
		総揮発性有機化合物の測定は「24章 総揮発性有機化合物（TVOC）測定」参照
	10. 特別な材料の工法	「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は，当該製品の指定工法とする。
	⑪. 建築基準法による風圧力等の指定	(9.4.4)(10.5.3)(13.2.3、3.3、4.3)(14.7.3)(16.13.2、14.5)(23.5.4)

適　用　工　事	建　築　基　準　法　の　指　定
・ 合成高分子系ルーフィングシート工法	風速(Ｖ0)　　※３０　・
・ 外壁乾式工法 ・ 長尺金属板葺	地表面粗度区分　・Ⅱ　・Ⅲ
・ 折板葺 ・ 粘土瓦葺	多雪地域の指定　・有　・無
・ アルミニウム笠木	
・ オーバーヘッドドア	
・ ガラスブロック ・ 屋上緑化	

	⑫. 設計G.L.	※ 図　示　　・ 現状平均地盤高
	⑬. 技 能 士	(1.5.2) ・ 下表で技能士を適用することとした職種に、１級又は単一級技能士を配置する。 ※ 下表で技能士を適用することとした職種に、１級、２級又は単一級技能士を配置する。 ※ 下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。

工　事　種　目	技能検定職種（技能検定作業）
仮設工事	・とび（とび作業）
鉄筋工事	⊙鉄筋施工（鉄筋組立作業）
コンクリート工事	⊙型枠施工（型枠工事作業） ⊙コンクリート圧送施工（コンクリート圧送工事作業）
鉄骨工事	・鉄工（構造物鉄工作業）
コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	・ＡＬＣパネル施工（ＡＬＣパネル工事作業）
防水工事	・防水施工　・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ-ﾄ防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業
石工事	・石材施工（石張り作業）
タイル工事	・タイル張り（タイル張り作業）
木工事	・建築大工（大工工事作業）
屋根及びとい工事	・建築板金（内外装板金作業）
金属工事	・内装仕上施工（鋼製下地工事作業） ・建築板金（内外装板金作業） ・バルコニー施工（金属バルコニー工事作業）
左官工事	・左官（左官作業）
建具工事	・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業） ・ガラス施工（ガラス工事作業） ・自動ドア施工（自動ドア施工作業）
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	・カーテンウォール施工（金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業） ・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業） ・ガラス施工（ガラス工事作業）
塗装工事	・塗装（建築塗装作業）
内装工事	・内装仕上施工　・プラスチック系床仕上工事作業 ・ボード仕上工事作業 ・表装（壁装作業）
排水工事	・配管（建築配管作業）
舗装工事	・路面標示施工　・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾏｰｶｰ工事作業 ・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ作業
植栽工事	・造園（造園工事作業）

	⑭. 完成図等	営繕工事完成引渡要領（令和7年4月1日宮城県土木部営繕課・設備課）により作成する。 ※ 白焼縮小（Ａ３版）２つ折製本　　２部 ※ 完成図面　JWW形式又はDXF形式のCADデータ及びPDF形式　　DVD-R等２部
	15. 完成写真	※ 作成する　・ 作成しない 営繕工事写真撮影要領により、完成届に添付する完成写真とは別に次のものを原本（電子媒体）とともに監督職員に提出する。 なお、原本は、DVD-R等で提出すること。

分　類	サイズ	撮影箇所数	部　数	提出様式
※カラー ・白黒	※Ｌ ・２Ｌ ・六切り	※営繕工事写真撮影要領の完成写真程度 ・　箇所　枚	※１部 ・　部	※工事用アルバムA4版 ポケット式程度 ・フリーアルバム（台紙寸法323×270程度） ・

アルバムは、監督職員との協議により紙媒体又は電子媒体とする。

	⑯ 設備工事との取合い	施工範囲　各工事の区分表による。 施 工 図　設備機器の位置，取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。
	⑰ 火災保険等	工事目的物及び工事材料等について，次により保険に付す。 保険の種類　※ 火災保険　※ 建設工事保険 保険期間　※ 工事着手から工事目的物引き渡しまで
	18. 住宅瑕疵担保責任	住宅瑕疵担保履行法に基づく保険の加入又は保証金の供託の義務付け ・あり（新築住宅の場合）　・なし（新築住宅以外の場合）
２ 仮設工事	① 仮囲い	※ 設ける　・ 設けない　仮囲いの位置及び延長は図示による。 ⊙キャスターゲート（H=1.8，W= 6.0m ）× 2 箇所 ・シートゲート（H= ，W= ）× 箇所 ⊙ガードフェンス（H= 1.8m ）
	② 危害防止	※ シート張り　・ 金網養生
	③ 交通誘導員	・ 配置する（ 日 × 人 ＝ 人日）　※ 配置しない
	④ 揚重機械器具	・ トラッククレーン（ 10ｔ吊り）× 8 日 ・ （ ｔ吊り）× 日
	５．監督職員事務所	※ 設けない（請負者事務所に打合せ会議室を確保する） ・ 設ける（規模　㎡程度　請負者事務所と同棟　・可　・否） 備品（　　）
	⑥ 工事表示板	※ 設置する　・ 設置しない 営繕工事における工事及びコスト表示要領（令和6年4月1日宮城県土木部営繕課・設備課制定）による。
	７．事業コスト表示板	・ 設置する（５億円以上の工事が対象）　・ 設置しない 営繕工事における工事及びコスト表示要領（令和6年4月1日宮城県土木部営繕課・設備課制定）による。
	⑧ 工事用水	構内既存の施設 ・ 利用できる（※有償 ・無償）　※ 利用できない
	⑨ 工事用電力	構内既存の施設 ・ 利用できる（※有償 ・無償）　※ 利用できない
	⑩ 工事用通路	※ 指定しない　・ 指定する（図示）
	11. 足場等	(2.2.4) 足場を設ける場合は，「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。
３ 土工事	① 埋戻し及び盛土の種別	種別　⊙Ａ種　⊗Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)(表3.2.1) Ｃ種の場合　建設発生土受入数量　㎥ 発生場所
	② 建設発生土の処理	・ 構内指示の場所に敷きならす。　(3.2.5) ・ 構内指示の場所にたい積する。 ⊙ 構外指示の場所に搬出する。 受入れ施設名・所在地（km）
	３．有害物質含有調査	・ 有害物質の含有を調査する。 調査範囲及び項目　※図示
	④ 山 留 め	・ 存置する　⊙存置しない　(3.3.1) ・ 設置する　・設置しない　(3.3.3)

４ 地業工事	１．支持地盤	(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4)(4.3.5)(4.4.4)(4.5.5)(4.5.6) ・杭基礎 支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端の位置含む) ・図示による　・ ・直接基礎 支持層の位置及び土質(基礎底部の位置含む) ・図示による　・ ・地盤の載荷試験(平板載荷試験) ・行う 試験の方法、位置及び載荷荷重は図示による
	２．既製コンクリート杭地業	(4.2.2)(4.3.1)(4.3.3)～(4.3.6)(4.3.8) 杭の種類 ・ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭） ・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭） ・ 外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭） SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490

杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分(種別)、寸法、継手の箇所数等

		種類種別	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備　考
試験杭	上杭 中杭 下杭								
本　杭	上杭 中杭 下杭								

杭先端部形状
・開放型　・半開放形　・閉そく形

工法
・セメントミルク工法
・図示による
・特定埋込杭工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
α＝250を採用できる工法　・図示による
・上記以外の特定埋込杭工法　・図示による
工法
・プレボーリング拡大根固め工法
・中堀り拡大根固め工法
・
杭の精度
水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100㎜以下　・評定等の評価内容による
建込み時の杭の鉛直
・1/100以内　・評定等の評価内容による

杭の継手の工法
・アーク溶接継手
溶接材料
・標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・
・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
工法
※評定等を受けた工法

杭頭の処理等
・処理しない
・処理する
処理方法(切断にともなう補強方法含む)
・図示による　・

	３．鋼杭地業	(4.2.2)(4.4.3)～(4.4.6) 鋼杭の材料 ・図示による 杭の種類、寸法、継手の箇所数等

		種類	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備　考
試験杭	上杭 中杭 下杭								
本　杭	上杭 中杭 下杭								

特定埋込杭工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
α＝250を採用できる工法　・図示による
・上記以外の特定埋込杭工法　・図示による
工法
・（　　）
杭の継手の工法
・アーク溶接継手
形状
・JIS A 5525による　・
溶接材料
・標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・
・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
工法
※評定等を受けた工法

杭頭の処理等
・処理しない
・処理する
処理方法(切断にともなう補強方法含む)
・図示による　・

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木 昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事
図面名称	建築工事新営特記仕様書（１）
縮尺	
設計年月日	2025 年 9 月　日
図面番号	A ― 01

4 地業工事

4．場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.1)

工法
- ・アースドリル工法(安定液　※使用する　・使用しない)
- ・リバース工法
- ・オールケーシング工法(孔内の水張り　・行う　・行わない)

併用する工法
- ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
  鋼管巻き材料
  - ・SKK400　・SKK490　・
- ・拡底杭工法(安定液　・使用する　・使用しない)
- ・

寸法等
- ・図示による　・

孔壁測定 (4.5.5)
- ・行う
  測定方法、測定箇所は図示による
- ・行わない

材料その他 (4.5.4)
- 帯筋　・図示による
- 鉄筋の最小かぶり厚さ　・図示による
- セメントの種類
  ※高炉セメントB種　・
- コンクリートの種別
  - ・A種　・B種　・評定等の評価内容による
- スランプ
  - ・18cm　・21cm
- コンクリートの設計基準強度　(　)N/mm2
- 構造体強度補正値(S)
  - ・3N/mm2　・評定等の評価内容による　・

⑤ 砂利地業 (4.6.2～3)

材料
- 砂利　※　再生クラッシャラン　・

範囲
- ・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下、土間コンクリート下
- ・図示による

厚さ
- ※60mm　⊙150mm

⑥ 捨コンクリート地業

範囲
- ・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下　・図示による

厚さ
- ※50mm　・

設計基準強度
- ※18N/mm2　・

スランプ
- ※15cm又は18cm　・

7．床下防湿層 (4.6.2)(4.6.5)

材料
- ※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・

範囲
- ・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)
- ・

⑧ 地盤改良工法

種類及び施工方法等
- ・図示による　⊙ 杭状地盤補強工法（ピュアパイル工法）

9．置換コンクリート地業（ラップルコンクリート地業）

形状等
- ・図示による　・

支持地盤
- ・図示による　・

5 鉄筋工事

① 鉄筋 (5.2.1)

鉄筋の種類等

種類の記号	呼び径（mm）	備考
※ SD295		
※ SD345		

2．溶接金網 (5.2.2)

鉄線の形状等

種類	種類の記号	形状、網目寸法、径(mm)	使用部位
・溶接金網			
・鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手 (5.3.4)

鉄筋の継手の方法等

種類	種類の記号	継手の方法	呼び径（mm）
柱、梁の主筋		※ガス圧接　・機械式継手 ・溶接継手　・重ね継手	※D19以上
耐力壁の鉄筋		※重ね継手　・	※D16以下
その他の鉄筋(　)		・重ね継手　・	

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ
- ※図示による

継手位置
- ※図示による

耐力壁の重ね継手の長さ
- ※図示による

④ 鉄筋の定着 (5.3.4)

鉄筋の定着長さ
- ※図示による　・

⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む） (5.3.5)

最小かぶり厚さ
- ※図示による　・

軽量コンクリートを適用する場合
- ・有り(※図示による)　適用箇所(　)

耐久性上不利な箇所がある場合(塩害等を受けるおそれのある部分等)
- ・有り(※図示による)　適用箇所(　)

6．特殊な鉄筋継手 (5.5.1～5.5)

・機械式継手
- 適用箇所
  - ※図示による　・
- 性能(H12建告第１４６３号に適合するもの)
  - ・A級　・
- 機械式継手の種類(　)
- 鉄筋相互のあき
  - ※図示による　・
- 施工完了後の試験
  - ※図示による　・

・溶接継手 (5.6.1～6.5)
- 適用箇所
  - ※図示による　・
- 性能(H12建告第１４６３号に適合するもの)
  - ・A級　・
- 機械式継手の種類(　)
- 鉄筋相互のあき
  - ※図示による　・
- 施工完了後の試験
  - ※図示による　・

⑦ 各部配筋　各部の配筋は，図示による。図示がなければ，標準仕様書 末尾資料の「各部配筋　参考図」による。 (5.3.7)

8．柱の帯筋　※　H形　・　W－I形　・SP形 (参考図　図2.2)

9．耐震壁を除く壁の開口部補強　・　A形　※　B形 (参考図　表4.3～4.4)

10．はり貫通孔の補強　補強形式　※H３形以上　・M型　・MH型 (参考図　表7.1～7.3)

11．圧接完了後の圧接部の試験

外観試験 (5.4.10)
- ※　行う(全数)

抜取試験
- ※　超音波探傷試験　・　引張試験

6 コンクリート工事

① コンクリートの種類　種別　※　I類　・　II類 **(6.2.1)(表6.2.1)**

② 設計基準強度 (6.2.2)

普通コンクリート

Fc（N/mm2）	適用箇所
・ ２４	
⊙ ２１	基礎、１階床梁

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.3.2による

軽量コンクリート

Fc（N/mm2）	適用箇所

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.3.2による

③ スランプ　基礎，基礎梁，土間スラブ　⊗ １５cm　・　１８cm (6.2.4)(表6.2.2)
柱，梁，スラブ，壁　※　１８cm

④ セメントの種類 (6.3.1)

セメントの種類	適用箇所
※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種	建物躯体（下記以外）
・ 高炉セメントB種	基礎、地中梁
・ フライアッシュセメントB種	基礎、地中梁

5．骨材　アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
- ・A　・B

6．軽量コンクリート　種類 (6.10.1)(表6.10.1)
- ・1種　・2種

7．無筋コンクリート　適用箇所 (6.14.1)
- ・標準仕様書6.14.1(4)による箇所
- ・標準仕様書6.14.1(4)以外の箇所
  - ・図示による　・

設計基準強度
- ※18N/mm2　・

スランプ
- ※15cm又は18cm　・

8．打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

打継ぎの位置 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
- ※標準仕様書6.6.4(1)による　・図示による

目地寸法
- ※標準仕様書9.7.3(1)(ア)による　・図示による

ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法
- ・図示による

9．打増し厚さ（打放し仕上げ部）
- ・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) (6.8.1)
  - ・20mm　・
- ・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
  - ・10mm　・20mm　・

⑩ 型枠　せき板の材料及び厚さ (6.8.2)
- ・合板(※12mm　・　)
- ・断熱材を兼用した型枠材
  - 使用箇所　※図示による　・
- ・MCR工法用シート
  - 適用箇所　※図示による　・
  - 打増し厚さ　・20mm　・
  - 打増し範囲　※図示による　・

スリーブの材種・規格等
- ・図示による　・

7 鉄骨工事

1．鉄骨の製作工場 (7.1.3)

※　指定性能評価機関の性能評価を受けて、国土交通大臣の認定を受けた下記のグレード以上の工場
- ・ S　・ H　・ M　・ R　・ J
- ・ 本物件と同等規模構造の施工実績を有し、監督職員の承諾する工場

※　施工監理技術者（※配置する　・配置しない) (7.1.4)

2．鋼材の種別 (7.2.1)(表7.2.1)

種類の記号	適用箇所	規格
	※図示による(　)	※JISによる　・
	※図示による(　)	※JISによる　・
	※図示による(　)	※JISによる　・

3．高力ボルト　高力ボルトの種類 (7.2.2)
- ※　トルシア形高力ボルト
- ・　ＪＩＳ形高力ボルト
- ・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
- ・図示による　・

すべり試験の実施 (7.4.2)
- ・行う(試験方法等　・図示による)　※行わない

4．普通ボルト　ボルト及びナットの材料 (7.2.3)
- ・標準仕様書 表7.2.3による　・

座金
- ・標準仕様書7.2.3(4)による　・

ボルトの径
- ・図示による　・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
- ・図示による　・

5．溶融亜鉛めっき高力ボルト　溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 (7.2.3)
- ・図示による　・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
- ・図示による　・

摩擦面の処理方法 (7.4.2)
- ・ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上)
- ・
- ・

すべり試験の実施
- ・行う(試験方法等　・図示による)　※行わない

6．アンカーボルト　構造用アンカーボルト (7.2.4)

種類
- ・ABR400　・ABR490　・

建方用アンカーボルト

種類
- ・SS400　・

アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
- ・標準仕様書 表7.2.3による　・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
- ・図示による　・

7．溶接材料　溶接材料 (7.2.5)
- ・標準仕様書7.2.5(1)(2)による
- ・

8．ターンバックル　種類 (7.2.6)
- 建築用ターンバックルボルト
  - ※羽子板ボルト　・
- 建築用ターンバックル胴
  - ※割枠式　・

9．床構造用のデッキプレート　材質、形状及び寸法 (7.2.7)(7.7.8)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備考
・デッキプレート単独の構法			
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法			
・			

開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む)
- ・図示による　・

鉄骨部材への溶接方法
- ・図示による　・

耐火認定
- ・あり　耐火時間　・図示による　・
- ・なし

10．スタッド　種類等 (7.2.8)

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

11．柱底均しモルタル　無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 (7.2.9)
- ※標準仕様書7.2.9(2)(ア)から(エ)による　・

12．仮組　仮組を行う範囲 (7.3.10)
- ※図示による　・

13．溶接技能者の技量付加試験　試験の要領 (7.6.3)
- ・図示による　・

14．溶接接合　開先の形状　※図示による　・ (7.6.4)(7.6.7)

鋼製エンドタブを切断する部分
- 切断する箇所　・図示による　・
- 切断範囲　・

スカラップの形状　※図示による　・

15．溶接部の試験

溶接部の外観試験 (7.6.12)

平12建告第1464号第二号に関する試験方法等
- ・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による
- ・抜き取り検査①　※抜き取り検査②

JASS 6 付則6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等
- ・JASS6 10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。
  ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書 7.6.13による補修を行い、再試験する。

完全溶込溶接部の試験は超音波探傷試験とし、下表による。

溶接の区分	AQQL(%)	検査水準	備考
工場溶接	・2.5　※4.0	※６　・	

16．錆止め塗装 (7.8.2)(7.8.4)(18.3.2)

塗料の範囲
- 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲
  - ・図示による　・
- 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲
  - ※標準仕様書7.8.2(1)による　・図示による

塗料の種別
- ・下記以外の鉄鋼面は、18章[塗装工事]による
- ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別
  - ※A種　・
- ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別
- ・

17．耐火被覆 (7.9.2～8)

種別	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール		
	※半乾式吹付けロックウール		
	・湿式ロックウール		
	・		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール		
	・		
・ラス張りモルタル塗り	-		
・耐火塗料	・		

18．アンカーボルトの設置等 (7.2.4)(7.10.3)(表7.10.1)
- 構造用アンカーボルトの形状及び寸法
  - ・図示による　・
- 構造用アンカーフレームの形状及び寸法
  - ・図示による　・
- 建方用アンカーボルトの形状及び寸法
  - ・図示による　・
- 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法
  - 種別　・A種　・B種
- 構造用アンカーボルトの形状及び寸法
  - 厚さ　・
  - 種別　※A種　・B種

19．軽量形鋼構造　ボルトの接合部 (7.11.2)
- ・普通ボルト接合　・

8 押出成型セメント板工事 コンクリートブロック・ALCパネル

1．補強コンクリートブロック造リート

ブロックの種類 (8.4.2～5)(表8.4.2～4)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
※空洞ブロックC(16)				・無　・有		
・						

各部の背筋　※図示による　・
目地仕上げ　・押し目地仕上げ　・化粧目地仕上げ
まぐさを受ける開口部両側のブロックのモルタル又はコンクリートで充填する範囲
- ※図示による　・

2．コンクリートブロック帳壁及び塀

ブロックの種類 (8.3.2～4)(表8.3.1)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法 長さ	高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
※空洞ブロックC(16)				・無　・有		
・						

壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状
- ※図示による　・

各部の配筋
- ※図示による　・

3．ＡＬＣパネル (8.4.2～5)(表8.4.2～4)

区分			単位荷重(N/m²) 正荷重	単位荷重(N/m²) 負荷重	厚さ(mm)	幅及び長さ	耐火性能(時間)	構法の種別
・外壁用	・一般 ・コーナー	・平 ・意匠	・	・	・	図示による	・なし ・ 1	・A種 ・B種
・間仕切壁用	・一般 ・コーナー	・平 ・意匠	—	—	・	図示による	・なし ・ 1	・C種 ・D種 ・E種
・屋根用	—	—	・	・	・	図示による	・0.5	※F種
・床用	—	—	・	—	・	図示による	・ 1 ・ 2	

パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材
- ・

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
- ・図示による　・

目地幅　※20mm　・

外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填
- ・適用する　・適用しない

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木 昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日	2025 年 9 月　日
図面名称	建築工事新営特記仕様書（２）	縮尺	
		図面番号	A ― 02

8 押出成形セメント板工事 / コンクリートブロック・ALCパネル

4. 押出成形セメント板

ECPの種類等 (8.5.2～5)(表8.5.1～2)

パネルの種類	形状	長さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
外壁パネル	・F ・D ・T	・50・60・ ・50・60 ・60	※600 ・	・A種　・B種	
間仕切壁パネル	・F ・D ・T	・50・60・ ・50・60 ・60	※600 ・	・A種　・B種	

(注) F:フラットパネル、D:デザインパネル、T:タイルベースパネル

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
・図示による　・
パネル相互の目地幅
・長辺(　　)　短辺(　　)
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm)
※15程度　・
耐火構造以外の目地及び隙間の処理
※パネルの製造所の仕様　・

9 防水工事

1. アスファルト防水

屋根保護防水 (9.2.2～5)(表9.2.3～9)
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート
・A-1			※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70g/㎡程度 ・
・A-2			
・A-3			
・B-1			
・B-2			
・AI-1		(種類) ※JIS A 9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スキン層付き) (厚さ)(mm) ・	※フラットヤーンクロス 70g/㎡程度 ・
・AI-2			
・AI-3			
・BI-1			
・BI-2			

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3及び表9.2.4による　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5及び表9.2.6による　・

平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ　※水下　80mm以上　・
床タイル張り　※水下　60mm以上　・
立上り部の保護工法
・乾式保護材(品質・性能、試験方法は別表による)
窯業系パネルⅠ類　厚さ(　)mm　幅(　)mm
・れんが押え(※JIS R 1250　・　)
・コンクリート押え
・モルタル押え(屋内)

屋根露出防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
・D-1			・アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	・アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・
・D-2				
・DI-1		標準仕様書9.2.2(9) (種類) ・ (厚さ)(mm) ・		
・DI-2				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.8による　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.7及び表9.2.8による　・
絶縁断熱工法のルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※図示による　・
絶縁工法及び絶縁断熱工法のだっき装置の種類及び設置数量
種類
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・
設置数量
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・(　)個

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

保護層
・設ける(※図示による　・　)
・設けない
E-1の工程３を行う部位
※貯水槽、浴槽等常時水に接する部位
・
防水層の下地の立上り
※コンクリート打放し立上り部の保護工法　標準仕様書表6.2.4のB種
・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度
・
防水層の下地のモルタル塗り
・適用する(施工範囲　※図示による　・　)
・適用しない
屋上排水溝　※図示による　・

9 防水工事

2. 改質アスファルトシート防水

屋根露出防水 (9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1～3)
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	防湿用シート	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	備考
・AS-T1				・改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・	※改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・	
・AS-T2						
・AS-T3						
・AS-T4						
・AS-J1						
・ASI-T1		標準仕様書(9.3.2(3)(ｳ)) (種類) ・ (厚さ)(mm) ・	・設ける(改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様) ・設けない			
・ASI-J1						

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3及び表9.2.4による　・
粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5及び表9.2.6による　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5及び表9.2.6による　・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度
・
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・
設置数量
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・(　)個

3. 合成高分子系ルーフィングシート防水

(9.4.2～4)(表9.4.1～3)
防水層の種別

種別	施工箇所	可塑剤移行防止ｼｰﾄの材質	断熱性	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	備考
・S-F1				※カラー・シルバー		
・S-F2						
・S-M1				※カラー・シルバー		
・S-M2						
・SI-F1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(b)	※カラー・シルバー		
・SI-F2						
・SI-M1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(a)	※カラー・シルバー		
・SI-M2		※発泡ポリエチレンシート ・				

S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様
※非歩行仕様　・軽歩行仕様
SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルム
・設置する　・設置しない

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場の保護モルタル塗厚	保護層 立上り部の保護モルタル塗厚
・S-C1		・	※7mm以下 ・

合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.4.1～表9.4.2による　・
固定金具の材質、形状及び寸法
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した銅板、ステンレス銅板又はそれらの銅板の両面に樹脂を積層加工したもの
・
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類　※ルーフィングシートの製造所の仕様
・
設置数量　※ルーフィングシートの製造所の仕様
・(　)個
接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
・行う(・図示による　・　)
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り(種別S-F1、SI-F1の場合)
・行う(・図示による　・　)
・行わない

4. 塗膜防水

(9.5.3)(表9.5.1、2)
防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	保護層	備考
・X-1		※カラー・シルバー			
・X-2		※カラー・シルバー			
・Y-1	※地下外壁防水 ・				
・Y-2	※屋内防水 ・			・適用する ・適用しない	

ウレタンゴム系塗膜防水X-1の脱気装置の種類及び設置数量
種類　※主材料の製造所の仕様
・
設置数量　※主材料の製造所の仕様
・(　)個

9 防水工事

5. ケイ酸質系塗布防水

(9.6.4)(表9.6.1)
防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・C-SUI		・C-SUP	

防水層の下地
壁　※コンクリート打放し仕上げ(表6.2.4 B種)
・
天井部　※コンクリート打放し仕上げ(表6.2.4 B種)
・
下地処理(コンクリートの打継ぎ箇所の処理)
※打継ぎ部分に対し、幅30mm程度の目地棒を用いる。目地棒の除去後、水洗い清掃し、ケイ酸質系塗布防水材の製造所の仕様により、ポリマーセメントモルタルを充填する。
・図示による　・

⑥ シーリング

(9.7.2)(9.7.3)(9.7.5)(表9.7.1)
下表以外は、標準仕様書表9.7.1による。
ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による。

施工箇所	シーリング材の種類(記号)

仕上げを行わない施工箇所(・図示による　・　)
シーリング材の目地寸法
※標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による
・図示による　・
接着性試験
※簡易接着性試験　・引張接着性試験

7. 防水保証

アスファルト防水、改質アスファルトシート防水及び合成高分子系ルーフィングシート防水の保証期間は、引渡し日より１０年間とし、メーカー・施工業者との連名の上、保証書を提出する。
塗膜防水及びケイ酸質系塗布防水については、メーカー・施工業者が通常定めている期間とし、保証書を作成し提出する。

13 屋根及びとい工事

1. 長尺金属板葺

(13.2.2、3)

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性の種類、めっき付着量	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322 の屋根用 (着色　・有)	・5類 (AZ150) ・	※0.4 ・0.5 ・	※心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・鎌掛葺 ・横葺 ・	

下葺材料
・アスファルトルーフィング 940
・改質アスファルトルーフィング下葺材
(・一般タイプ　・複層基材タイプ　・粘着層付タイプ)
横葺きの場合のけらば納め
・つかみ込み納め　・けらば包み納め
雪止め
・設置する　(形状及び施工箇所　・図示による　・　)
・設置しない

2. 折板葺

(13.2.2)(13.3.2)(表13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分 山高	山ﾋﾟｯﾁ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かな合形			(　)種	※鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製		・有り ・無し	・30分 ・無し

材料
折板の材質の種類(※JIS G 3302の屋根用(着色 ・有)　・　)
塗膜の耐久性の種類、めっき付着量(・5類(AZ150)　・　)
断熱材張り
・行う　(断熱材の種別：　厚さ(mm)：　防火性能：　)
・行わない
耐雪性能に対応した工法の適用
・適用する　・適用しない
折板のけらば納め
※けらば包みによる方法
雪止め
・設置する　(形状及び施工箇所　・図示による　・　)
・設置しない

3. 粘土瓦葺

(13.4.2、3)

施工箇所	種類 製法による区分	種類 形状による区分	種類 寸法による区分	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
						・適用する ・適用しない
						・適用する ・適用しない

13 屋根及びとい工事

4. とい

といその他の材種 (13.5.2、3)(表13.5.4)
・配管用鋼管
・硬質ポリ塩化ビニル管
・ルーフドレン
・表面処理鋼板(表面及び裏面の塗膜の種類　・　)
・
とい受金物
材種
※標準仕様書表13.5.2による　(溶融亜鉛めっきを行ったもの)
・
形状
※市販品(とい径 100 以下)
・25×4.5(mm)以上(とい径 100 を超えるもの)
・
取付け間隔
※標準仕様書表13.5.2による
・
足金物
材種
※標準仕様書表13.5.2による　(溶融亜鉛めっきを行ったもの)
・
形状
※市販品　・
取付け間隔
※標準仕様書表13.5.2による
・
多雪地域
・適用する　・適用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
鋼管製といの防露巻き
※標準仕様書表13.5.4による
・
ルーフドレンの種類及び呼び

種別		呼び	施工箇所
※ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80　・100 ・125　・150	
・ろく屋根用横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80　・100 ・125　・150	
・バルコニー中継用	・ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	
・バルコニー用	・ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	

14 金属工事

1. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.1)(表 14.2.1)

種類	色合い等	施工箇所(成形板、笠木、建具以外)
・AB-1種		
・AB-2種	・標準色 ・特注色	
・AC-1種		
・AC-2種	・標準色 ・特注色	
・BA-1種		
・BA-2種	・標準色 ・特注色	
・BB-1種		
・BB-2種	・標準色 ・特注色	
・BC-1種		
・BC-2種	・標準色 ・特注色	
・C種	・標準色 ・特注色	

陽極酸化皮膜の着色方法
※二次電解着色
・三次電解着色

2. 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.2)(表 14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所(手すり、タラップ以外)
・溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
・電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

3. 軽量鉄骨天井下地

(14.4.2～4)(表14.4.1)
野縁等の種類
屋外
※25形　・19形
屋内
※19形　・25形
屋外の形式及び寸法
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔　・図示による　・
周辺部の端からの間隔　・図示による　・
野縁の間隔　・図示による　・
・つりボルトの間隔が900mmを超える場合
(補強方法　※図示による　・　)
・天井のふところが3.0mを超える場合
(補強方法　※図示による　・　)
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
(補強箇所　※図示による　・　)
(補強方法　※図示による　・　)
・屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強
(補強箇所　※図示による　・　)
(補強方法　※図示による　・　)

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日 2025 年 9 月　日
図面名称	建築工事新営特記仕様書（３）	縮尺
		図面番号 A ― 03

14 金属工事

4．軽量鉄骨壁下地

(14.5.3、4)(表14.5.1)

スタッド、ランナの種類
※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示による
・
スタッドの高さが5.0mを超える場合
※図示による　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※標準仕様書14.5.4.(5)による
・

5．金属成形板張り

(14.6.2、3)(表14.2.1)

種別	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理 種別	表面処理 色合い等
・アルミニウム	・押出し ・ロール ・プレス ・	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形				
		パネル形				

取付け用下地
※標準仕様書14.4による
・図示による
伸縮調整継手
・設ける
（施工箇所　・図示による　・　　）
・設けない

6．アルミニウム製笠木

(14.7.2、3)(表14.2.1)(表14.7.1)

種類
・250形　・300形　・350形
表面処理
種別（　　）種
色合等　・標準色（　　）　・特注色（　　）

⑦ 手すり及びタラップ

(14.8.2)(14.8.3)

	材料の種別	表面処理の種別
手すり	※　ステンレスSUS304	HL仕上程度
	・　鋼　製	亜鉛めっきの場合表14.2.2のC種
タラップ	※　ステンレスSUS304	外部HL仕上程度，内部No.2B仕上程度
	・　鋼　製	亜鉛めっきの場合表14.2.2のC種

15 左官工事

1．モルタル塗り

(15.3.2、5)

モルタル
・現場調合材料
・既調合材料
既製目地材
・設ける
施工箇所（　　）　形状（※図示による　・　　）
・設けない
床の目地
・設ける
目地割り
※2㎡程度（最大目地間隔3m程度）
・
目地の種類
※押し目地
・
・設けない
屋外のタイル張り下地及び屋内の吹抜け部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
・適用する　・適用しない

2．ラス系下地

(15.2.4)

ラス系下地
・二層下地通気構法
・単層下地通気構法
換気口部の措置　（※公共木造建築工事標準仕様書11.4.3.(2)(ｹ)　・　）
・直張りラスモルタル下地
・直張りラスシートモルタル下地
ラスの材料
種類及び記号　（　　）
単位面積当たりの質量（　　）
ラスシートの材料
ラス目による区分（※M　・　　）
山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分
（・LS4(建築基準法に基づく耐力壁)　・　　）
ステープルの形状及び寸法（　　）
直張りラスシートモルタル下地で建築基準法に基づく耐力壁のラスシートの施工

3．せっこうボード その他のボード下地

(15.2.5)

せっこうボード及びせっこうラスボードの種類及び厚さ
種類（・GB-R　・GB-L　・　　）　厚さ（　　mm）
木質系セメント板の種類及び厚さ
種類（・　　）　厚さ（　　mm）

4．こまい下地

建築基準法に基づく耐力壁の指定（・あり　・なし）　(15.2.6)

5．木ずり下地

木ずり用小幅板の種類（※すぎ(心去り材)　・　　）　(15.2.7)

6．仕上塗材仕上げ

(15.6.2)

内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
・

仕上塗材の種類
・薄付け仕上塗材

15 左官工事

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
・外装薄塗材Si	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り		
・可とう形外装塗材Si	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ローラー塗り		
・外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り		
	・着色骨材砂壁状	・吹付け ・こて塗り		
・可とう形外装塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り		
・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り	・適用する	・
	・凹凸状	・吹付け		
・外装薄塗材S	・砂壁状	・吹付け	・適用する	・
・内装薄塗材C ・内装薄塗材L	・凹凸状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り		
・内装薄塗材Si ・内装薄塗材E	・砂壁状じゅらく ・ゆず肌状	・吹付け		
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り		
・内装薄塗材W	・京壁状じゅらく ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		

・厚付け仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	吸放湿性	上塗り	防火材料
・外装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り			
・外装厚塗材Si ・外装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ローラー塗り			
・内装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り			
・内装厚塗材L	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り	・適用する	・適用する	・
・内装厚塗材G	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り	・適用する	・適用する	・
・内装厚塗材Si ・内装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ローラー塗り			

・複層仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料
・複層塗材CE ・複層塗材RE ・複層塗材Si ※複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	※ゆず肌状	※ローラー塗り			
・可とう形複層塗材CE	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	・ゆず肌状	・ローラー塗り			
・防水形複層塗材CE ・防水型複層塗材RE ・防水形複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	・ゆず肌状	・ローラー塗り			

16 建具工事

1．防火戸

※建具表による　(16.1.3)
・

2．見本の製作等

建具見本の製作　・行う（建具符号：　　）　(16.1.4)
※行わない
建具見本製作の目的等
・
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　　）
※行わない

3．防犯建物部品

・適用する（・建具表による　・　　）　(16.1.6)
※適用しない

4．アルミニウム製建具

性能値等　(16.2.2、4、5)(表14.2.1)(表16.2.1、2)
耐風圧性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
気密性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
水密性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
外部に面する建具の種別
・A種（建具符号　・建具表による　・　　）
・B種（建具符号　・建具表による　・　　）
・C種（建具符号　・建具表による　・　　）
・D種（建具符号　・建具表による　・　　）
・E種（建具符号　・建具表による　・　　）
枠の見込み寸法（※建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（　　）
（建具符号：・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面処理
外部に面する建具
種別
※BB-1　・BB-2　（標準仕様書表14.2.1）
着色
※標準色　・特注色
屋内の建具
種別
※BC-1　・BC-2　（標準仕様書表14.2.1）
着色
※標準色　・特注色
結露水の処理方法
・水貯め式　・排水式
工法
水切り板、ぜん板
※図示による
木下地の場合の内付け建具
・適用しない　・適用する

5．網戸等

(16.2.3)

種類	材質	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

6．樹脂製建具

性能値等　(16.2.5)(16.3.2～5)(表16.3.1～3)
耐風圧性の等級（　　）
気密性の等級　（　　）
水密性の等級　（　　）
外部に面する建具の種別
・A種（建具符号　・建具表による　・　　）
・B種（建具符号　・建具表による　・　　）
・C種（建具符号　・建具表による　・　　）
・D種（建具符号　・建具表による　・　　）
・E種（建具符号　・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・T-1　・T-2）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（・H-4　・H-5　・H-6　・H-7　・H-8）
（建具符号　・建具表による　・　　）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級　・
枠の見込み寸法　※建具表による　・
材料
ガラス
※複層ガラス（組合せは建具表による）
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面色　・標準色　・特注色
工法
水切り板、ぜん板　※図示による　・
木下地の場合の内付け建具　・適用しない　・適用する

16 建具工事

7．鋼製建具

性能値等　(16.2.2)(16.4.2～4)(16.4.6)(表16.4.2)
簡易気密型ドアセット
※適用する
（建具符号　・建具表による　・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級　（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）

材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ
※標準仕様書表16.4.2による
・　使用箇所（　　）
標準型鋼製建具の形式及び寸法
※建具表による　・

8．鋼製軽量建具

性能値等　(16.2.2)(16.5.2～4)(16.5.6)(表16.5.1)
簡易気密型ドアセット
※適用する
（建具符号　・建具表による　・　　）
・適用しない
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）

材料
鋼板
・亜鉛めっき鋼板
・ビニル被覆鋼板
・カラー鋼板
・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・
召合わせ、縦小口包み板の性質
※鋼板　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ（mm）
※標準仕様書表16.5.1による
・
使用箇所（　　）
標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法
※建具表による　・

9．ステンレス製建具

性能値等　(16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)
簡易気密型ドアセット
※適用する
（建具符号　・建具表による　・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級　（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面仕上げ
※HL　・鏡面仕上げ
工法
ステンレス鋼板の曲げ加工
※普通曲げ
・角出し曲げ（b角（切込み後の残り板厚0.75mm、裏板補強有り））
・角出し曲げ（c角（切込み後の残り板厚1.0mm））

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木 昌善

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日 2025 年 9 月　日
図面名称	建築工事新営特記仕様書（４）	縮尺
図面番号	A ― 04	

16 建具工事

10. 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率 (16.7.2～4)
※A種 ・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

・フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等
※標準仕様書16.7.2(2)(イ)(a)による
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板	表面の樹種 ・ 板面の品質（※広葉樹1等 ・ ） 接着の程度（・1類 ・2類 ）	
・天然木 化粧合板	樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類 ）	
・特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 ・ 接着の程度（・1類 ・2類 ）	
・MDF		

表面板の厚さ
※表16.7.6による ・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用
・適用しない ・適用する
・かまち戸
かまち樹種（ ） 鏡板樹種（ ）
見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型 ・Ⅱ型）
上張り（押入等の裏側以外）
・鳥の子
※新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ
・塗り縁
・生地縁（素地）
・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法 ※19.5mm ・建具表による ・
・戸ぶすま
表面板の仕上 ・建具表による
見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・
・紙張り障子
見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・

枠、くつずりの材料
・建具表による ・

⑪. 建具用金物

金物の種類及び見え掛り部の材質等 (16.8.2、3)(表16.8.1～5)
※標準仕様書16.8.1により適用は建具表による
・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書表16.8.2による
・建具表による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書16.8.3による
・建具表による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書16.8.4による
・建具表による
木製建具に使用する戸車及びレール
※標準仕様書16.8.5による
・建具表による
握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置
・建具表による
・

⑫ 鍵

マスターキー (16.8.4)
・製作する ・製作しない
鍵の製作本数
※各室3本1組（室名札付き） ・
鍵箱
※有り ・無し

⑱ ガラス

(9.7)(16.14.2～4)(図16.14.1)
・フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類
※建具表による
・

・型板ガラスの厚さによる種類
※建具表による
・

・網入板ガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
※建具表による
・

・合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
※建具表による
・
落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類 ・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類

・強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称
※建具表による
・
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類 ・Ⅲ類

・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
※建具表による
・
性能による種類
・1種 ・2種

・複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
※建具表による
・
断熱性による区分
・T1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6
日射取得性及び日射遮蔽性による区分
・G ・S
乾燥気体の種類
・空気 ・アルゴン

・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※建具表による
・
日射熱遮へい性による区分
・1種 ・2種 ・3種
耐久性による区分（日射熱遮蔽性による区分が2種の場合）
・A類 ・B類

・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※建具表による
・

ガラスの留め材及び溝の大きさ (16.14.2)(9.7)

建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	※シーリング材 ・グレイジングチャンネル ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
ステンレス製	※シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
樹脂製	・グレイジングガスケット ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・

18 塗装工事

1. 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 (18.1.3)
※F☆☆☆☆ ・
防火材料
※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・以下の箇所を除き防火材料とする。
（箇所： ）

2. 素地ごしらえ

(18.2.2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・B種
	透明塗料塗りの場合	※B種 ・A種
鉄鋼面（DP以外 ）		※C種 ・A種 ・B種
鉄鋼面（DPのみ）		※B種 ・A種 ・C種
亜鉛めっき鋼面		・A種 ・B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		※B種 ・A種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※B種 ・A種
押出成形セメント板面		※B種 ・A種
コンクリート面（DPのみ）		※A種 ・B種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※A種 ・B種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	※B種 ・A種

3. 錆止め塗料塗り

(18.3.2、3)

下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP	A種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
	DP	C種及びD種	表18.3.4
	EP-G	※B種 ・A種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
	SOP	※A種 ・B種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種
亜鉛めっき鋼面	DP	B種	表18.3.6
	EP-G	C種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種

16 建具工事

4. 塗装

(18.4.1～18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種 ・B種	―
	木部屋内	※B種 ・A種	
	鉄鋼面	※B種 ・A種	
	亜鉛めっき鋼面	―	
・クリヤラッカー塗り(CL)		※B種 ・A種	―
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		※B種 ・A種	―
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	―	上塗り塗料の等級(　)級
	亜鉛めっき鋼面	―	上塗り塗料の等級(　)級
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種 ・B種 ・C種	―
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 ﾓﾙﾀﾙ面 ﾌﾟﾗｽﾀｰ面 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面 その他ﾎﾞｰﾄﾞ面等	※B種 ・A種	―
	屋内の鉄鋼面 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面	※B種 ・A種	―
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種 ・A種	―
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種 ・A種	―
・ステイン塗り		・ピグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り(OS)	―
・木材保護塗料塗り(WP)		※B種 ・A種	―

クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用
・適用しない
・適用する(着色剤：・溶剤形着色剤 ・油性染料着色剤)
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用
・適用する
・適用しない
オイルステイン塗りの工程等
・

20 ユニット及びその他の工事

1. フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構法	寸法（mm）	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上材
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ※0.6G	・3,000N ・5,000N ・	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・

寸法精度
※標準仕様書20.2.2(2)(オ)(a)～(c)による
・以下による
パネルの長さの寸法精度
（ ）
パネルの平面形状（角度）の寸法精度
（ ）
フリーアクセスフロアの高さの寸法精度
（ ）
帯電防止性能
・評価値（U）≧0.6以上
・評価値（U）≧1.2以上

2. 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類 スﾀｯﾄﾞ	構成基材の種類 ﾊﾟﾈﾙ	パネル表面仕上げ	遮音性(dB/500Hz)	防火性能
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式			・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又はｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・壁紙張り ・	・0 ・12 ・20 ・28 ※36	※不燃

パネル内に取付ける建具
・有り（※図示による ・ ）
・無し
パネル内に取り付ける建具のドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。
パネル材料のホルムアルデヒド放出量
※F☆☆☆☆ ・

3. 移動間仕切

(20.2.4)

走行方向	操作方法による種類	パネル圧接装置の操作方法	総厚さ(mm)	パネル表面材 材質	パネル表面材 仕上げ	遮音性(dB/500Hz)
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ﾌﾟｯｼｭ式 ・ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ※36以上

パネル表面仕上げ材の壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する
・図示による
パネルをランナーに取り付ける部品
※ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
・
ハンガーレール及びランナー
※パネル重量の5倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの
・

20 ユニット及びその他の工事

④. トイレブース

(20.2.5)

表面材の材料	脚部 種類	ドアエッジ 材質
※メラミン樹脂系化粧板（標準色） ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・	※幅木タイプ ・	※製造所の仕様による ・アルミニウム製 ・ステンレス製

⑤. 手すり

材料の種類及び仕上げ (20.2.6)
・SUS304 表面処理 ※HL程度
・鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書表14.2.2による種別（ ）種）
・アルミニウム 表面処理
（※標準仕様書表14.2.1による種別（ ）種）
色合い ・標準色（ ） ・特注色（ ）

手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材（材種： ）	・クリアラッカー ・	・35程度 ・45程度 ・		
・ビニル製		・35程度 ・45程度 ・		

6. 階段滑り止め

材種 (20.2.7)
※ステンレス製
・黄銅製押出型材
・アルミニウム製押出型材
・
形状
※タイヤ型(タイヤの材質：ゴム又は合成樹脂合等)
・タイヤレス型
寸法(幅)
・35mm程度 ・40mm程度 ・50mm程度
取付け工法
※接着工法
・埋込み工法

7. 黒板及びホワイトボード

・黒板 (20.2.9)
区分
※焼き付け ・
種類
※鋼製黒板
・ほうろう黒板
・
色
※緑 ・
・ホワイトボード

⑧. 鏡

取付け箇所（ ） (20.2.10)
寸法（mm）
・図示による ・
厚さ（mm）
※5 ・

⑨. 表示

衝突防止表示 (20.2.11)
・設置する （設置場所：※図示による ・ ）
形状・寸法（※30φ ・ ）
材質 （※ステンレス製 ・ ）
・設置しない
誘導標識、非常用進入口等の表示
※消防法に適合する市販品 ・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
(案内用図記号はJIS Z 8210による)
※図示による

10. タラップ

材質及び仕上げ (20.2.12)
・SUS304（スリップ止め加工 ※あり ・なし ）
・鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書表14.2.2による種別（※C種 ・ 種））

11. 煙突ライニング

適用安全使用温度 (20.2.13)
・
工法
※鋼製ユニット煙突(煙突用成形ライニング材)
・

12. ブラインド

(20.2.14)

形式	操作方法	操作方法の種類	ｽﾗｯﾄの種類	ｽﾗｯﾄ幅	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	幅・高さ 取付箇所
・横形	・手動	※ギヤ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・操作棒式	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	※25 ・	※鋼製 ・	・図示による ・
	・電動	―				
・縦形	・手動	※2本操作ｺｰﾄﾞ式 ・1本操作ｺｰﾄﾞ式	・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ ・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	・80 ・100	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	・図示による ・
	・電動	―				

縦型ブラインドのスラットの材質
・アルミスラット 焼付け塗装仕上げ
・クロススラット 消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号 佐々木 昌喜

工事名称	令和８年度 台山公園トイレ改築工事	設計年月日 2025 年 9 月 日
図面名称	建築工事新営特記仕様書（５）	縮尺 / 図面番号 A ― 05

20 ユニット及びその他の工事

13. ロールスクリーン

(20.2.15)

操作方法	スクリーンの材種	その他の材料	幅・高さ取付箇所	品質等
・スプリング式 ・コード式 ・電動式	・ガラス繊維製 ・合成・天然繊維製 ・木製	※製造所の仕様	・図示による ・	・

スクリーンの仕様
　消防法で定める防炎性能の表示があるもの

14. カーテン

(20.2.16)

形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付け箇所
・ｼﾝｸﾞﾙ ・片引き ・ﾀﾞﾌﾞﾙ ・引分け	※手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・ﾌﾟﾚｰﾝひだ		・図示による ・

生地の仕様
　消防法で定める防炎性能の表示があるもの
暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり
　※300mm以上
　・

15. カーテンレール

材料による区分　(20.2.16)
　・アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
　※ステンレス製
強さによる区分
　※10-90　・
仕上げ
　※アルマイト　・
形状
　※角形　・

16. ブラインドボックス及びカーテンボックス

材種
　・集成材（仕上げ：　　）
　※アルミニウム製　押出し型材（市販品）
　　標準仕様書表14.2.1による種別
　　※BC-1種　・BC-2種
　　色合い
　　・標準色（　　）　・特注色（　　）
　・鋼製（仕上げ：　　）

17. 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※アルミニウム製 ・	※450×450 ・600×600 ・	・一般形	・屋内外用 ・屋内用	・額縁タイプ ※目地タイプ	・額縁タイプ ※目地タイプ
		・気密形			

⑱. 床点検口

材種	寸法	形式		備考
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ※600×600 ・	※一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。

19. 耐震スリット

方向	幅(mm)	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直	・25 ・	・完全（全貫通型） ・	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	
・水平	・25 ・				

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・シーリング材(見え掛かり部のみ) ・	・シーリング材(見え掛かり部のみ) ・シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	・スリット幅×深さ10 ・	・スリット幅×深さ10 ・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による

⑳. 止水板

形式
　・差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所
　・図示による　・

21. くつふきマット

材種	受け枠	備考
※塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼（SUS304）製 ・	※ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金 ・	

㉒. 目隠しﾌｪﾝｽ

主要材種
　※アルミニウム製　押出し型材（市販品）
　高さ1,800　幅2,000
施工箇所
　⊙図示による
　四国化成　TAF10型　同等品

21 排水工事

1. 屋外雨水排水

材料　(21.2.1、2)(表 21.2.1、2)

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管（1種） ・	・B形管 ・	・図示による ・	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・RS-VU		・図示による ・	
	・VP		・図示による ・	
	・VU		・図示による ・	

基床の厚さ及び種類
　・図示による　・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料
　※接着剤　・
側塊の形状及び寸法
　・図示による　・
排水桝の種類
　・図示による　・
砂地業に用いる材料
　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
　・再生クラッシャラン
　・切込砂利又は切込砕石
・現場打ちの場合のコンクリート材料
　設計基準強度(N/mm2)
　　※18　・
　スランプ(cm)
　　※15又は18　・
・現場打ちの場合の鉄筋
　種類の記号
　　※SD295　・
・排水桝が現場打ちの場合の足掛け金物
　　※標準仕様書21.2.2(6)(ｵ)
　　材質
　　・ステンレス製
　　・鋼製
　　・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層に用いる材料
　・
　（砂を用いる場合の粒度試験）
　・行う　・行わない

2. 鋳鉄製ふた

(21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形（ﾊﾞｯｷﾝ式） ・密閉形（ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾞｯｷﾝ式） ・中ふた付き密閉形（ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾞｯｷﾝ式） ・	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用	・有り ・無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会SHASE-S209による。

3. グレーチング

(21.2.1)

材質	形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ
※鋼製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・細目 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目
・ｽﾃﾝﾚｽ製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・

④. 街きょ、縁石及び側溝

街きょ、縁石、側溝　(21.3.1、2)(表21.3.1)

種類	形状・寸法
・縁石	・図示による　・
・L形側溝	・図示による　・
・U形側溝	・図示による　・
・U形側溝ふた	・図示による　・
・	・図示による　・

砂地業に用いる材料
　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
　※再生クラッシャラン　・切込砂利又は切込砕石
砂利地業の厚さ（mm）
　※100　・図示による

・現場打ちの場合のコンクリート材料
　設計基準強度（N/mm2）
　　※18
　スランプ（cm）
　　※15又は18
・現場打ちの場合の鉄筋
　種類の記号
　　※SD295
凍上抑制層に用いる材料
　・
　（砂を用いる場合の粒度試験）
　・行う　・行わない

⑤. 埋戻し土

※B種　・　(21.2.1)

22 舗装工事

① 路床

路床の材料　(22.2.2、3、5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　※B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土	・図示による ・
・凍上抑制層	※再生クラッシャラン ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂（標準仕様書表21.2.2による）	・図示による ・
・フィルター層	標準仕様書22.2.3.(3)による	・図示による ・

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験 ）
　・行う
　※行わない
・路床安定処理
　安定処理の方法
　　・置き換え工法
　　・安定処理工法
　路床安定化処理用添加材料
　　種類
　　※普通ポルトランドセメント
　　・高炉セメントB種
　　・フライアッシュセメントB種
　　・生石灰（・特号　・1号）
　　・消石灰（・特号　・1号）
　　添加量
　　・　kg/m3（CBR　・3以上　・　）
・ジオテキスタイル
　単位面積質量
　　・60g/㎡以上　・
　厚さ(mm)
　　・0.5～1.0　・
　引張強さ
　　・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・
　透水係数
　　・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・

試験
　路床土の支持力比（CBR）試験
　　・行う　※行わない
　路床締固め度の試験
　　※行う　・行わない
　現場CBR試験
　　・行う　・行わない

② 路盤

(22.3.2、3)(表 22.3.1)

路盤の厚さ
　・図示による　・
路盤材料（標準仕様書表22.3.1による種別）
　・クラッシャラン
　・粒度調整砕石
　※再生クラッシャラン
　・再生粒度調整砕石
　・クラッシャラン鉄鋼スラグ
　・粒度調整鉄鋼スラグ
　・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

③. アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ　(22.4.2～6)(表 22.4.4)
　※図示による　・
材料
　アスファルト
　　・再生アスファルト
　　（標準仕様書表22.4.1による種類：　・60～80　・80～100）
　　・ストレートアスファルト
　骨材
　　・道路用砕石
　　・アスファルトコンクリート再生骨材
　加熱アスファルト混合物等の種類
　　・密粒度アスファルト混合物(13)
　　・細粒度アスファルト混合物(13)
　　・密粒度アスファルト混合物(13F)
舗装の平たん性
　※通行の支障となる水たまりを生じない程度
　・
試験
　アスファルト混合物等の抽出試験
　　・行う
　　※行わない

22 舗装工事

4. コンクリート舗装

コンクリート舗装の構成及び厚さ　(22.5.2～4、6)(表22.5.1、3)

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	車路及び駐車場	・図示による	・図示による　・
	歩行者用通路	・図示による	※70

材料
　コンクリート
　　※普通コンクリート、標準仕様書表22.5.1による
　　・以下による
　　コンクリートの種類（　　）
　　設計基準強度（N/mm2）（　　）
　　所定のスランプ（cm）（※8　・　　）
　　粗骨材の最大寸法（mm）（　　）
　早強ポルトランドセメント
　　・使用する　※使用しない
　注入目地材料
　　※低弾性タイプ
　　・高弾性タイプ
目地
　※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による
　・以下による
　　種類　・
　　間隔　・（　　）m程度ごと
　　構造　・図示による
舗装の平たん性
　※通行の支障となる水たまりを生じない程度
　・

⑤. カラー舗装

・加熱系カラー舗装　(22.6.2～4)
　構成・厚さ
　　・図示による　・
　加熱系混合物の結合材
　　※アスファルト混合物
　　・石油樹脂系混合物　顔料の添加量（　　%）
　添加材
　　着色骨材（　　）
　　自然石　（　　）
・常温系カラー舗装
　工法
　　・ニート工法（配合その他：　　）
　　・塗布工法　（配合その他：　　）
　着色部の下部
　　・アスファルト舗装
　　・コンクリート舗装
　　・
舗装の平たん性
　※通行の支障となる水たまりを生じない程度
　・

6. 透水性アスファルト舗装

舗装の構成　(22.7.2、3、6)
　・図示による　・
材料
　骨材
　　・道路用砕石
　　・アスファルトコンクリート再生骨材
　　（標準仕様書表22.4.1による種類：　・60～80　・80～100）
舗装の平たん性
　※著しい不陸がないもの
試験
　開粒度アスファルト混合物等の抽出試験
　　・行う
　　※行わない

7. ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装　(22.8.2、3)

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
・普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	・300角 ・	※60 ・	※砂 ・ﾓﾙﾀﾙ	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

クッション材
　※砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性
　※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。
　・

・インターロッキングブロック舗装

種類	部位	形状寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm2)	備考
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P) ・保水性ブロック(M)	車路	・図示による ・	※80 ・	※5.0 ・	表面加工 ・
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P) ・保水性ブロック(M)	歩行者用通路	・図示による ・	※60 ・	※3.0 ・	

クッション材
　※砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性
　※歩行に支障となる段差がないものとし、ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ間の段差は3mm以内とする。
　・

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日	2025 年 9 月　日
図面名称	建築工事新営特記仕様書（６）	縮尺	
		図面番号	A ― 06

22 舗装工事

・舗石舗装

種類	形状・寸法（㎜）	厚さ（㎜）	張り方	基層	基層の厚さ（㎜）
・花こう岩 ・	・割石 ・図示による ・	・	・	・ｺﾝｸﾘｰﾄ版 ・ ・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	※70 ・ ※70 ・

クッション材
　※砂　　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性
　※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3㎜以内とする。
　・

・ジオテキスタイル
　単位面積質量
　　・60g/㎡以上　　・
　厚さ(㎜)
　　・0.5～1.0　　・
　引張強さ
　　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　　・
　透水係数
　　・1.5×10^{-1}cm/sec以上　　・

⑧. 砂利敷き

種別　(22.9.2)
　※A種（施工範囲：　・図示による　※通路　・　）
　※B種（施工範囲：　・図示による　※建物周囲その他　・　）

23 植栽及び屋上緑化工事

1．植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度指数（pH）試験　(23.1.3)
　・行う　・行わない
電気伝導度（EC）の試験
　・行う　・行わない

2．植栽基盤の整備

樹木の植栽基盤の整備　(23.2.2、4)
　・適用する　・適用しない

植栽	工法	有効土層の厚さ（㎜）	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 （※100　・120　・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80　・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60　・80） 樹高3m未満 （※50　・60）	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示による ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※20 ・	・植栽部分 ・図示による ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備
　・設ける（※図示による　・　）
　・設けない

3．植込み用土

※現場発生土の良質土　(23.2.3)
・客土

4．土壌改良材

種類及び指定量等　(23.2.3)
　・バーク堆肥
　　施工箇所
　　※植栽範囲　・図示による
　　使用量
　　植栽基盤面積1㎡あたり（・50L　・　）
　・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）
　　施工箇所
　　※植栽範囲　・図示による
　　使用量
　　植栽基盤面積1㎡あたり（・10L　・　）

5．樹木

樹種、寸法、株立数等　(23.3.2)
　※図示による

6．支柱

支柱材　(23.3.2、3)
　※丸太（間伐材）　・真竹
防腐処理方法
　※加圧式防腐処理丸太材
形式
　・図示による　・

7．幹巻き用材料

材料　(23.3.2)
　※幹巻き用テープ　・わら及びこも

⑧. 芝

種類　(23.4.2、3)
　※コウライシバ　・ノシバ
芝張りの工法
　平地
　　※目地張り　・べた張り
　法面
　　※べた張り法面　・目地張り

9．吹付けは種

(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/㎡）	備考
※洋芝類（採取後2年以内）	※発芽率80%以上		
・	・		

10. 地被類

(23.4.2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・	・	・	・

11. 新植、芝等の枯補償、移植樹木の枯損処置

(23.3.4、6) (23.4.7)(23.5.5)
新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の
枯補償の期間
　※引渡しの日から1年　・無し　・
移植樹木の枯損処置を行う期間
　※引渡しの日から1年　・無し　・

12. 屋上緑化

植栽基盤及び材料　(23.5.2～4)
　・屋上緑化システム
　　土壌層の厚さ
　　・図示による　・
　　排水層
　　・軽量骨材（層の厚さ：　）
　　・板状成形品
　　植込み用土
　　※改良土
　　・人工軽量土
　　樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等
　　※図示による　・
　　見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
　　※図示による
支柱
　・設置する
　・設置しない
　形式
　　・図示による
　　・
かん水装置
　・設置する
　・設置しない
　種類
　　・図示による
　　・

24 総揮発性有機化合物（ＴＶＯＣ）測定

1．一般事項

　試料採取および測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」（以下「厚労省の測定方法」という。）の新築住宅の例に準拠して行う。

2．測定対象化学物質

　測定対象化学物質は，下記４ 1），2）の区分に従い，表の①から⑭の１４物質及びＴＶＯＣ又は表の①から⑨の９物質及びＴＶＯＣとする。

3．測定方法

1）　クロマトグラム上で「n-ヘキサン」から「n-ヘキサデカン」までの部分に検出される物質のピーク値を「トルエン」に換算した値をＴＶＯＣ濃度とする。
2）　トルエン換算で 2.0μg/m3 未満のピークは測定の対象としない。
3）　上位１０ピークについて物質を特定して濃度の測定を行う。

表　測定対象化学物質及び室内濃度指針値

化学物質名	室内濃度指針値			
①ホルムアルデヒド	100	μg/m3	0.08	ppm
②トルエン	260	μg/m3	0.07	ppm
③キシレン	200	μg/m3	0.05	ppm
④エチルベンゼン	3,800	μg/m3	0.88	ppm
⑤スチレン	220	μg/m3	0.05	ppm
⑥パラジクロロベンゼン	240	μg/m3	0.04	ppm
⑦テトラデカン	330	μg/m3	0.04	ppm
⑧アセトアルデヒド	48	μg/m3	0.03	ppm
⑨ノナナール	(暫定)41	μg/m3	0.007	ppm
⑩フタル酸ジ-n-ブチル	17	μg/m3	0.0015	ppm
⑪フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	100	μg/m3	0.0063	ppm
⑫クロルピリホス	1	μg/m3	0.00007	ppm
⑬ダイアジノン	0.29	μg/m3	0.00002	ppm
⑭フェノブカルブ	33	μg/m3	0.0038	ppm
⑮総揮発性有機化合物（ＴＶＯＣ）	400	μg/m3	（暫定目標値）	

4．測定する室

1）　１４物質及びＴＶＯＣ濃度を測定する室等
　・　室名：

2）　９物質及びＴＶＯＣ濃度を測定する室
　・　室名：

　・　屋外（周囲の建物から離れた場所１か所）

5．測定結果等報告書の提出

次の事項を記載した報告書を２部提出する。
1）　測定結果（アセトアルデヒドについては，試料採取時の気温が20℃に満たない場合には，「厚労省の測定方法」に定める計算式で20℃，湿度50%に，ホルムアルデヒドについては25℃，湿度50%に補正した濃度を報告すること。）
2）　試料採取時の状況（気温・湿度（屋外，室内），天候、風の状況、日射進入状況，採取年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成から試料採取までの日数）
3）　試料採取方法，測定方法，使用した測定機器
4）　ＴＶＯＣ濃度の算出に使用したクロマトグラムの写し

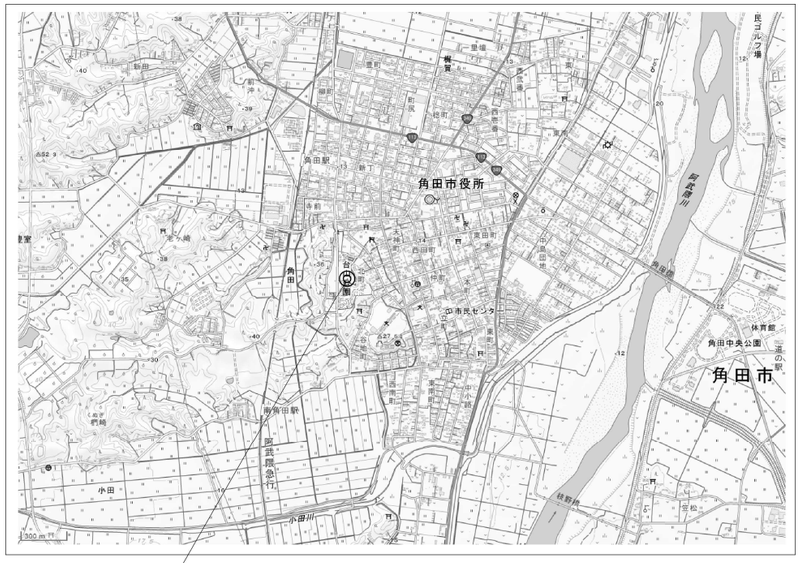
6．その他

　表の化学物質①から⑤のうち，いずれかの物質の濃度が室内濃度指針値を超える場合は，工事目的物の引渡しを受けない。
　ＴＶＯＣの測定の結果，暫定目標値を超える場合は，発生原因の究明及び汚染物質の発生を低減するための対策について，協議を行うこと。

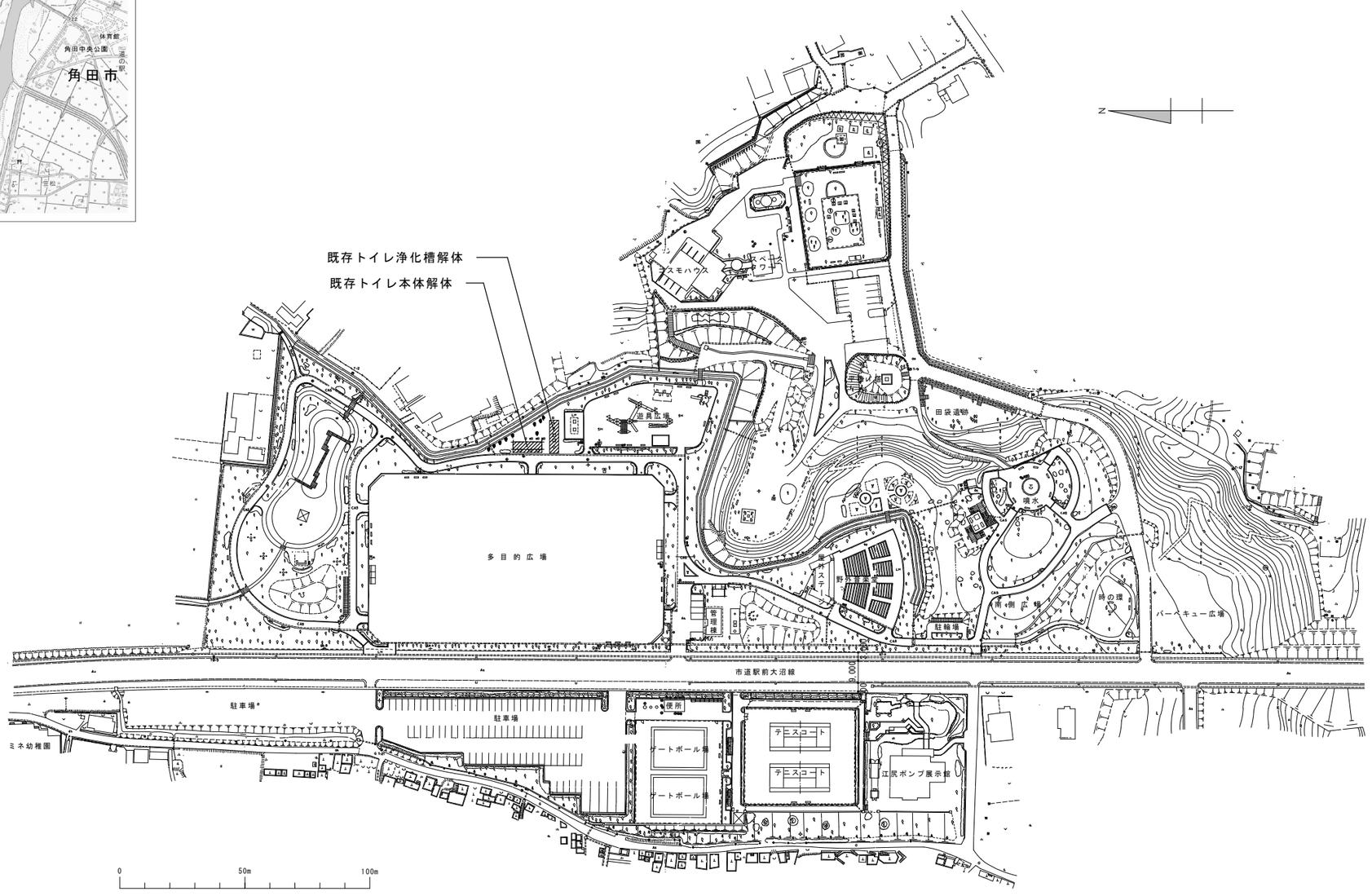
特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木 昌善

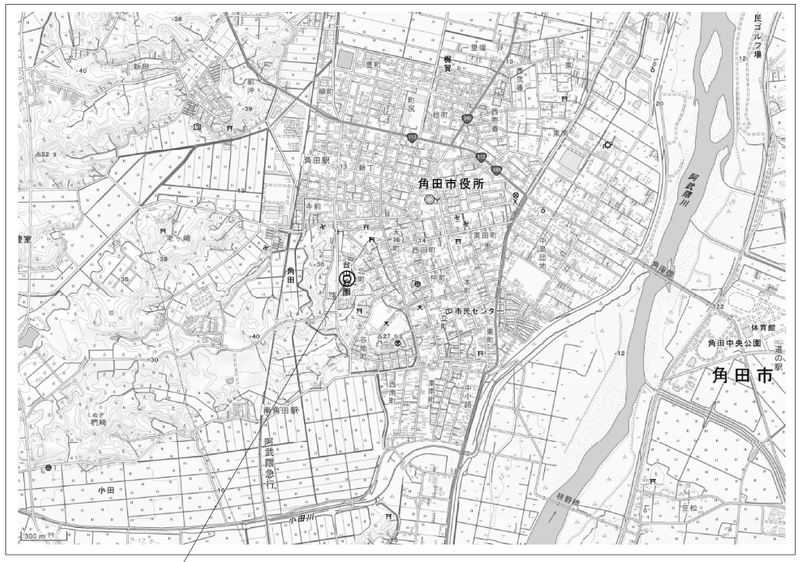
工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事		設計年月日 2025 年 9 月　日
図面名称	建築工事新営特記仕様書（７）	縮尺	図面番号 A ― 07

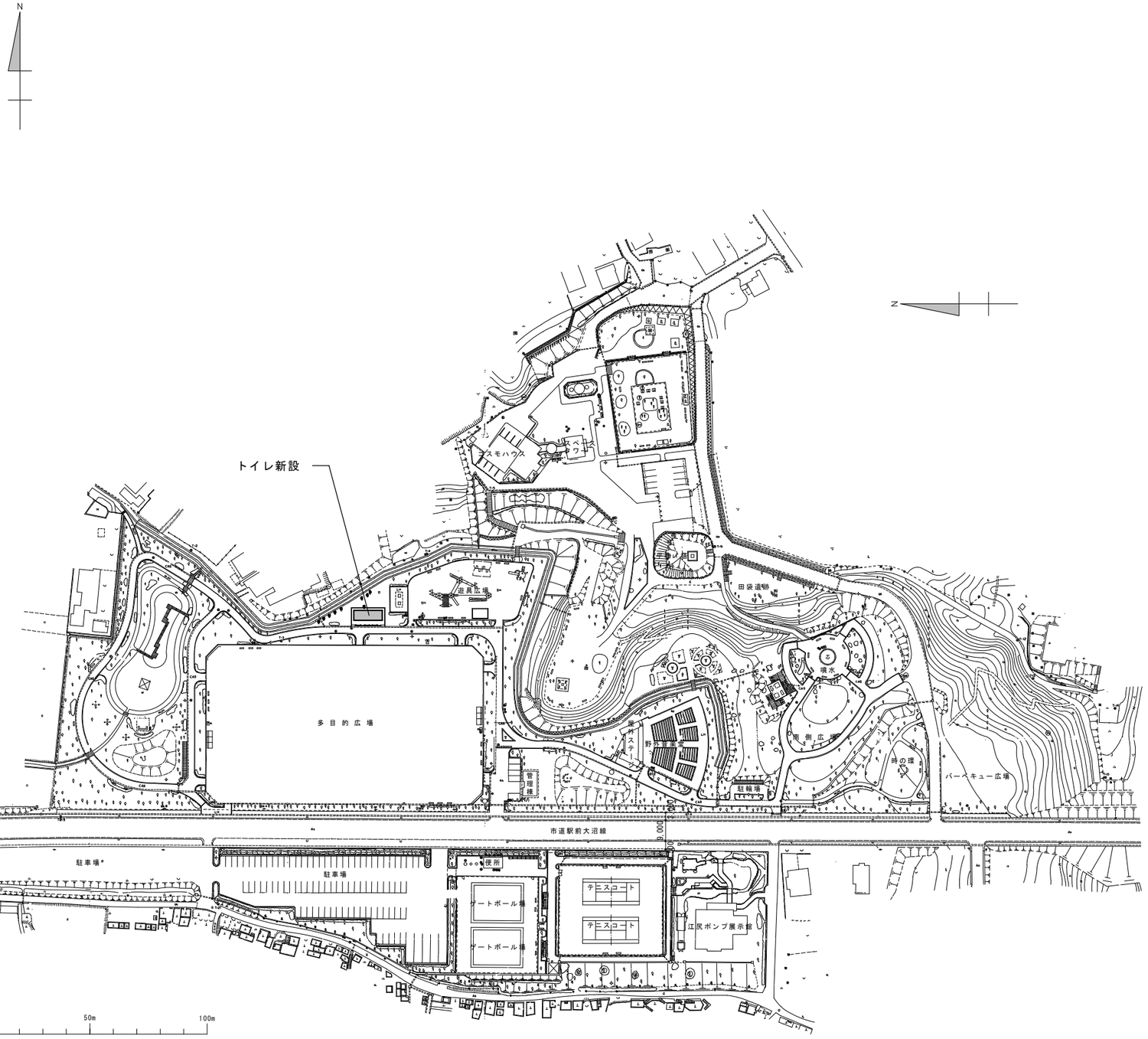


工事場所：角田市台山公園（角田市角田字寺前地内外）



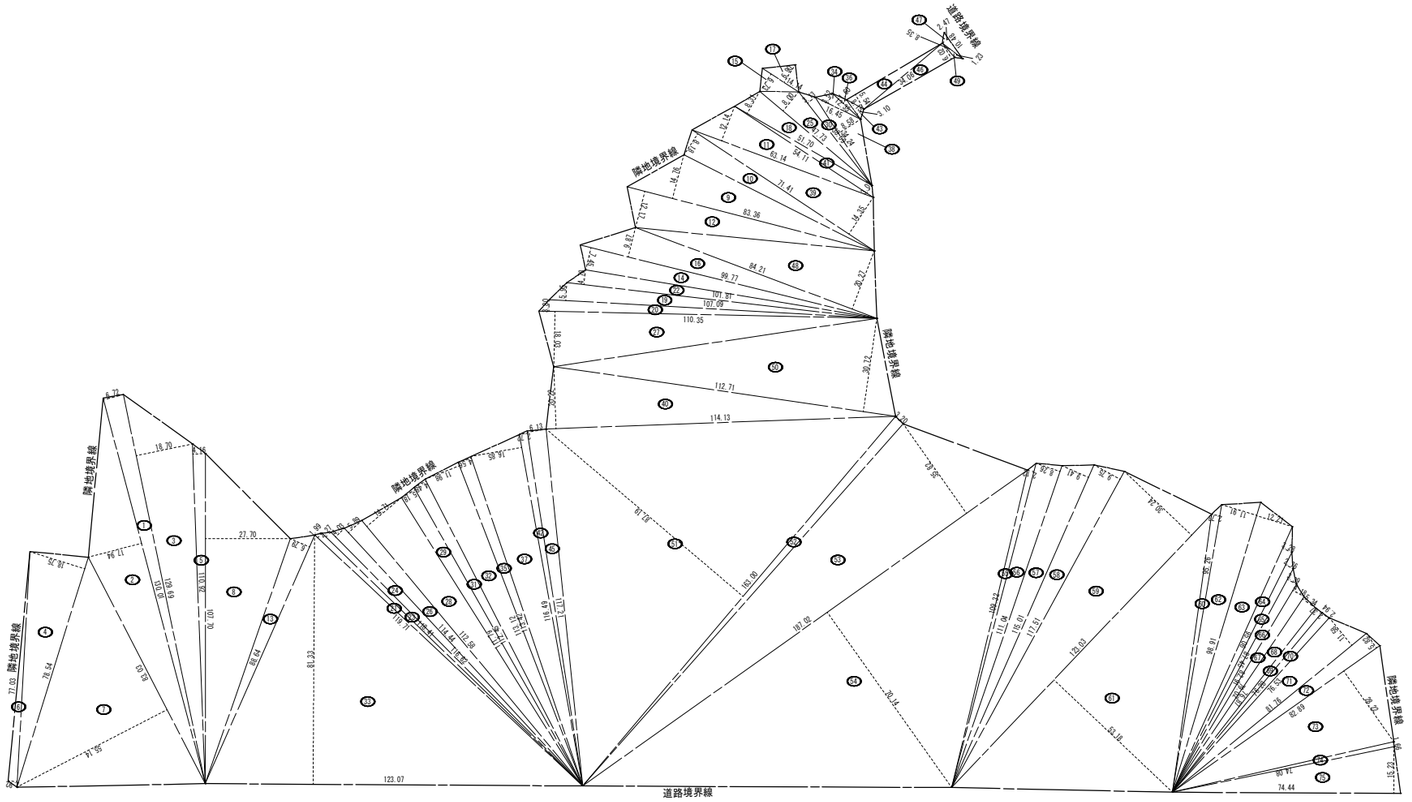
特記事項	株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜	工事名称：令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日：2025 年 9 月　日
		図面名称：案内図　解体全体配置図	縮尺：A1:1/1000 A3:1/2000
			図面番号：A — 08





特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌著	工事名称：令和８年度　台山公園トイレ改築工事		設計年月日：2025 年 9 月　日
	図面名称：案内図　改築全体配置図	縮尺：A1:1/1000 A3:1/2000	図面番号：A — 09



敷地求積図　S:1/1000

0　50m　100m

番号	底　辺	高　さ	倍　面　積	面　積
1	130.01	6.72	873.6672	436.83360
2	130.01	17.94	2,332.3794	1,166.18970
3	129.69	18.70	2,425.2030	1,212.60150
4	78.54	18.75	1,472.6250	736.31250
5	110.92	4.16	461.4272	230.71360
6	77.03	2.92	224.9276	112.46380
7	83.03	55.14	4,578.2742	2,289.13710
8	107.70	27.70	2,983.2900	1,491.64500
9	83.36	14.76	1,230.3936	615.19680
10	71.41	8.18	584.1338	292.06690
11	63.14	12.14	766.5196	383.25980
12	83.36	12.17	1,014.4912	507.24560
13	88.64	6.79	601.8656	300.93280
14	99.77	7.45	743.2865	371.64325
15	14.14	6.73	95.1622	47.58110
16	99.77	9.87	984.7299	492.36495
17	14.14	6.90	97.5660	48.78300
18	51.70	8.31	429.6270	214.81350
19	107.09	5.95	637.1855	318.59275
20	110.35	3.80	419.3300	209.66500
21	119.71	1.99	238.2229	119.11145
22	101.81	4.78	486.6518	243.32590
23	118.41	2.27	268.7907	134.39535
24	116.62	4.03	469.9786	234.98930
25	47.73	8.00	381.8400	190.92000
26	114.44	5.89	674.0516	337.02580
27	110.35	18.03	1,989.6105	994.80525
28	112.58	14.71	1,656.0518	828.02590
29	111.79	5.18	579.0722	289.53610
30	38.69	3.13	121.0997	60.54985
31	112.45	4.48	503.7760	251.88800
32	113.12	11.98	1,355.1776	677.58880
33	123.07	81.33	10,009.2831	5,004.64155
34	16.45	3.52	57.9040	28.95200
35	113.42	4.56	517.1952	258.59760
36	12.35	1.60	19.7600	9.88000
37	116.49	16.85	1,962.8565	981.42825
38	34.24	8.58	293.7792	146.88960
39	71.41	14.35	1,024.7335	512.36675
40	114.13	20.22	2,307.7086	1,153.85430
41	54.11	3.02	163.4122	81.70610
42	117.21	2.72	318.8112	159.40560
43	8.15	3.10	25.2650	12.6325
44	36.34	5.54	201.3236	100.66180
45	117.21	6.13	718.4973	359.24865
46	34.06	6.02	205.0412	102.52060
47	10.48	2.47	25.8856	12.94280
48	84.21	20.27	1,706.9367	853.46835
49	8.35	1.23	10.2705	5.13525
50	112.71	30.72	3,462.4512	1,731.22560
51	163.00	87.19	14,211.9700	7,105.98500
52	163.00	3.20	521.6000	260.80000
53	187.02	35.82	6,699.0564	3,349.52820
54	187.02	70.14	13,117.5828	6,558.79140
55	109.32	2.12	231.7584	115.87920
56	111.04	8.26	917.1904	458.59520
57	115.01	9.41	1,082.2441	541.12205
58	117.51	9.75	1,145.7225	572.86125
59	123.03	30.24	3,720.4272	1,860.21360
60	95.26	2.73	260.0598	130.02990
61	123.03	53.18	6,542.7354	3,271.36770
62	98.91	11.91	1,178.0181	589.00905
63	98.91	12.21	1,207.6911	603.84555
64	95.06	3.28	311.7968	155.89840
65	87.45	2.76	241.3620	120.68100
66	82.91	3.39	281.0649	140.53245
67	79.02	4.18	330.3036	165.15180
68	76.87	5.34	410.4858	205.24290
69	76.28	2.37	180.7836	90.39180
70	76.53	2.94	224.9982	112.49910
71	81.76	11.58	946.7808	473.39040
72	82.89	5.82	482.4198	241.20990
73	82.89	28.22	2,339.1558	1,169.57790
74	74.08	1.66	122.9728	61.48640
75	74.44	15.23	1,133.7212	566.86060
合　計				56,276.712 ㎡
敷地面積				56,276.71 ㎡

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌 著

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事		設計年月日 2025 年 9 月　日
図面名称	敷地求積図	縮尺 A1:1/1000 A3:1/2000	図面番号 A — 10

仮 設 工 事　　凡 例	
	工事範囲部分
	仮囲い：ガードフェンス　H=1.8m　　475.2m
	キャスターゲート　w6.0m×H=1.8m　　2ヶ所
	敷鉄板(仮設通路部) t=22　1500×6000（189枚）　1,701㎡
交	交通誘導員（資材搬出入時）
	工事用車両出入口、工事関係出入口
	電気工事地中配管掘削工事部分　W600 アスファルト舗装　解体・復旧
	電気工事地中配管掘削工事部分　W600 芝張り復旧
	機械工事地中配管掘削工事部分　W600 アスファルト舗装　解体・復旧
	機械工事地中配管掘削工事部分　W600 芝張り復旧

トイレ新設
L=3.6m
L=27.0m
L=10.8m
L=7.2m
L=5.4m
L=37.8m
L=5.4m
L=12.6m
L=1.8m
L=32.4m
L=9.0m
L=37.8m
L=46.8m
L=48.6m
L=9.0m
L=7.2m
L=3.6m
L=68.4m
L=28.8m
L=12.6m
L=3.6m
L=14.4m
L=12.6m
L=21.6m
L=1.8m
L=5.4m
6,250
3,000
9,000
1,500
※園路の配線及び配管工事は令和９年５月６日以降に行うものとする。
なお、公園利用者への影響を最小限とするため、園路内作業の進捗状況に合わせて仮囲いの範囲は適宜変更すること。
多目的広場
遊具広場
田袋道跡
コスモハウス
スペースタワー
噴水
野外音楽堂
野外ステージ
仮設トイレ2
管理棟
浄化槽
駐輪場
南側広場
時の理
バーベキュー広場
市道駅前大沼線
駐車場
駐車場
便所
ゲートボール場
ゲートボール場
テニスコート
テニスコート
江尻ポンプ展示館
ミネ幼稚園
0
50m
100m

配置図　S:1/600

特記事項			
	株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜	工事名称：令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日：2025 年 9 月　日
		図面名称：仮設計画図(全体)	縮尺：A1:1/600　A3:1/1200
			図面番号：A ― 11

遊 具 広 場

土留め壁：シートパイル
(全長L＝40.000
＝400×100枚)
矢板深さ：7.5m

浄化槽撤去

既存トイレ１撤去（多目的広場側）

中木撤去

外構復旧図　A部詳細図参照

T-3

KBM
(アルミ缶置上)

資材置場

クレーン転回スペース
産廃運搬及び作業スペース

50ｔラフター

多 目 的 広 場

朝礼広場

現場事務所・休憩室
（建築・電気）

仮設トイレ

産廃置場　資材置場

公園利用者への影響が最小限になるよう、
園路内作業の進捗状況に合わせて仮囲い
の範囲は適宜変更すること。

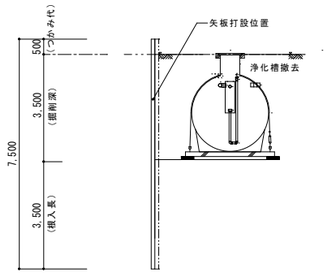
既存トイレ２

倉庫

管 理 棟

浄化槽

既存トイレ浄化槽撤去　土留め壁



・共通事項
1. 打設の工法は無振動工法とし、「油圧圧入工法」を原則とする。
2. 施工完了後、鋼矢板は全て引き抜くものとする。

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜	工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日 2025 年 10 月　日
	図面名称	現況図・仮設計画図（拡大）	縮尺 A1:1/200 A3:1/400
			図面番号 A — 12

仮設工事　凡例	
----------	仮囲い：ガードフェンス　H=1.8m
MWM	キャスターゲート　w6.0m×H=1.8m
~~ZZZZZZZ~~	電気工事地中配管掘削工事部分　W600
~~ZZZZZZZ~~	電気工事地中配管掘削工事部分　W600 芝張り復旧
~~XXXXXXX~~	機械工事地中配管掘削工事部分　W600
~~XXXXXXX~~	機械工事地中配管掘削工事部分　W600 芝張り復旧

遊具広場

トイレ新設

中木　中木　高木　中木　高木　中木　中木

KBM. ±0
（マンホール蓋上）

T-3

多目的広場

※園路の配線及び配管工事は令和９年５月６日以降に行うものとする。
なお、公園利用者への影響を最小限とするため、園路内作業の進捗状況に合わせて仮囲いの範囲は適宜変更すること。

園路：カラーアスファルト舗装復旧
A-3-10（RC-40）

管理棟前：アスファルト舗装復旧
A-5-15（RC-40）

公園内通路のうち地中配管掘削工事部分に係る範囲は全面アスファルト解体・復旧とする。

既存トイレ２

倉庫

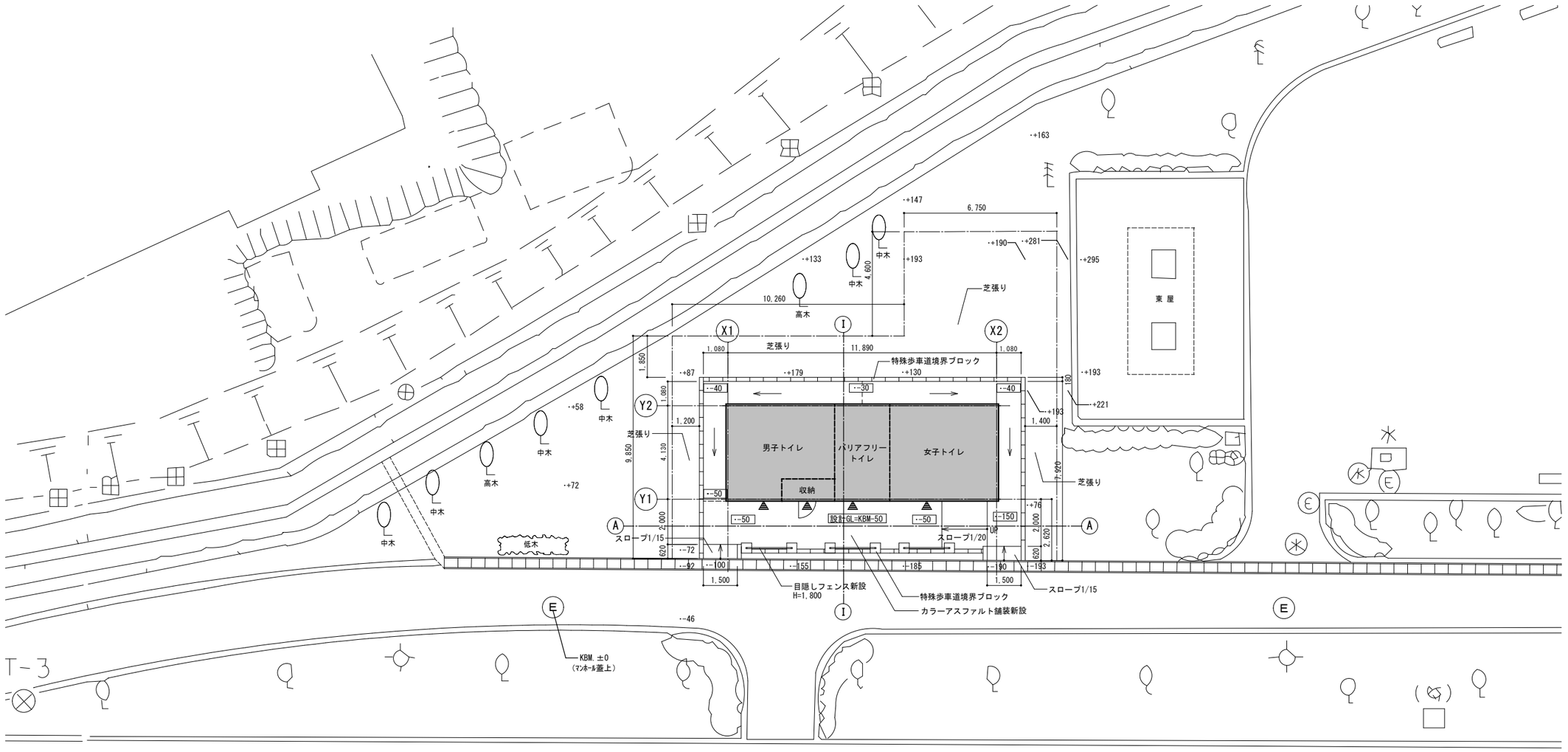
管理棟

浄化槽

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事		設計年月日 2025 年 9 月　日
図面名称	改築図・仮設計画図（拡大）	縮尺 A1:1/200 A3:1/400	図面番号 A — 13



備　考
設計GL＝ KBM-50

特記事項	株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜	工事名称：令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日：2025 年 9 月　日
		図面名称：外構配置図	縮尺：A1:1/100 A3:1/200
			図面番号：A — 14

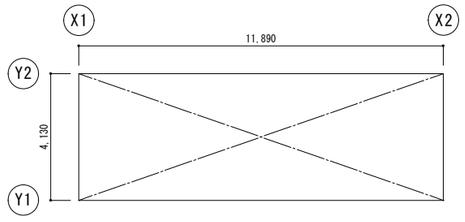
		仕　様	色 ． 品番
構 造	屋 根	鉄骨造	
	本 体	鉄骨造	
外部仕上	屋 根	ガルバリウム鋼板立平葺	
	外 壁	窯業系サイディング張	
	建 具	採光窓：ポリカーボネートＦｉｘ	ブルースモークマット
		複合パネル貼アルミ框付引き戸（バリアフリー） 表示錠・管理錠付	ステンカラー／半自動式・ストッパー付
		複合パネル貼アルミ框付引き戸（男子・女子） 管理錠付・内鍵無	ステンカラー／半自動式・ストッパー付
		ガルバリウム鋼板フラッシュドア（収納）管理錠付・内鍵無	ステンカラー系／ストッパー付ＤＣ付
		アルミすべり出し窓［ポリカーボネート］	フレーム：ステンカラー／ブルースモークマット
	その他	ステンレストイレサイン	ヘアライン仕上
		ステンレスパイプフード［防虫網付］	
		警報ランプ付ブザー（バリアフリー）	赤
特記事項		製品本体には、給排水・電気設備二次側一式を含む。 製品本体は「ＦＳＰＬ表示認定企業製品」とする。 製品本体は日本公園施設業協会生産物賠償責任保険加入製品とする。 長期地耐力はＦａ＝３０ｋＮ／㎡（積雪１．５ｍ未満） 詳細な構造検討により、一部変更となる可能性があります。	

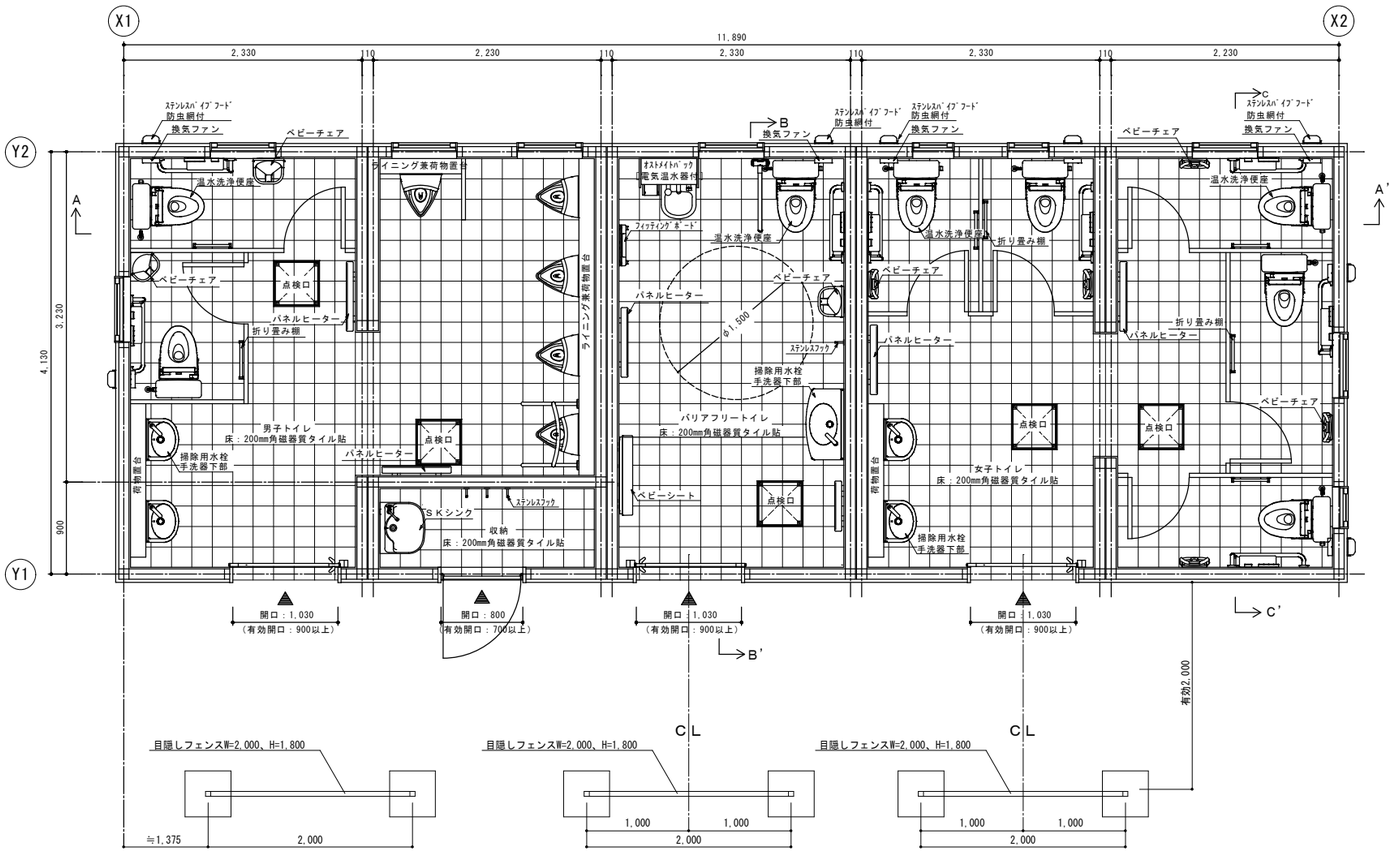
※床上給水管は電熱線と保温材を施す。

		仕　様	色 ． 品番
内部仕上	天 井	化粧スラグ石こう板貼	ホワイト
	内 壁	アルミ積層複合パネル貼	ホワイト
	床	２００mm角磁器質タイル貼	グレー系
	巾 木	アルミフラットバー［ＦＬ＋１００mm］	
	衛生器具	陶製 手洗器・便器・ＳＫシンク［手洗器・便器：センサー式］	ホワイト
		温水洗浄便座	ホワイト
		オストメイトパック［電気温水器付］（バリアフリー）	ホワイト
		掃除用水栓（手洗器下部）	
		ステンレス製樹脂被覆手すり	ホワイト
		ステンレス棚付２連紙巻器	
		化粧鏡	
		ベビーシート（バリアフリー）	ホワイト
		ベビーチェア	男・バ：ホワイト／女：クリアホワイト
		フィッティングボード（バリアフリー）	ホワイト
		ステンレスフック（収納・バリアフリー）	
		ステンレス排水目皿	
	その他	ブース：メラミン化粧合板フラッシュ 表示錠付	パネル：木調／ドア：カラー
		換気ファン［φ１００・人感センサ付］	
		荷物置台／ライニング兼荷物置台	ホワイト
		折り畳み棚（男子・女子）	
		パネルヒーター	
		点検口：２００mm角磁器質タイル貼［４５０角］	グレー系

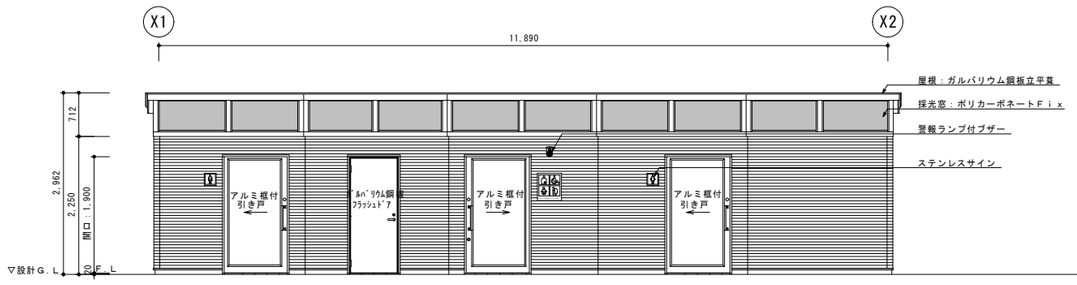
建物求積図 （建築面積・床面積）1/100

面積：11.89×4.13＝49.10 ㎡

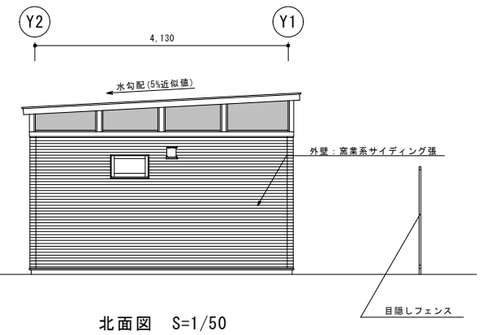




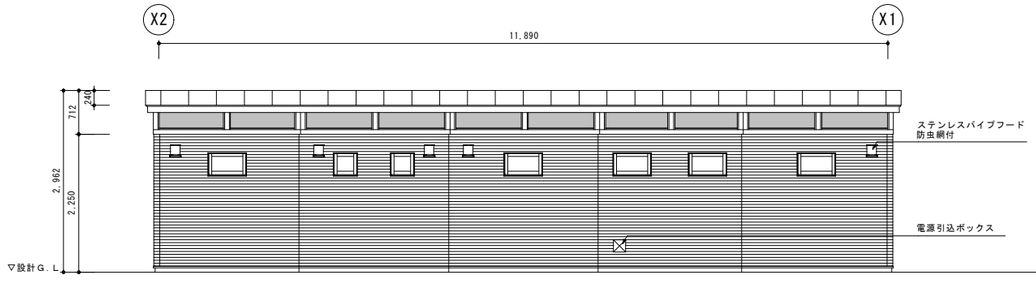
平面図　S=1/30



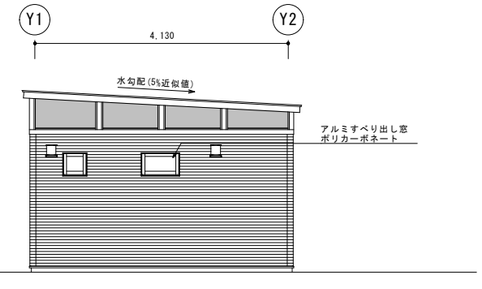
西面図　S=1/50



北面図　S=1/50



東面図　S=1/50

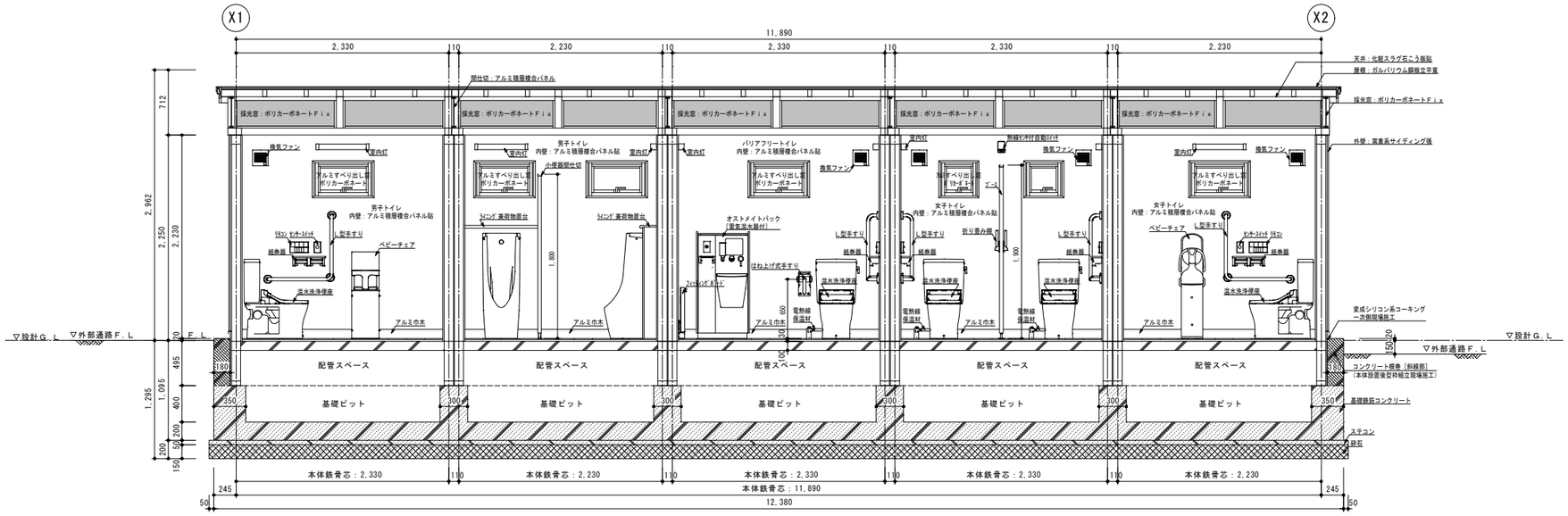


南面図　S=1/50

特記事項

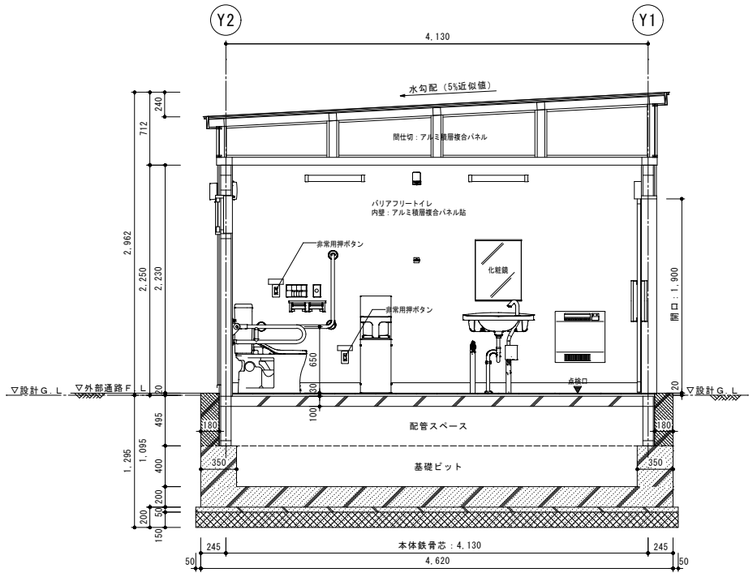
株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木 昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事		設計年月日 2025 年 9 月 日
図面名称	仕上表・平面図・立面図	縮尺 A1:1/30,50 A3:1/60,100	図面番号 A ― 15



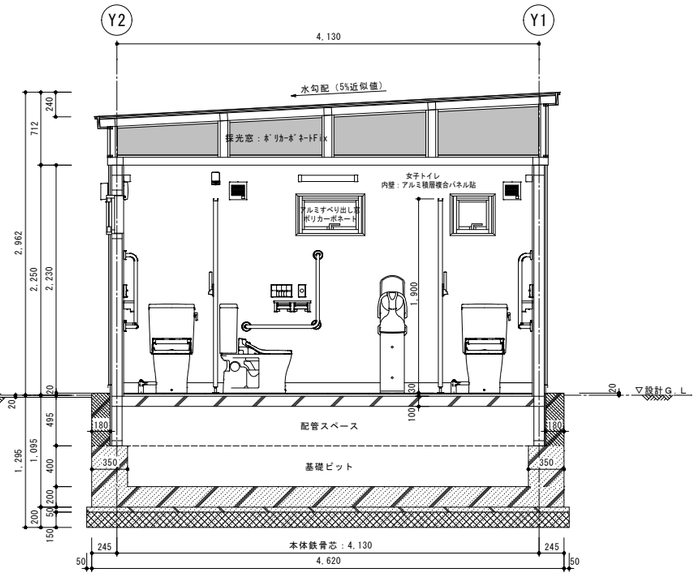
Ａ－Ａ’断面詳細図　S=1/30

部分は一次側現場施工とする。



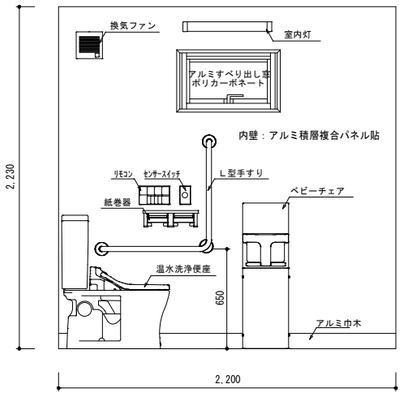
Ｂ－Ｂ’断面詳細図　S=1/30

部分は一次側現場施工とする。

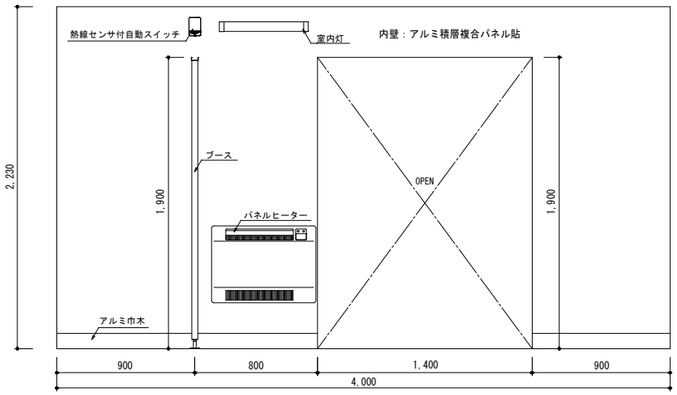


Ｃ－Ｃ’断面詳細図　S=1/30

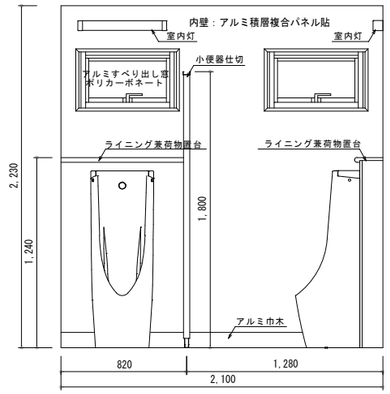
特記事項	株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌善	工事名称：令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日：2025 年 9 月　日
		図面名称：断面詳細図	縮尺：A1:1/30 A3:1/60
			図面番号：A ― 16



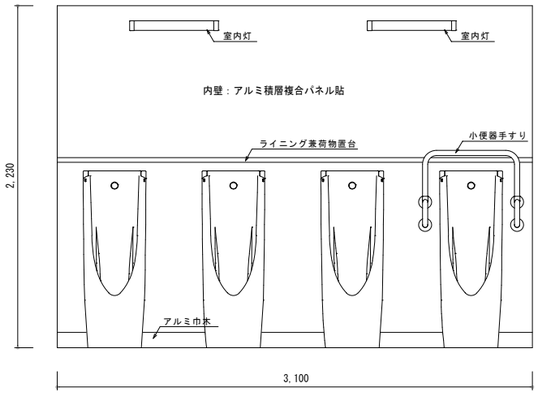
男子１トイレ　Ａ視点展開図　Ｓ＝１／２０



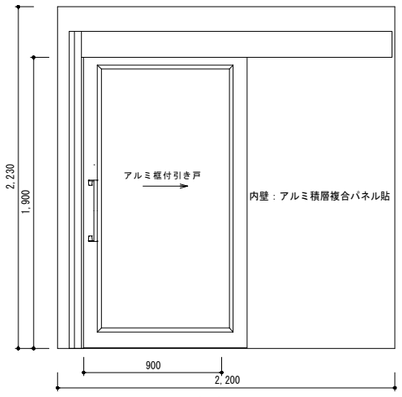
男子１トイレ　Ｂ視点展開図　Ｓ＝１／２０



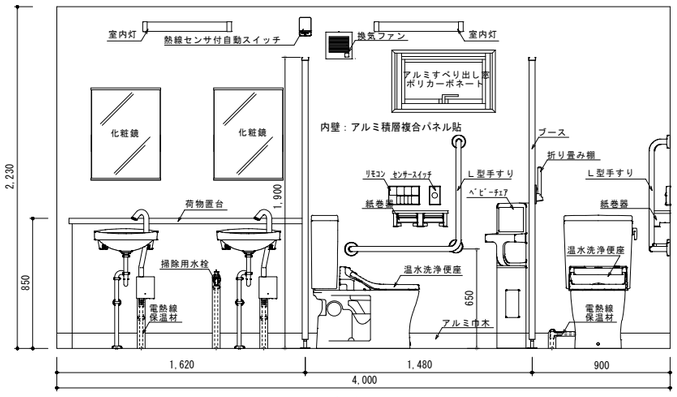
男子２トイレ　Ａ視点展開図　Ｓ＝１／２０



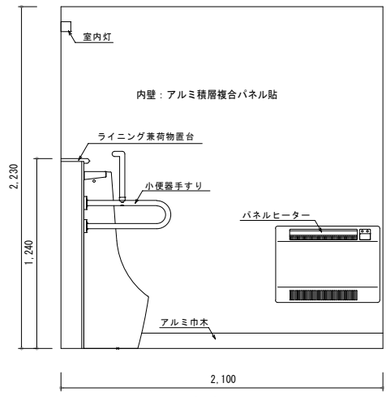
男子２トイレ　Ｂ視点展開図　Ｓ＝１／２０



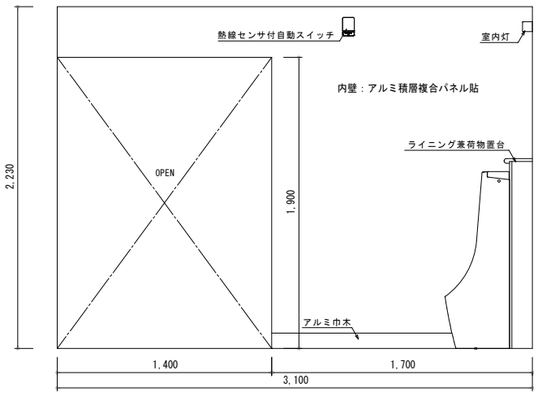
男子１トイレ　Ｃ視点展開図　Ｓ＝１／２０



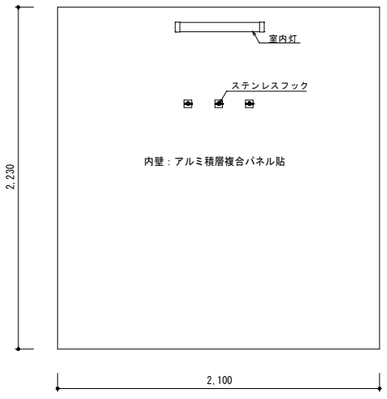
男子１トイレ　Ｄ視点展開図　Ｓ＝１／２０



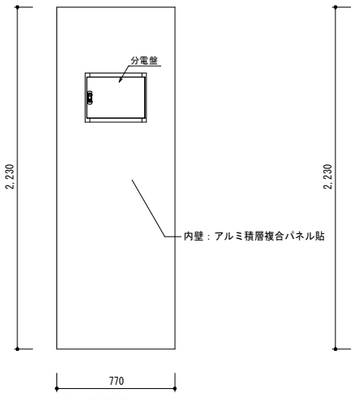
男子２トイレ　Ｃ視点展開図　Ｓ＝１／２０



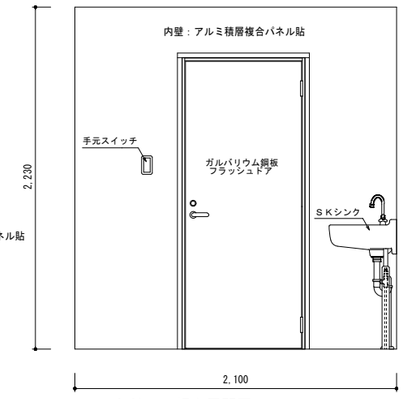
男子２トイレ　Ｄ視点展開図　Ｓ＝１／２０



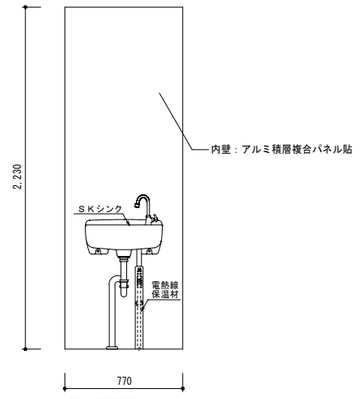
収納　Ａ視点展開図　Ｓ＝１／２０



収納　Ｂ視点展開図　Ｓ＝１／２０



収納　Ｃ視点展開図　Ｓ＝１／２０

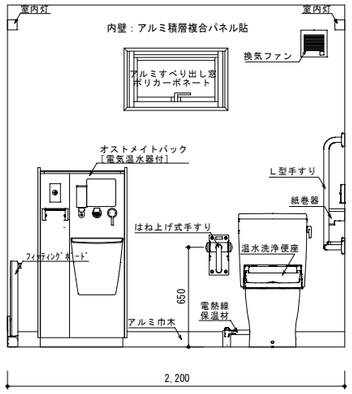


収納　Ｄ視点展開図　Ｓ＝１／２０

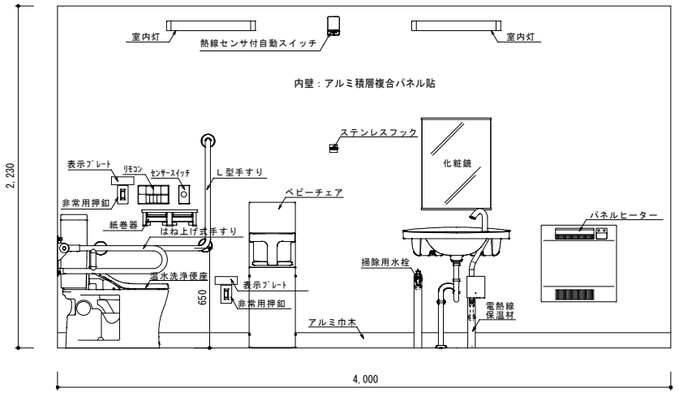
特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜

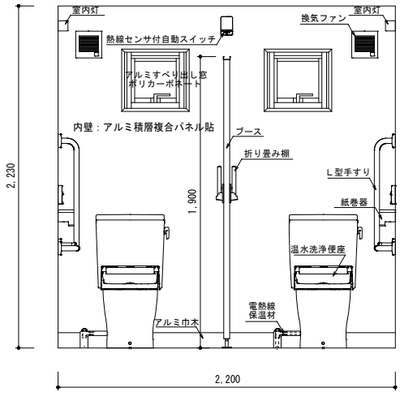
工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事		設計年月日 2025 年 9 月　日
図面名称	展開図（１）	縮尺 A1:1/20 A3:1/40	図面番号 A — 17



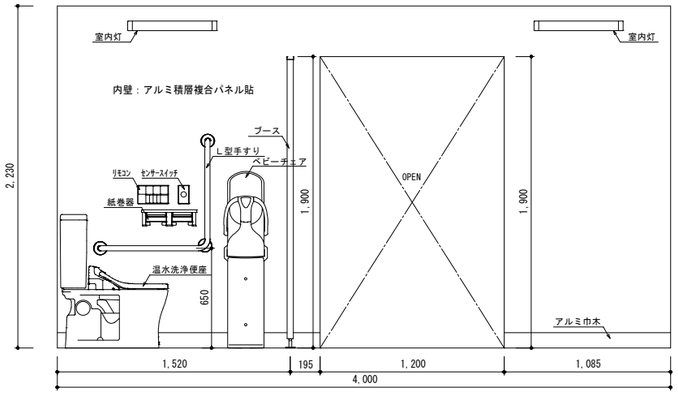
バリアフリートイレ　A視点展開図　S＝1／20



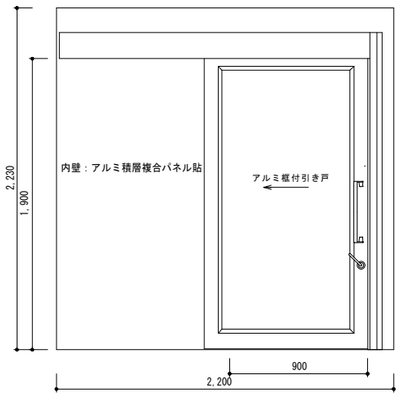
バリアフリートイレ　B視点展開図　S＝1／20



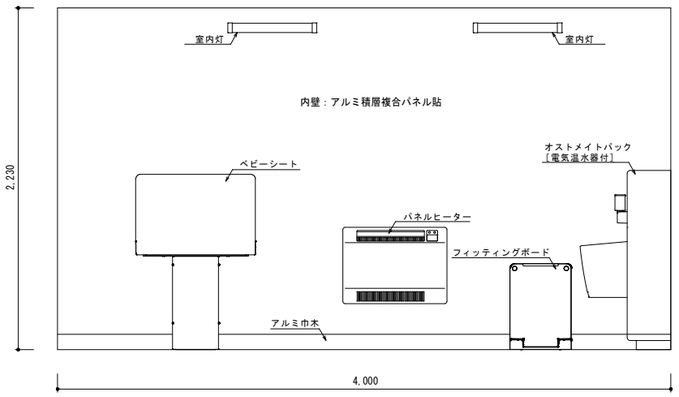
女子トイレ1　A視点展開図　S＝1／20



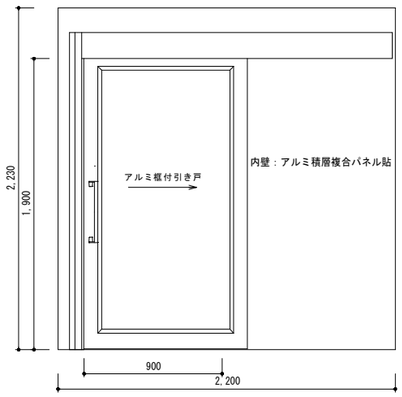
女子トイレ1　B視点展開図　S＝1／20



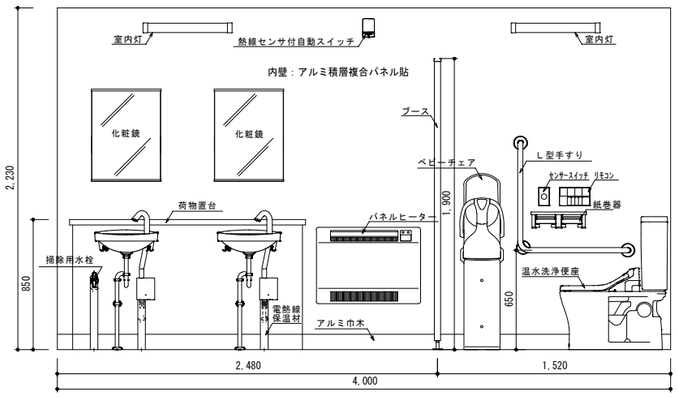
バリアフリートイレ　C視点展開図　S＝1／20



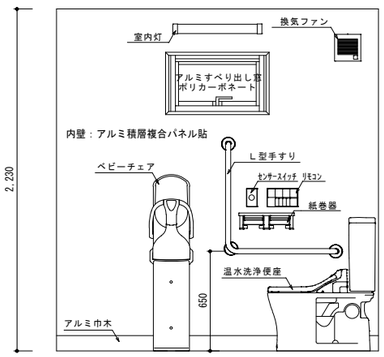
バリアフリートイレ　D視点展開図　S＝1／20



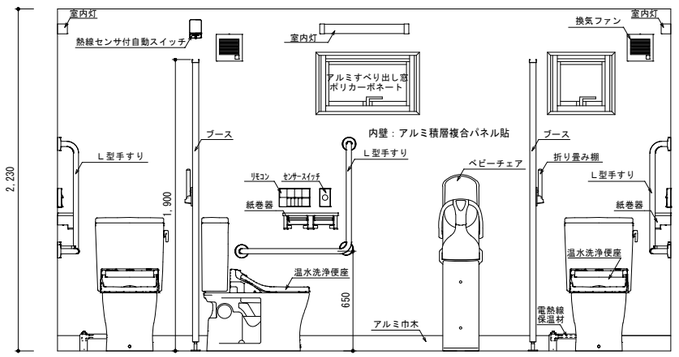
女子トイレ1　C視点展開図　S＝1／20



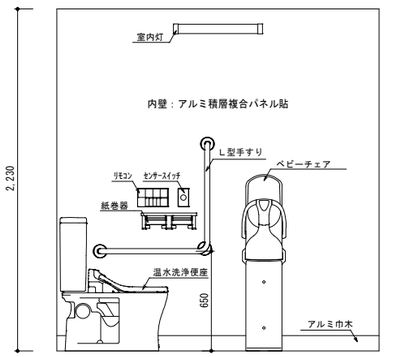
女子トイレ1　展開図　S＝1／20



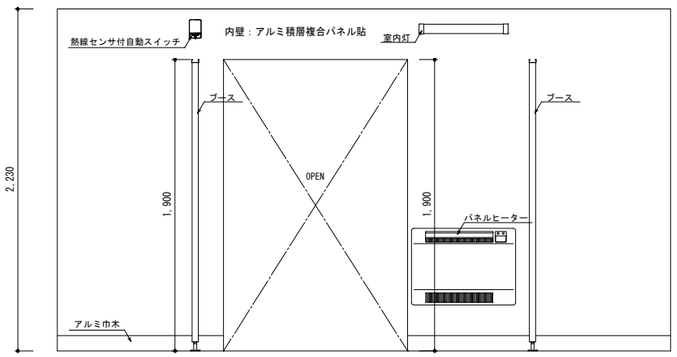
女子2トイレ　A視点展開図　S＝1／20



女子2トイレ　B視点展開図　S＝1／20

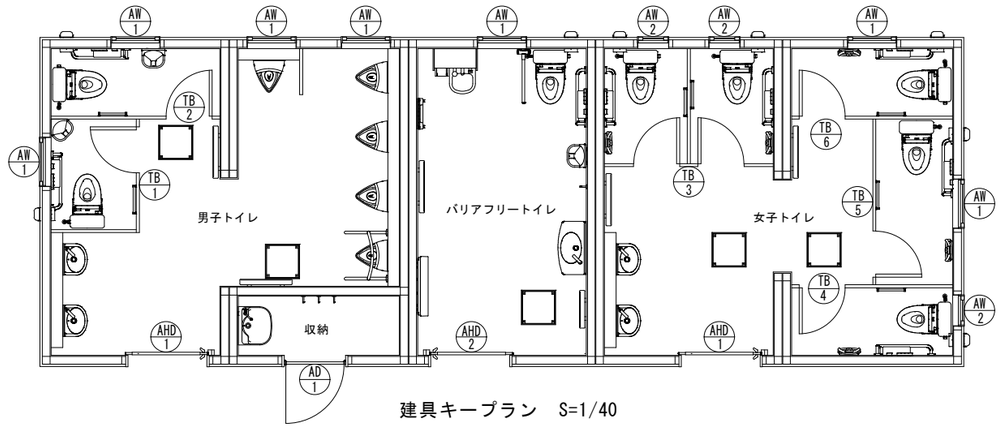


女子2トイレ　C視点展開図　S＝1／20



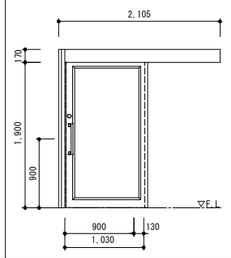
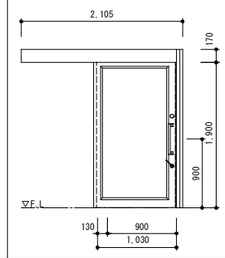
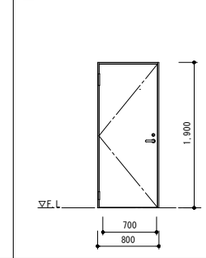
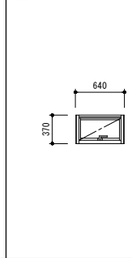
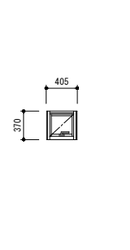
女子2トイレ　D視点展開図　S＝1／20

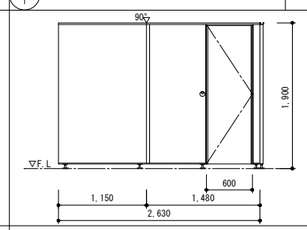
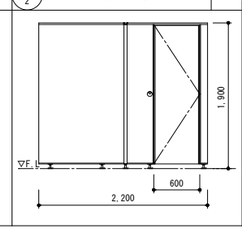
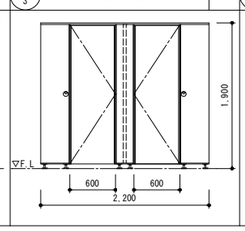
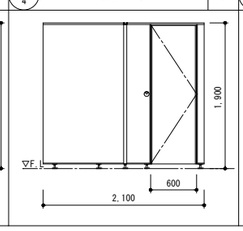
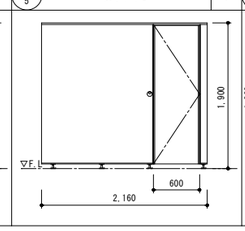
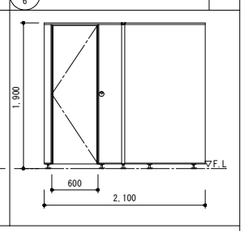
特記事項	株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜	工事名称 令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日 2025 年 9 月　日
		図面名称 展開図（２）	縮尺 A1:1/20 A3:1/40
			図面番号 A ― 18



建具キープラン　S=1/40

建具表　S=1/40

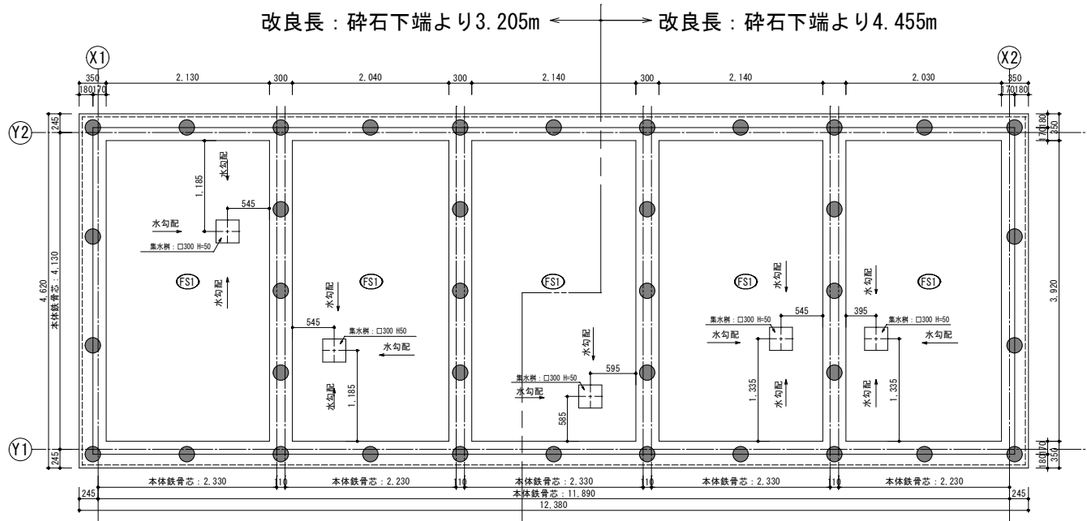
位置	AHD 1 男子・女子	2	AHD 2 バリアフリートイレ	1	AD 1 収納	1	AW 1 男子・バリアフリー・女子	7	AW 2 女子トイレ	3
形状寸法										
名称	複合パネル貼アルミ框付引き戸 （自動閉鎖式）		複合パネル貼アルミ框付引き戸 （自動閉鎖式）		ガルバリウム鋼板フラッシュドア		アルミすべり出し窓			
材質	フレーム：アルミ 内部：表面 アルミ積層複合パネル　t=3 芯材 発泡ポリスチレンパネル　t=22		フレーム：アルミ 内部：表面 アルミ積層複合パネル　t=3 芯材 発泡ポリスチレンパネル　t=22		表面：ガルバリウム鋼板 内部：ペーパーハニカム		フレーム：アルミ ポリカーボネート　t=5 色：ブルースモークマット			
仕上	アルミアルマイト仕上　ステンカラー		アルミアルマイト仕上　ステンカラー		—		アルミアルマイト仕上 ステンカラー			
備考	ハンガードアクローザー・管理錠		ハンガードアクローザー・管理錠 内掛錠（外部表示錠と連動）		ドアクローザー・レバーハンドル 管理錠		—			

位置	TB 1 男子トイレ	1	TB 2 男子トイレ	1	TB 3 女子トイレ	1	TB 4 女子トイレ	1	TB 5 女子トイレ	1	TB 6 女子トイレ	1
形状寸法												
名称	ブース											
材質	メラミン化粧合板 フラッシュパネル　t=40											
仕上	—											
備考	エッジ・笠木　アルミ製 脚金物　ステンレス製 打掛錠（外部表示錠） 戸当たり兼用帽子掛け											

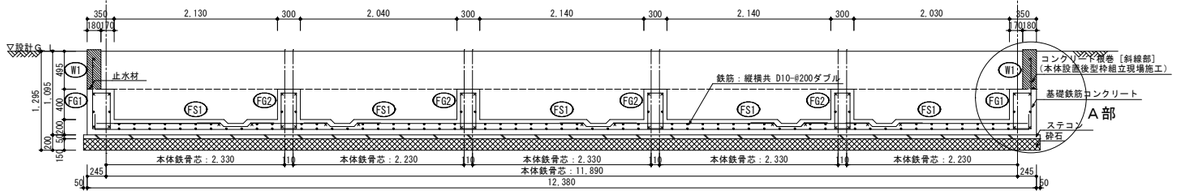
特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜

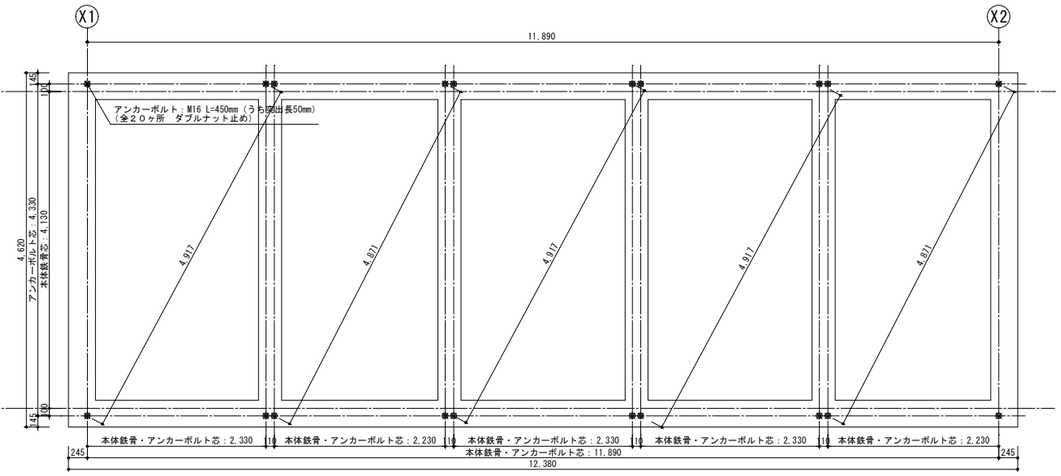
工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日	2025 年 9 月　日
図面名称	建具表	縮尺	A1:1/40 A3:1/80
		図面番号	A — 19



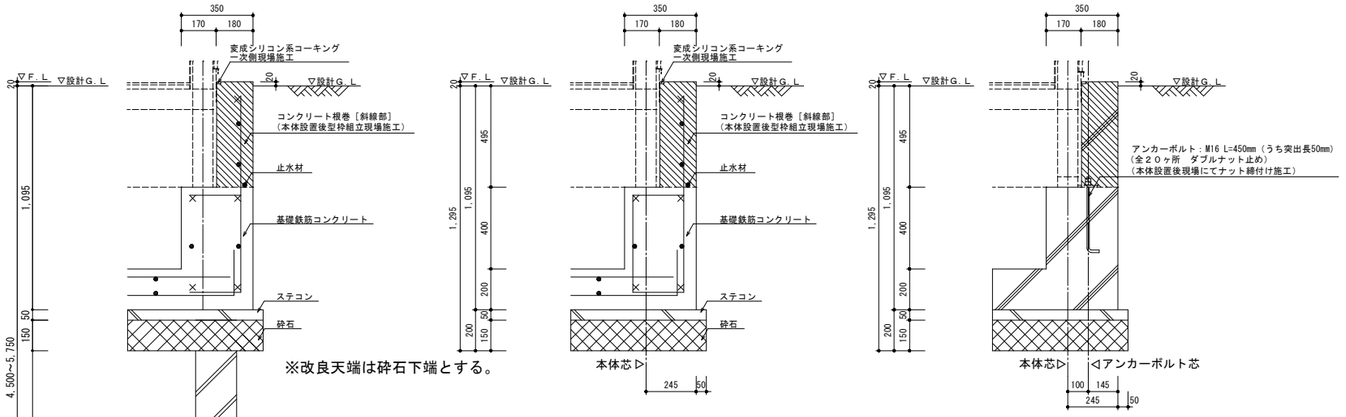
基礎伏図　S=1/40
※基礎天端はレベルを確保する事



基礎断面図　S=1/40



アンカーボルト配置図　S=1/40
※アンカーボルトの建て方精度は±３以下とする事
※アンカーボルトの建て方精度だけでなく垂直度にも注意する事



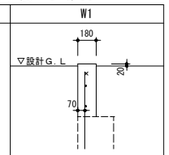
A部詳細図　S=1/15

アンカーボルト部詳細図　S=1/15

ピュアパイル工法
改良径　200mm
改良深度　※設計GLより、4.5～5.75m
※砕石下端より、3.205～4.455m
計画本数　38本

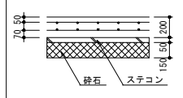
※特記
地盤調査により、当該敷地は、全体的に軟弱な層が分布しており敷地内の地盤の耐力不足が懸念される地盤状態のため、基礎工事前に、地盤補強工事を行う事
地盤改良工法：杭状地盤補強工法（ピュアパイル工法）とする。

壁リスト表　S=1/30

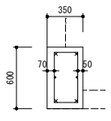
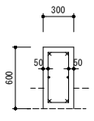
符号	W1
断面	
厚さ	180
縦筋	D10-@200シングル
横筋	D10-@200シングル

※天端は屋外側に水勾配をつけること

基礎リスト表　S=1/30

符号	FS1
断面	
厚さ	200
縦筋	D10-@200ダブル
横筋	D10-@200ダブル

梁リスト表　S=1/30

符号	FG1	FG2
断面		
寸法	350x600	300x600
上端筋	2-D13	2-D13
下端筋	2-D13	2-D13
STP	D10-@200	D10-@200
腹筋	2-D10	2-D10
幅止筋	D10-@1,000	D10-@1,000

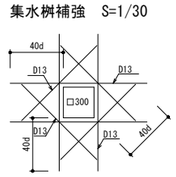
構造仕様

コンクリート	躯体	Fc-21N/mm2
	ステコン	Fc-18N/mm2
鉄筋	D16以下	SD295
砕石	RC-40	
止水材	12×28（クニシール同等品）	

※地業・コンクリートの各施工及び鉄筋工事は、
国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
「公共建築工事標準仕様書」に準じる事

※基礎鉄筋コンクリート及びアンカーボルトは、
一次側現場施工とする

集水桝補強　S=1/30

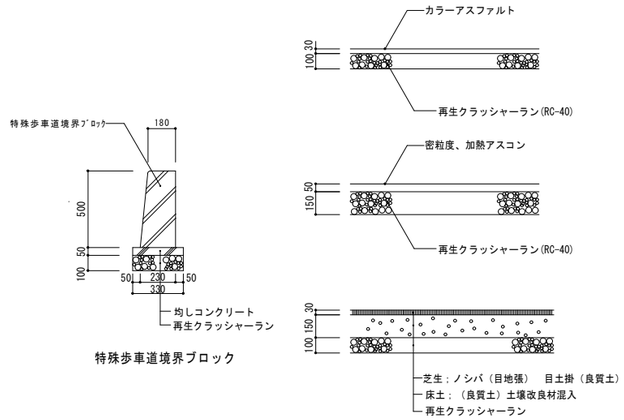


鉄筋凡例	
×	D13
•	D10

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜	工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日 2025 年 10 月　日
	図面名称	基礎廻り詳細図	縮尺 A1:1/15,40 A3:1/30,80
			図面番号 A — 20

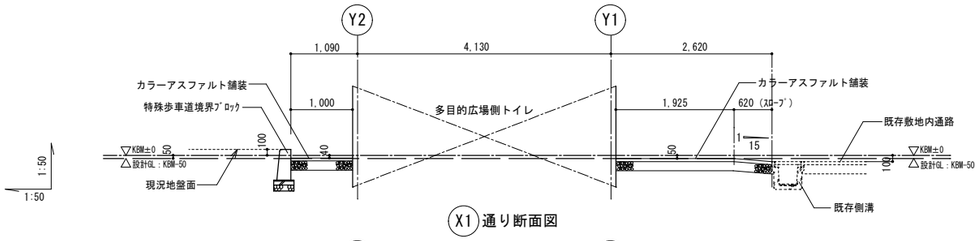
4　改修　舗装工　詳細図　　S=1/20



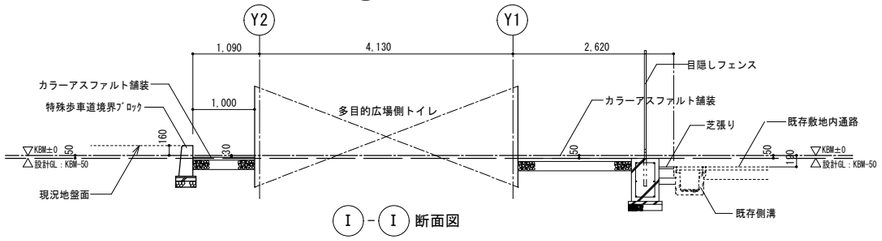
特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌善	工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日 2025 年 9 月　日
	図面名称	外構断面図・詳細図-1	縮尺 A1: 1/20・50 A3: 1/40・100
			図面番号 A ― 21

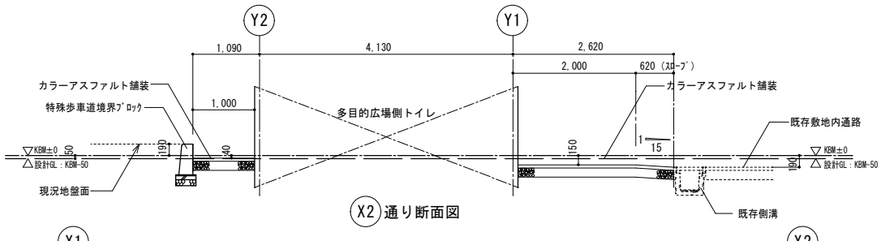
1	外構断面詳細図	S=1/50		



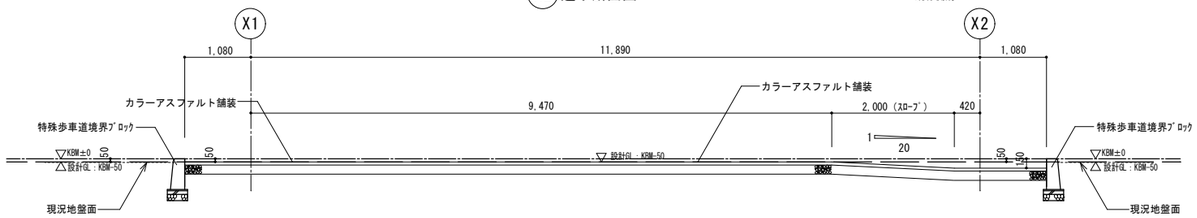
X1 通り断面図



Ⅰ－Ⅰ 断面図



X2 通り断面図



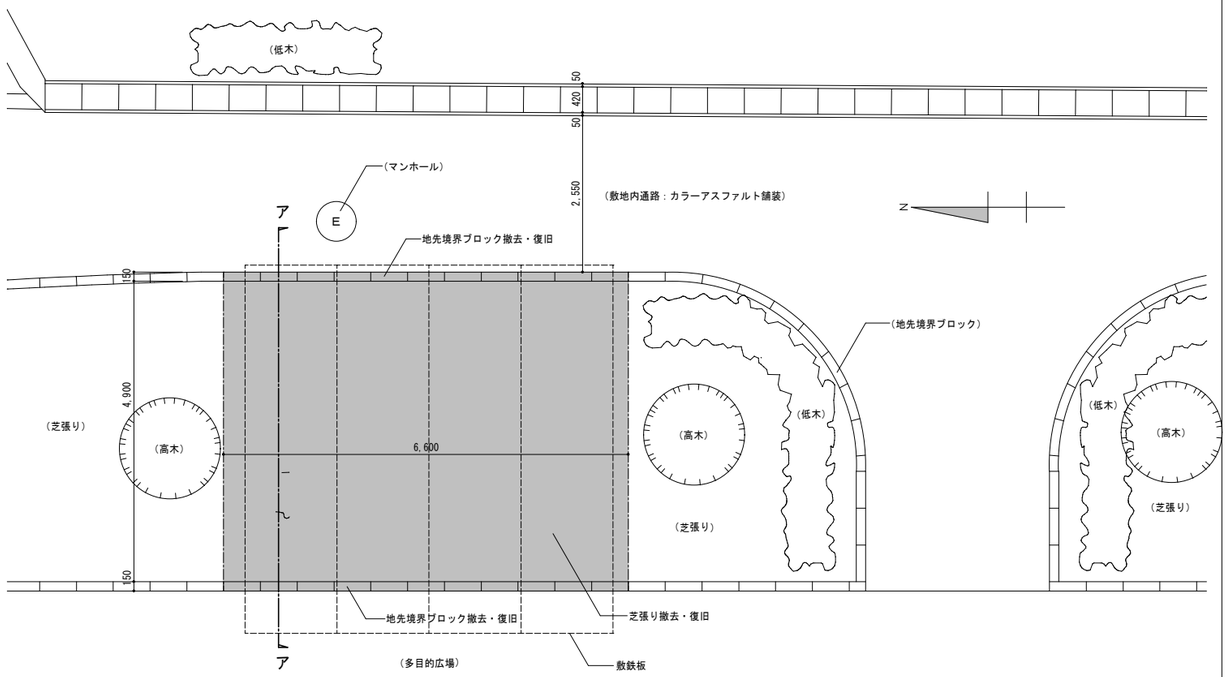
A－A 断面図

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事		設計年月日 2025 年 9 月　日
図面名称	外構断面図・詳細図-2	縮尺 A1：1/50 A3：1/100	図面番号 A — 22

1 外構断面詳細図　S=1/50

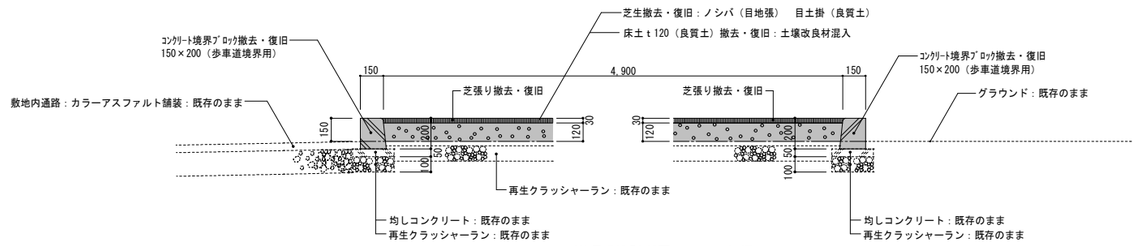


※仮設通路範囲、撤去・復旧

A部詳細図　S=1/50

：復旧範囲を示す。

3 各部詳細図　S=1/20



※仮設通路範囲、撤去・復旧

アーア断面図　S=1/20

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事
図面名称	外構復旧図
縮尺	A1：1/20・50 A3：1/40・100
設計年月日	2025 年 9 月　日
図面番号	A — 23

建 築 物 解 体 工 事 特 記 仕 様 書 【令和７年４月版】

Ⅰ 工 事 概 要

１ 工事番号・名称　　－　号　　令和８年度　台山公園トイレ改築工事
２ 工 事 場 所　　角田市角田字寺前地内外
３ 用途地域等
都市計画区域（⊙ 内 ・ 外）　用途地域（　　指定なし　　）
防火地域等（・ 防火 ・ 準防火 ⊙ 指定なし ⊙ ２２条 ）
その他の地域・地区（　　）
４ 主 要 用 途　　公衆便所
５ 敷 地 面 積　　56,276.71 ㎡
６ 工 事 の 概 要

-1. 以下の建築物の解体工事

名　称	構 造 ・ 規 模	面　積
① 既存トイレ1	PC造/1F	32.40㎡

-2. 浄化槽の撤去　　図示
-3. 外構の撤去　　図示
-4. 樹木の撤去　　図示

７ 別 途 工 事

８ そ の 他

９ 特記仕様書の範囲
特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印もので構成する。
・ 外構工事特記仕様書　　・ 植栽工事特記仕様書
⊙ 電気設備工事特記仕様書 ⊙ 機械設備工事特記仕様書
・　　・

Ⅱ 建 築 工 事 仕 様

１．共通仕様
図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築物解体工事共通仕様書(令和4年版）」（以下、「解体共通仕様書」という。）による。ただし、「解体共通仕様書」に記載されていない事項は、「公共建築工事標準仕様書（令和7年版）」（以下「標準仕様書」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書(令和7年版）」（以下「改修標準仕様書」という。）による。
なお、施工条件明示書は特記仕様書に含める。

２．特記仕様
１）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
２）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。⊙印のつかない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。
３）特記事項に記載の［ ］、（ ）及び＜ ＞内の表示番号は、それぞれ「解体共通仕様書」、「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	①．一般事項	⊙ 工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合には、監督職員に報告の上、指示に従うこと。 ⊙ 請負業者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ⊙ 施工体系図を現場に掲示すること。 ・ 工事着手前及び完成時に、以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤、擁壁、内外壁、床、建具等）を調査・記録し、報告書を監督職員に提出すること。 ※工事に伴う環境調査要領 平成28年4月（東京都建設局編集）による ※調査に先立って調査計画書を作成し監督職員の確認を受けること 調査範囲　※ 図示
	②．適用基準等	⊙ 建設工事執行規則(昭和39年3月宮城県規則第9号) ⊙ 宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱 ⊙ 営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部　令和5年版）及び工事写真撮影ガイドブック（国土交通大臣官房官庁営繕部監修　令和5年版）
	③．工事実績情報(CORINS)の登録	※ 適用する（請負精算額が500万円以上の場合）[1.1.4] 受注時、変更時及び工事完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け、契約締結後及び工事完成後10日以内に登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督職員に提出すること。 ・ 適用しない
	４．電気保安技術者	・ 適用する　※ 適用しない [1.3.3]
	⑤．事故報告	[1.3.8] 工事の施工中に事故が発生した場合は、直ちに監督職員に通報するとともに、監督職員から指示があった場合は「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。
	６．技能士	[1.6.2] ・ 下表で技能士を適用することとした職種に、１級又は単一級技能士を配置する。 ※ 下表で技能士を適用することとした職種に、１級、２級又は単一級技能士を配置する。

工　事　種　目	技能検定職種（技能検定作業）
以下の該当工事	・該当する作業がある以下の職種（作業）の全て
仮設工事	・とび（とび作業）
鉄筋工事	・鉄筋施工（鉄筋組立作業）
コンクリート工事	・型枠施工（型枠工事作業）
	・コンクリート圧送施工（コンクリート圧送工事作業）
鉄骨工事	・鉄工（構造物鉄工作業）
コンクリートブロック・帳心パネル・押出成形セメント板工事	・ＡＬＣパネル施工（ＡＬＣパネル工事作業）

章	項　目	特　記　事　項
2 仮設工事	①．仮囲い	※ 設ける　（位置、延長等は図示） ・ 万能鋼板　(H=　　)　・ 波形鉄板　(H=　　) ⊙ ガードフェンス（H= 1.8m ） ・ 単管シート（H=　　）　・ 防音シート（H=　　） ・ 防音パネル（H=　　） ・ パネルゲート　(W=　　H=　　)×　　箇所 ・ シートゲート　(W=　　H=　　)×　　箇所 ⊙ キャスターゲート（W= 6.0m H= 1.8m ）× 2 箇所 ・ 設けない
	２．騒音、防塵等の対策	※ 設ける（適用範囲、高さ等は図示）[2.2.1] ・ 防音パネル　・ 防音シート　・ 養生シート ・ 設けない
	③．交通誘導員	※ 配置する（　1日 × 1人 ＝ 40人日）　・ 配置しない
	４．監督職員事務所	・ 設ける [2.3.1] ・ 既存建物内の一部を使用する。 ・ 構内に新設する　(規模　　㎡程度) ・ 備え付ける備品　(　　) ※ 設けない
	⑤．工事表示板	営繕工事における工事及びコスト表示要領（令和6年4月1日宮城県土木部営繕課・設備課制定）により設置する。 ※ 工事表示板　　設置枚数　１枚 ・ 事業コスト表示板　　設置枚数　　枚 ※ 建設リサイクル法による標識を設置する。
	⑥．工事用水	構内既存の施設　※ 利用できる（※ 有償　・ 無償） ・ 利用できない
	⑦．工事用電力	構内既存の施設　※ 利用できる（※ 有償　・ 無償） ・ 利用できない
	⑧．工事用通路	※ 指定しない　・ 指定する（図示）
	９．足場等	外部足場　・設置する　（設置範囲　・工事に必要な範囲　・　）〈2.2.4〉〈表2.2.1〉 ・設置しない 防護シート　・設置する　（設置範囲　・工事に必要な範囲　・　） ・設置しない
	⑦．完成図等	営繕工事完成引渡要領（令和7年4月1日宮城県土木部営繕課・設備課）により作成する。 ※ 白焼縮小（Ａ３版）２つ折製本　　２部 ※ 敷地の完成図面　JWW形式又はDXF形式のCADデータ及びPDFデータ　　DVD-R等２部
	８．完成写真	※ 作成する 営繕工事写真撮影要領により、完成届に添付する完成写真とは別に次のものを原本（電子媒体）とともに監督職員に提出する。 なお、原本は、DVD-R等で提出すること。

分　類	サイズ	撮影箇所数	部　数	提出様式
※カラー・白黒	※Ｌ・２Ｌ・六切り	※営繕工事写真撮影要領の完成写真程度・　箇所　枚	※１部・　部	※工事用アルバムA4版 ポケット式程度・フリーアルバム（台紙寸法323×270程度）・

アルバムは、監督職員との協議により紙媒体又は電子媒体とする。

	⑨．火災保険等	工事目的物及び工事材料等について，次により保険に付す。 保険の種類　・ 火災保険　※ 建設工事保険　・ 保険期間　※ 工事着手から工事目的物引き渡しまで　・

章	項　目	特　記　事　項
3 解体工事	10．その他	内部足場　・設置する　（・　※脚立，足場板等） ・設置しない ・材料，撤去材等の運搬方法 種別（・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種 ・Ｅ種） Ｃ種：利用可能なエレベーター　（　） Ｄ種：利用可能な階段　（　） 足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。 ・ 酸素・アセチレン・軽油等の危険物は所定の位置に施錠できる小屋等に保管すること。 ・ 作業通路は，指定通路表示を行い，足場等の堅固なもので頭上の保護を行うこと。 ・ 建物周辺は，粉塵防止や火災発生に備えて散水を行うこと。 ・ 工事に関係部分の出入の表示を行うこと。
	①．解体工法	※ 解体工法は，低振動・低騒音型の機械器具等の選定を心がけ，防音シートや散水等により騒音・振動の減少、粉塵の防止に努めること。 ※ 解体方法及び手順は，「分別解体等に係る施工方法に関する基準（建設リサイクル法規則第２条）」による。
	②．施工計画書等	[1.2.1～2] 工程表・施工計画書・仮設計画書等は，工事契約後速やかに監督職員に提出し，承諾を得ること。
	３．杭	杭の解体 [3.9.2] ・ 行う （※杭頭から　mまで　・全長 ） 杭の解体工法 ・ 引き抜き工法 （・ 振動 ・ ケーシング ・ ） ・ 粉砕による解体
	④．樹木等	樹木の伐採伐根　⊙ 行う（図示による）[3.11.1] 樹木の移植　・ 行う（図示による）
	５．地下埋設物の埋設配管	地下埋設物及び埋設配管の解体 [3.12.1] ・ 行う（図示による）
	⑥．解体後の整地	解体後の埋戻し及び盛り土 [3.13.1] ⊙ 行う 埋戻し及び盛土の材料 (3.2.3)(表3.2.1) ・ Ａ 種 ※ Ｂ 種 ・ Ｃ 種 ・ Ｄ 種 ・ 構造物撤去等により自現場で発生するコンクリート塊を現場内で破砕したもの（粒径４０mm以下）を使用する。 埋戻し範囲 ・ 図示による Ｃ種の場合 建設発生土受入れ量　m3 発生場所 受入条件 整地の高さ ⊙ 現状ＧＬ ・ 図示による
	⑦．建設発生土の処理	(3.2.5) ・ 構内指示の場所に敷きならす。 ・ 構内指示の場所にたい積する。 ・ 構外指示の場所に搬出する。 受入れ施設名・所在地（km） ・ 土壌汚染対策法に基づく特定有害物質の含有を調査する。 調査範囲及び項目　※図示
	８．有害物質含有調査	

章	項　目	特　記　事　項
4 建設廃棄物の処理	①．再資源化等	[1.3.10] [4.4.1] ・コンクリート ・コンクリート及び鉄から成る建設資材 ・アスファルト、コンクリート ・木材 ・金属類 ・小形二次電池 [4.4.1] ・蛍光ランプ HIDランプ　・する ・しない ・硬質ポリ塩化ビニル管・継手　・する ・しない ・ガラス　・する ・しない 現場利用する再資源化された建設廃棄物 [4.4.1] ※ 鉄筋コンクリートを現地で破砕し，再生材クラッシャラン（0～40）として利用する場合は，標準仕様書(表22.3.3)の再生材クラッシャランによることとし，すりへり減量を50%以下にすること。

建設廃棄物の種類	中間処理施設又は再資源化施設の名称等	所在地（ｋｍ）

建設廃棄物の種類	再資源化の有無	再資源化施設の名称等	所在地（ｋｍ）

種　類	利用する場所(箇所)等

5 特別管理産業廃棄物処理	２．産業廃棄物広域認定制度の活用	[4.4.2] 種　類 / 所在地等（ｋｍ）
	③．最終処分	・（安定型） [4.4.3] 種　類 / 受入施設名称等 / 所在地(Km) / 備考 ・（管理型）（遮断型） 種　類 / 受入施設名称等 / 所在地(Km) / 備考 １～３の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督職員と協議すること。 また、処理、処分に先立ち処分場等の受入の可否を確認すること
	４．処分に注意を要する建設廃棄物	[4.5.1] 種　類 / 処理施設名称等 / 所在地(Km) / 備考 ・CCA処理木材 ・ヒ素又はカドミウム含有石膏ボード ・ ＜対象となる石膏ボード＞ 小名浜吉野石膏（株）　いわき工場　昭和48年10月～平成9年4月の間に製造されたもの 日東石膏ボード（株）　八戸工場　平成4年10月～平成9年4月の間に製造されたもの
	１．施工調査	[5.1.2] 材　料　名 / 仕様等（型式、厚さ、数量） / 調査の範囲（※ 図示 ・ 工事対象範囲）
	２．特別管理産業廃棄物等の処理計画	[5.1.3][1.2.2] ※ 種類別に具体的な処理計画を定め施工計画書に記載する。 特別管理産業廃棄物の種類 / 処分場の名称 / 所在地等（ｋｍ） ・ 廃石綿
	３．PCBを含む機器類等	PCB（ポリ塩化ビフェニール）含有機器　・ 有（数量は図示）[5.4.1]　・ 無 PCB含有シーリング材　・ 有（施工範囲は図示）[5.4.1]　・ 無 PCBを含有する機器等については、飛散、流出がないように適切な容器に納めて適切な場所に保管し、工事完了後、監督職員を通じて保管事業者に引き渡す。 [7.3.1] 回収又は処分を行う副産物の種類 / 対象機器名称 / 回収業者又は処分場の名称等 / 保管場所・処分場の所在地等 ・フロン ・ハロン ・イオン化式感知器 ・六フッ化硫黄(SF6)ガス
	４．特殊な建設副産物の回収及び処分	

特記事項

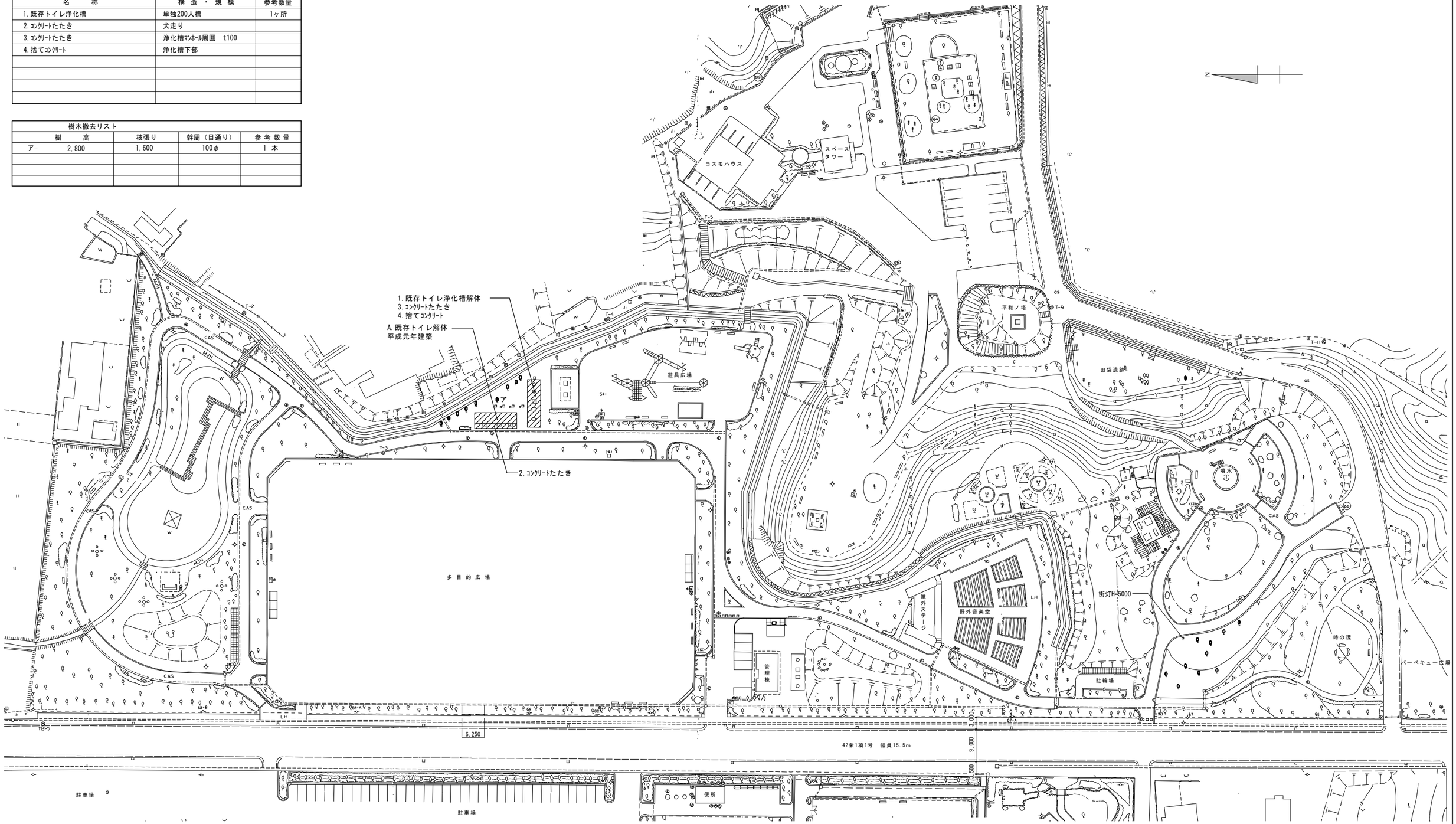
株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木 昌善

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日 2025 年 9 月 日
図面名称	解体工事特記仕様書	縮尺
		図面番号 K ― 01

解体建築物リスト		▨：解体建築物
名　　称	構　造　・　規　模	面　積
A. 既存トイレ	PC造/1F	32.40㎡

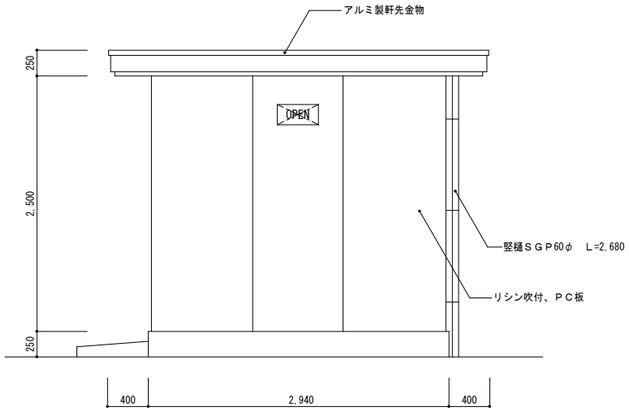
解体工作物リスト	※1：詳細図参照	
名　　称	構　造　・　規　模	参考数量
1. 既存トイレ浄化槽	単独200人槽	1ヶ所
2. ｺﾝｸﾘｰﾄたたき	犬走り	
3. ｺﾝｸﾘｰﾄたたき	浄化槽ﾏﾝﾎｰﾙ周囲　t100	
4. 捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	浄化槽下部	

樹木撤去リスト			
樹　　高	枝張り	幹周（目通り）	参考数量
アー　2,800	1,600	100φ	1 本

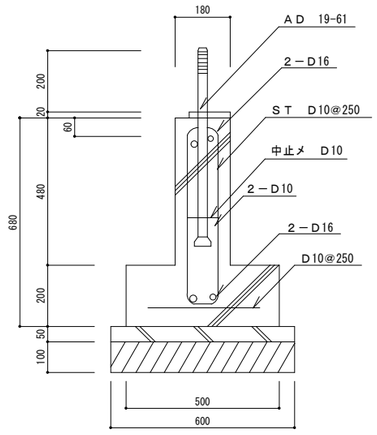


配置図　S:1/500

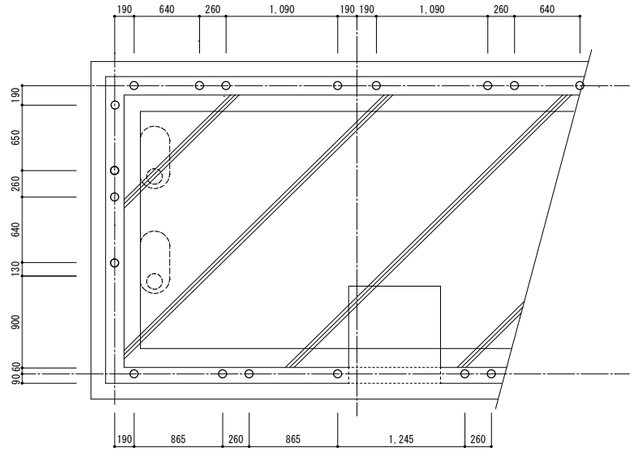
特記事項				
	株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木 昌善	工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日 2025 年 9 月　日
		図面名称	撤去　配置図	縮尺 A1：1/500 A3：1/1000
				図面番号 K — 02



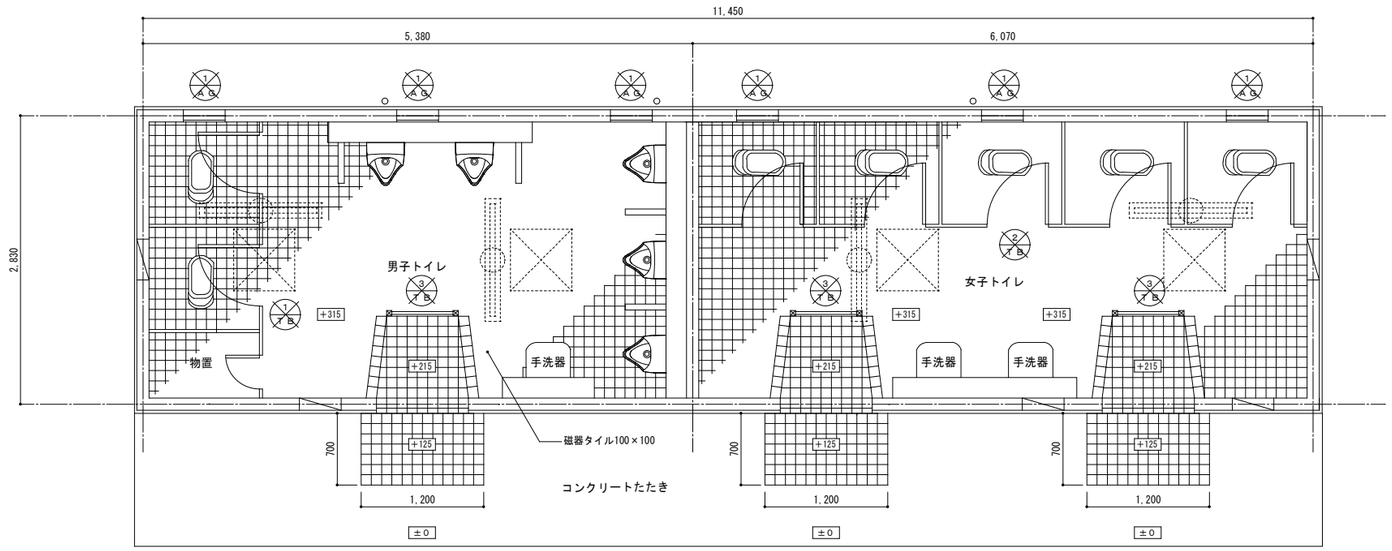
南面図　S:1/30



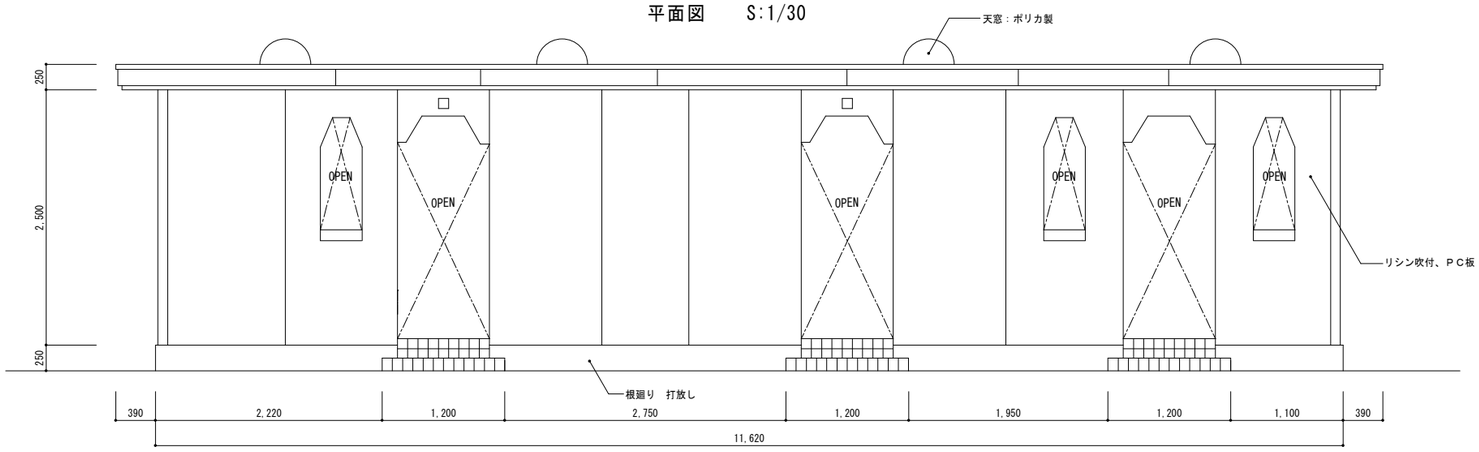
基礎断面図　S:1/10



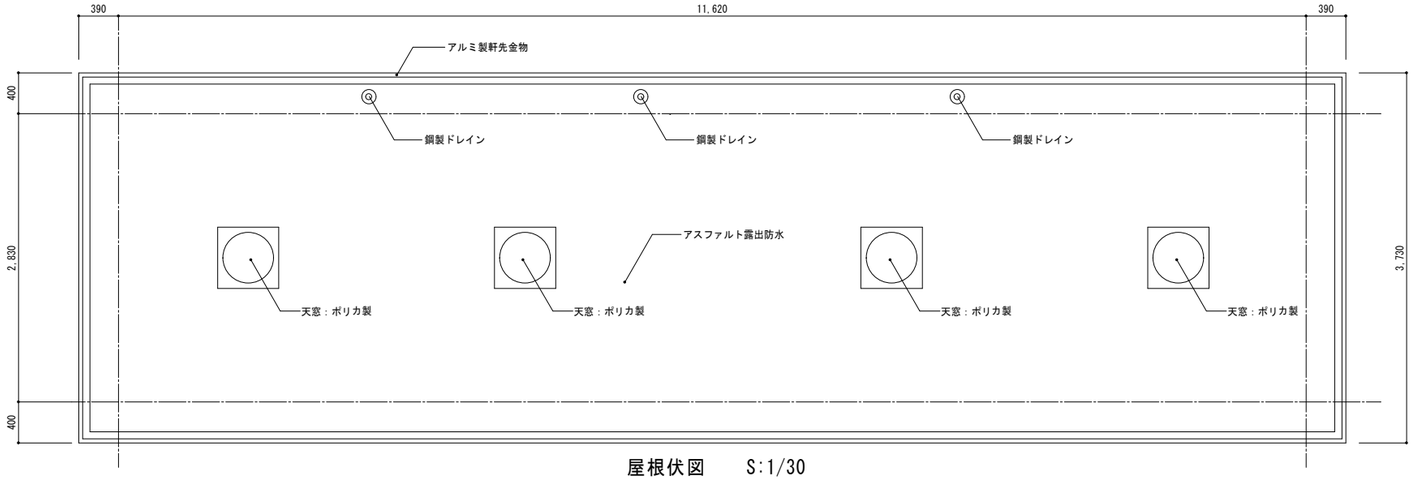
基礎伏図　S:1/30



平面図　S:1/30



西面図　S:1/30

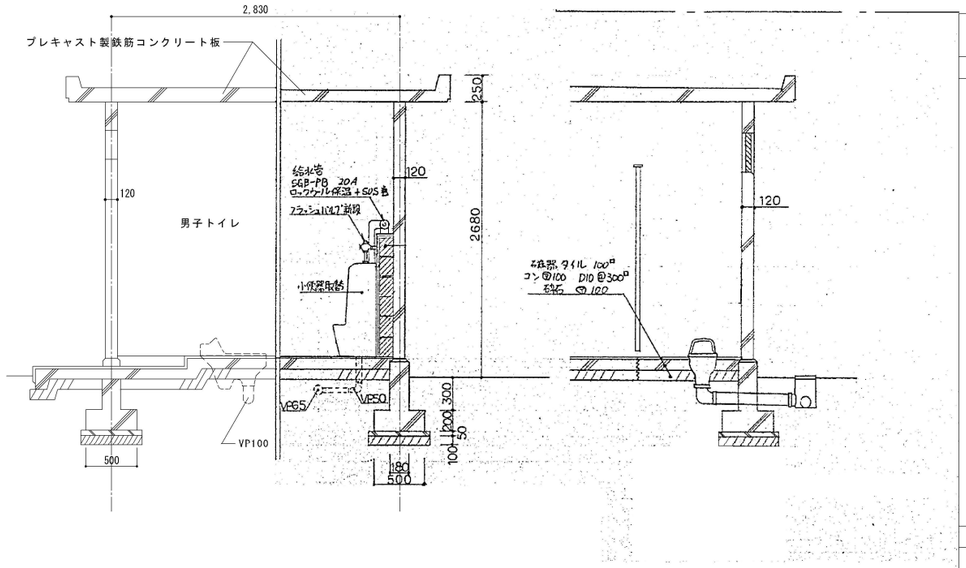


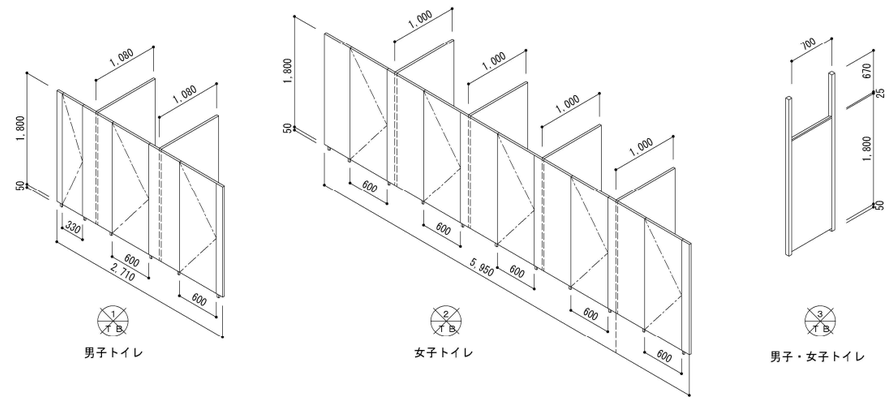
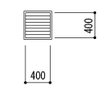
屋根伏図　S:1/30

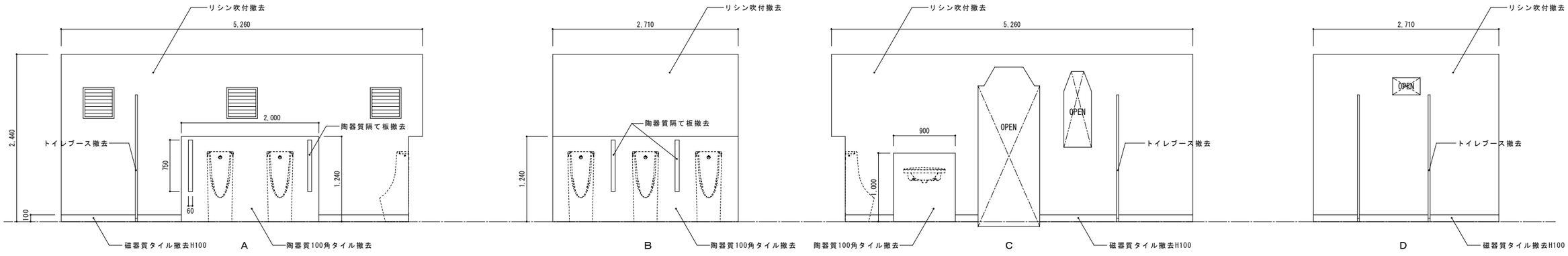
特記事項

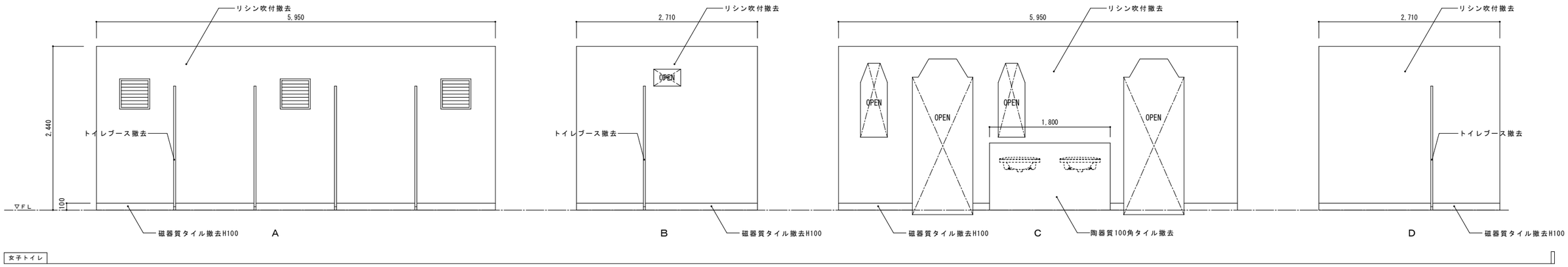
株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日 2025 年 9 月　日
図面名称	撤去　平面図　立面図　基礎伏図	縮尺 A1:1/10・30 A3:1/20・60
		図面番号 K ― 03



記号・名称	①/TB ②/TB ③/TB トイレブース	①/AG アルミ製 ガラリ
位置・個数	男子トイレ 女子トイレ	男子トイレ 女子トイレ
姿図		
仕上・見込	メラミン一体形バーチクルボード 見込：30	アルミ（シルバー） 見込：70
金物	ステンレス頭つなぎ20×40、ヒンジ、その他付属金物一式	ガラリ
備考		

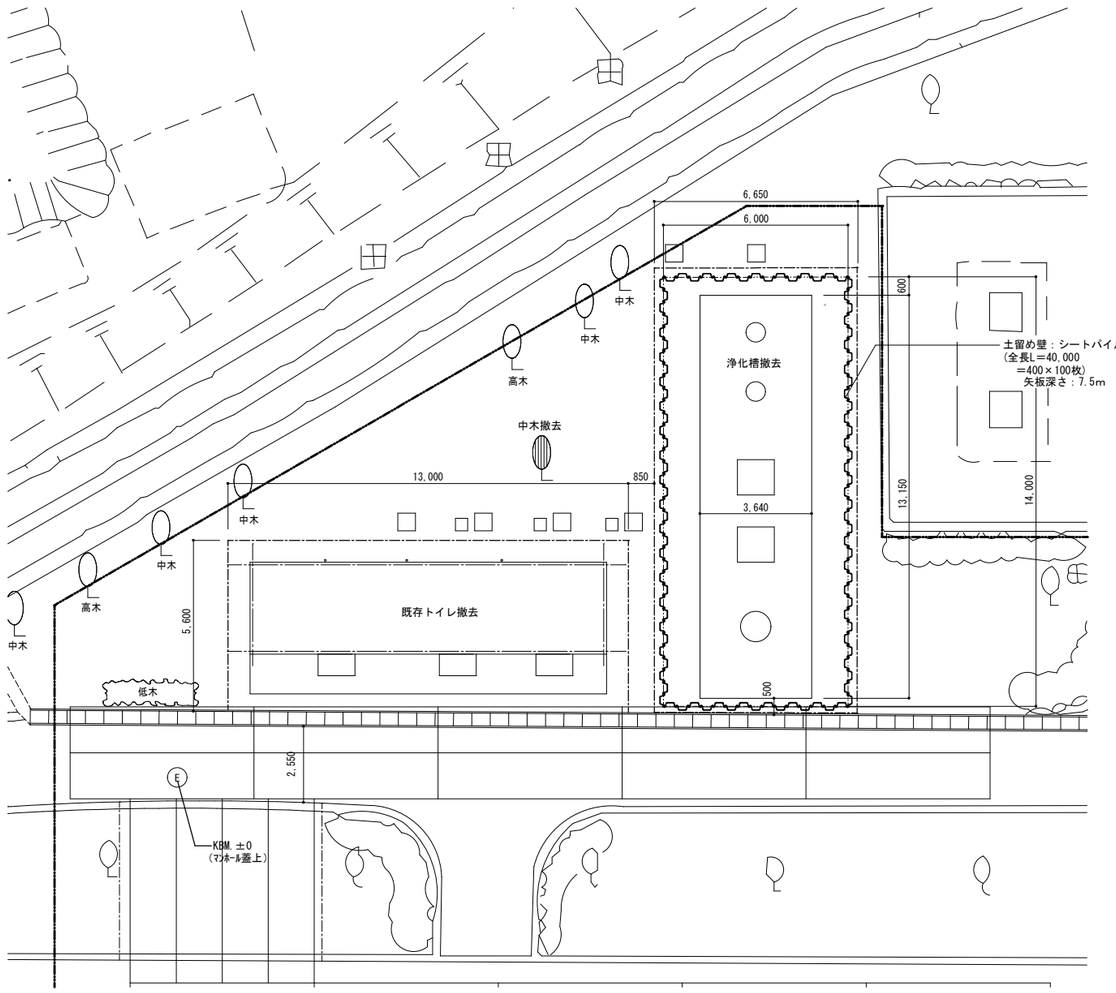




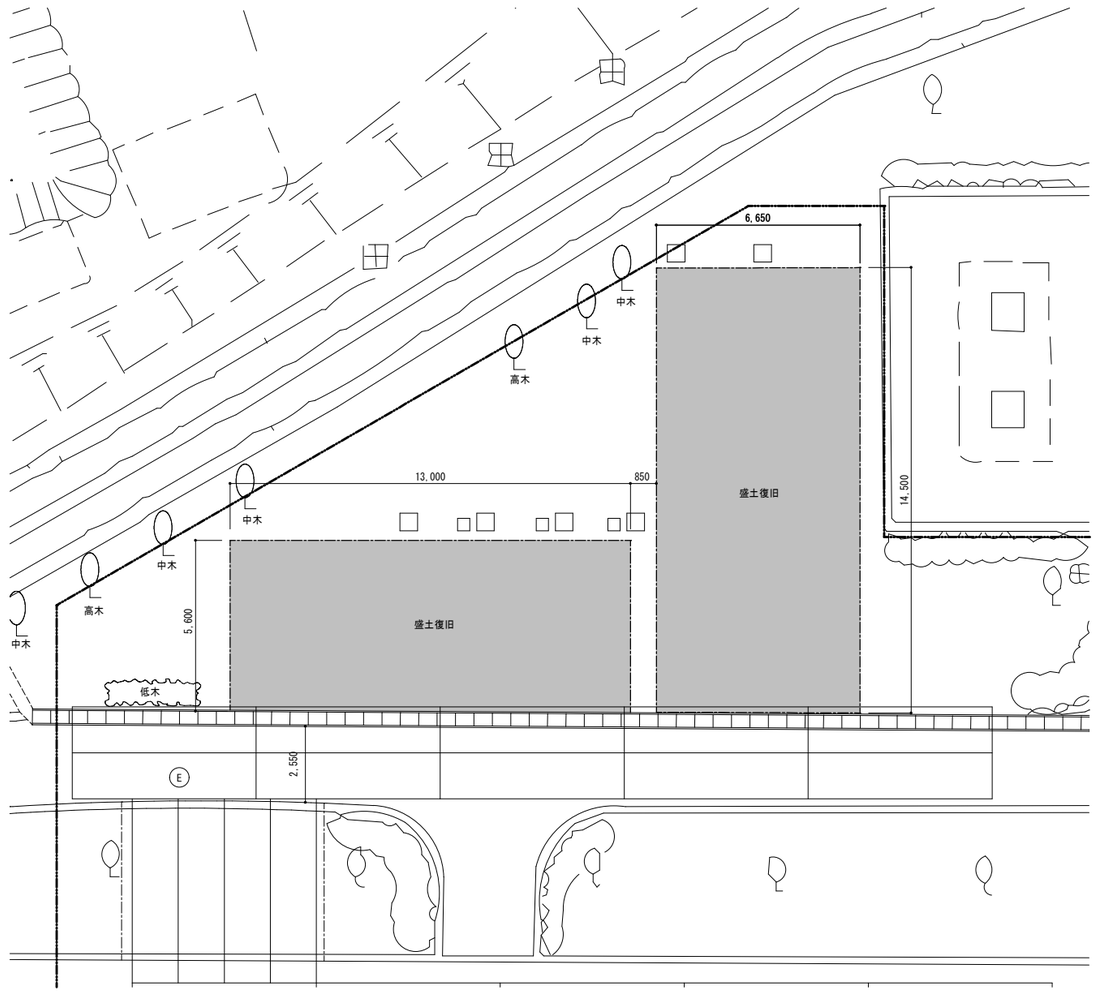
特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号 佐々木 昌喜

工事名称	令和８年度 台山公園トイレ改築工事		設計年月日 2025 年 9 月 日
図面名称	撤去 断面図 展開図 建具表	縮尺 A1:1/30・50 A3:1/60・100	図面番号 K — 04



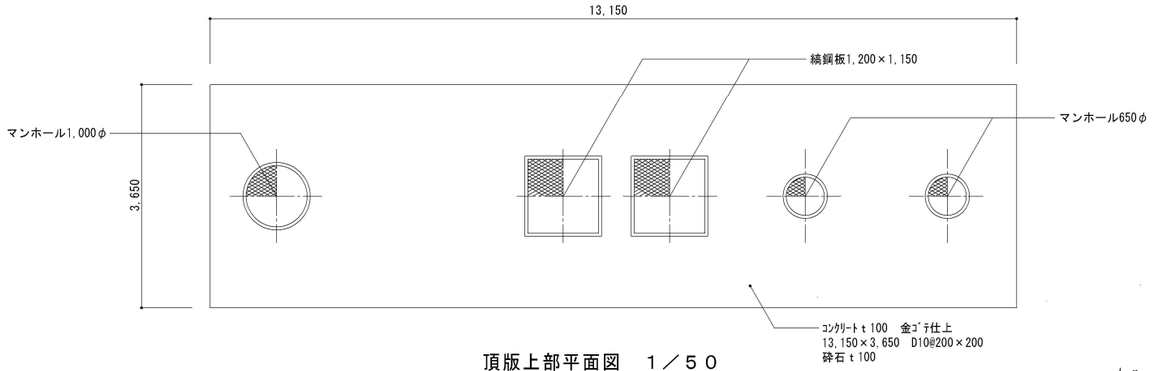
撤去　既存トイレ本体及び浄化槽　外構図　　S:1/100



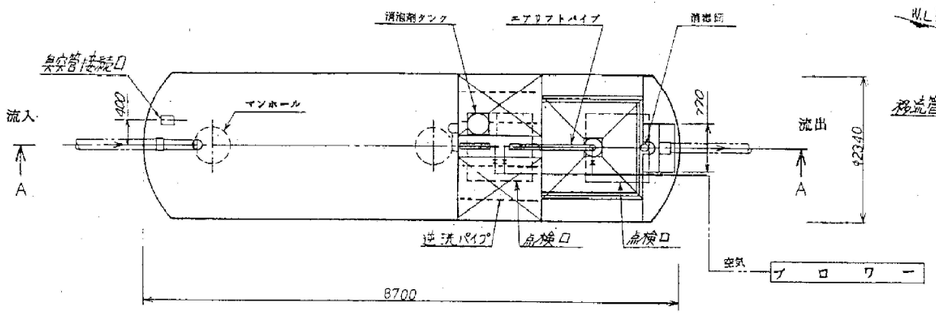
復旧　既存トイレ本体及び浄化槽　外構図　　S:1/100

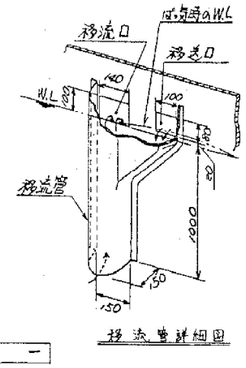
特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜	工事名称：令和８年度　台山公園トイレ改築工事		設計年月日：2025 年 9 月　日
	図面名称：撤去・復旧　既存ﾄｲﾚ外構図	縮尺：A1：1/100 A3：1/200	図面番号：K — 05



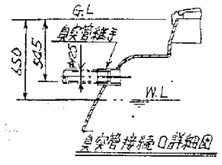
頂版上部平面図　１／５０

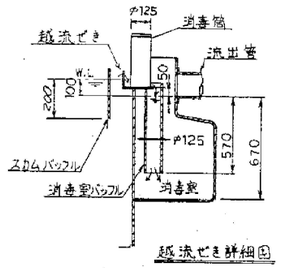


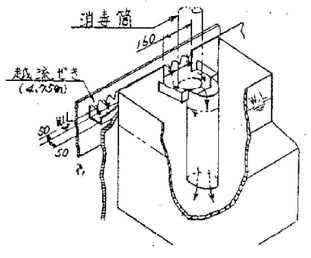


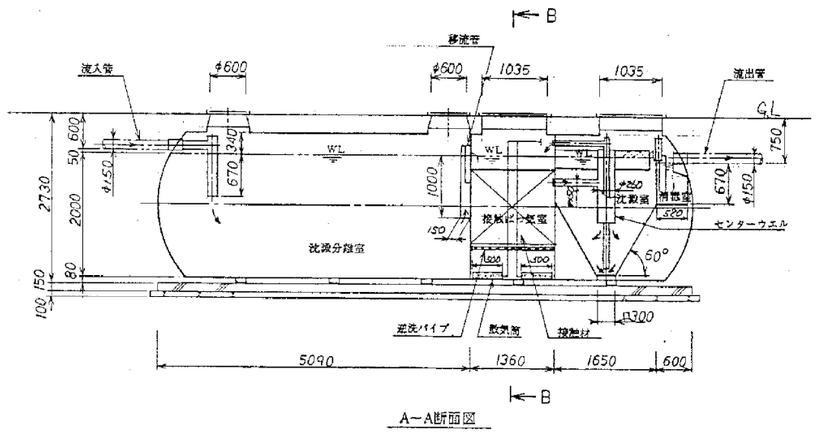
仕様表

No	項目		単位	仕様
1	有効容量			
	1.1	沈殿分離室容量	㎥	19.104
	1.2	接触ばっ気室容量	㎥	5.323
	1.3	沈殿室容量	㎥	3.017
	1.4	消毒室容量	㎥	0.239
2	ブロワー			330 ℓ/m (at3000mmAq)
				400W×3相×200V
3	流入管　流出管			硬質塩ビ管φ150
4	移流管			硬質塩ビ管φ150 ・ FRP 150×150
5	接触材			硬質塩ビ製波板
6	槽材質			FRP(強化ポリエステル)
7	槽カバー材質			縞鋼板・ポリコン

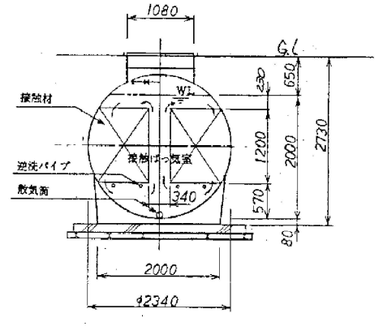








A～A断面図



B～B断面図

製図	ミライズ 125-5-2	第三角法	品名	KR-200
事業	ユーザ 125-5-3	尺度		構造図
承認	ミライズ 125-5-3	1/50		
日立化成工業株式會社 結城工場			図番	YUC 66188

特記事項		株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌著	工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事
			図面名称	撤去（浄化槽　単独200人槽）（参考図）
			縮尺	A1：1/50 A3：1/100
			設計年月日	2025 年 9 月　日
			図面番号	K — 06

電気設備工事特記仕様書【令和７年４月版】

Ⅰ．工事概要

１．工事名　令和８年度　台山公園トイレ改築工事

２．工事場所　角田市角田字寺前地内外

３．建物概要

建物名称	構造	階数	延べ面積(㎡)	建築面積(㎡)	消防法施行令別表第一による用途区分	備考
台山公園						

４．工事種目（○印のついたものを適用する。）

工事種目 ＼ 建物別及び屋外	工事種別 台山公園				屋外	備考
○電灯設備						
○動力設備						
○電熱設備						
○雷保護設備						
○受変電設備						
○電力貯蔵設備						
○発電設備						
○構内情報通信網設備						
○構内交換設備						
○情報表示設備						
○映像・音響設備						
○拡声設備						
○誘導支援設備						
○テレビ共同受信設備						
○監視カメラ設備						
○駐車場管制設備						
○防犯・入退室管理設備						
○自動火災報知設備						
○中央監視制御設備						
○構内配電線路						
○構内通信線路						
○テレビ電波障害防除						
○その他工事	別紙仕様書による					

５．指定部分　※　なし　・　あり　（工　期：令和　年　月　日）（対象部分：　　）

６．概成工期　※　なし　・　あり　（工事工期より　　日前）

Ⅱ．特記仕様書

１．一般事項

（１）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編、令和７年版）」、公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編、令和７年版）、国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修の「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編、令和７年版）」による。

（２）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事特記仕様書を適用する。なお、機械設備工事の特記仕様書は（　／　）図、建築工事の特記仕様書は（　／　）図による。

２．特記事項

（１）項目は番号に○印のついたものを適用する。

（２）特記事項は、○印のついたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

○印と○印のついた場合は、共に適用するものとする。

章	項目	特記事項
一般共通事項	① 適用基準等	※　建設工事執行規則（昭和３９年３月宮城県規則第９号） ※　宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱（最新版） ※　営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和５年版） 及び工事写真撮影ガイドブック＜電気設備工事編＞（国土交通省大臣官房庁営繕部監修　令和５年版）
	② 機材等	※　本工事に使用する機材等は、設計図書に規定するもの、またはこれらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。 ※　本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては、「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ※　使用する材料のホルムアルデヒド仕様は、日本産業規格及び日本農林規格のＦ☆☆☆☆規格品、壁装材料協会規格適合品または同等品、化学物質等製品安全データシート等にホルマリン不使用が明示されたものとする。
	③ 機材の品質・性能証明	本工事着手前に機器製作図を提出し、監督職員の承認を受ける。 また、「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」（一社）公共建築協会）によって所要の品質・性能を有することの評価を受けた材料・機材等を使用する場合は、評価書の写しを監督職員に提出するものとする。
	④ 保険	本工事着手前に工事目的物及び工事材料等を、本工事完了後引渡し期日まで火災保険及びその他の保険に付し、写しを監督職員に提出する。
	⑤ 雇用	本工事は、公共職業安定所の紹介する者の雇い入れに努める。
	⑥ 施工計画書・施工図等	工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた施工計画書を作成し、監督職員に提出する。 工事の施工に先立ち、工種別施工要領書及び施工図等を作成し、監督職員の承認を受ける。
	⑦ 手続き	工事の着手、施工及び完成において、官公署その他関係機関への必要な諸手続き等は監督職員と協議の上、受注者が遅滞なく処理する。なお、当該手続きに係る費用は受注者の負担とする。
	⑧ 施工条件	別添の施工条件明示書による。
	⑨ 工事の一時中止	工事請負契約書第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、工事の続行に備え中止期間中における工事現場の管理計画書を提出すること。本計画書には、中止時点における工事の出来高、搬入材料及び建設機械器具等の調書、中止期間中の体制及び工事現場の維持管理に関することを記載すること。
	⑩ 工事実績情報の登録（CORINS）	請負額が500万円以上の場合は、工事実績情報を登録する。 受注時、変更時及び完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け、登録手続きを行い、工事カルテの受領証を、監督職員に提出のこと。
	⑪ 事故報告	施工中に事故が発生した場合は、直ちに監督職員に通報するとともに、「事故報告書」を別に指示する期日までに監督職員に提出する。
	⑫ 電気保安技術者	電気工作物に係る工事においては、電気保安技術者を置くものとする。
	⑬ 工事用電力、水、他	本工事に必要な工事用電力、水などの費用は引渡まですべて受注者の負担とする。
	⑭ 工事用仮設物	構内につくることが　※　できる　・　できない
	⑮ 監督職員事務所	※　設けない　・　設ける（　　号・・・建築工事）
	16. 足場、さん橋類	・　別契約の関係請負者が設置したものは、無償で使用できる。　・　本工事で設置する。 なお、枠組足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン」（厚生労働省平成21年4月改訂）によるものとし、二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。
	⑰ 工事表示板	※　設置する　設置枚数　１枚 営繕工事における工事及びコスト表示要領（平成14年2月6日宮城県土木部営繕課・設備室制定）により設置する。 ・　設置しない
	⑱ 工事用通路	※　指定しない　・指定する（図示）
	⑲ 発生材の処理等	発生材の処理 ・　引渡しを要するもの　（　　） ・　特別管理産業廃棄物　（　・　PCB使用機器　・　　） 受入施設名・所在地　： ・　現場において再利用を図るもの（　　） ・　再資源化を図るもの

種類	受入施設名	所在地（km）	備考
・金属類			
・蛍光管			

・　その他安定型廃棄物　（　　）
受入施設名・所在地　：
・　その他管理型廃棄物　（　　）
受入施設名・所在地　：
ＰＣＢを含有する機器等については飛散、流出がないように適切な場所に保管し、工事完了後監督職員に引き渡す。

	20. 残土処理	※　構内指示の場所に敷き均し　・　構内指示の場所に堆積　・　構外搬出
	21. 耐震施工	耐震施工における設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」（(独）建築研究所監修）による。本工事の施設分類は（　・　特定の施設　・　一般の施設　）で地域係数は１とし、設計用標準水平震度は下表のとおりとする。なお、（　）内の数値は防震支持の機器の場合に適用する。

設置場所 ＼ 設計用標準震度	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)
中層階	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
一階及び地下層	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

重要機器類
・　配電盤類　・　発電装置　・　ＵＰＳ装置　・　直流電源装置
・　交換機　・　受信機（自立型）　・　中央監視装置　・　情報通信ラック

重量が１００kg以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても、耐震を考慮し、据付等を行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。

	22. 風圧加重	※　風速６０ｍ／ｓ　・　　ｍ／ｓ ・　雷保護設備受雷部　・　照明ポール・基礎　・　テレビ共同受信装置アンテナ・アンテナマスト

一般共通事項	23. 他工事との工事区分	他工事との工事区分は図面に特記なき場合、「各工事の工事区分表」による。
	24. 保温、結露防止	外部に面する壁、天井でＦＰ板（スタイロホーム等）打込み箇所に取付ける位置ボックスなどは、保温、結露防止処理を行う。
	㉕ 電線類	本工事では環境配慮の観点から、原則としてＥＭケーブルを使用するものとする。
	26. 合成樹脂製可とう管	合成樹脂製可とう管は、ＰＦ管（一重管）とし、温度による分類はタイプ−25とする。
	27. 二種金属製可とう管	露出箇所　・　ビニル被覆あり　・　ビニル被覆なし いんぺい箇所　・　ビニル被覆あり　・　ビニル被覆なし
	28. 電線本数、管路など	分電盤、制御盤、端子盤などの２次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径などは、監督職員の承諾を受け変更してもさしつかえない。
	29. インサート	鋼鈑製とする。なお、床版で保温板打込み部分は、断熱材インサート（亜鉛めっき製品）を使用する。
	30. 呼び線	長さ１ｍ以上の通線しない電線管には、１．２ｍｍ以上のビニル被覆鉄線を通線する。
	31. フラッシュプレート	図面に特記なき場合、（　※　金属製（ステンレス・新金属も含む）　・　樹脂製　）とする。
	32. フロアプレート・ベース	※　水平高低調節付（空転防止リング付）　・　鋼合金製　・　アルミ合金製
	33. ハンドホール蓋	県章およびチェーン（ステンレス製）付のものとする。
	34. 支持金物、固定金物	屋外の機器及び配管に使用する支持金物（ボルト類）はステンレス製とし、屋外機器のアンカーボルトのナットには、ナットキャップ（樹脂製）を取り付ける。 また、振動をともなう機器の支持金物のナットは、ダブルナットとする。
	35. あと施工アンカー	施工方法　・　接着系　（　※　有機系　・　接着剤　） ・　金属拡張系　（　※　本体打込式　・　　） 性能・施工確認　※　行わない　・　行う
	36. 接地極の種別・表示等	接地極は図面に特記なき場合、下表による。なお、ＥＢの長さは１．５００ｍｍとする。 ただし、Ｄ＝１０は１，０００ｍｍ、Ｗ＝３０は１，２００ｍｍとする。 装柱機器及び屋外灯用接地極の埋設標柱は不要とする。

接地の種別	記号	接地抵抗値	接地極の規格、数量
・雷保護設備用接地	ELA	Ω以下	ＥＰ×２
・雷保護設備用接地	ELA	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×　連一　組
・共同接地	EA・ED・ELH	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×３連−２組
・共同接地	EA・EC・ED	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×３連−２組
・Ａ種	EA	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×３連−２組
・Ｂ種	EB	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×２
・Ｃ種	EC	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×３連−２組
・Ｄ種	ED	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×１
・			
・構内交換機（陽極）用	Et	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×３連−　組
・本配線盤の保安装置	EAt	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×３連−２組
・電話引込口の保安器	EDt	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×１
・拡声増幅器	EDa	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×１
・防犯装置用	ES	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×３連−　組
・			
・測定用	Eo	――――	ＥＢ(Ｄ＝10又は W＝30)×１
・避雷器用（低圧用）	ELL	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×３連−２組
・避雷器用（高圧用）	ELH	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×３連−２組
・避雷器用（モデム用）	EMD	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は W＝40)×１
・構造体接地			建築構造体利用（通信用も含む）

	37. 総合調整	各機器の個別運転後に総合調整を行い、報告書を提出すること。 ・　受変電設備　・　発電設備　・　照明装置　・　構内交換設備　・
	38. 塗装工事	下記部位に使用する外面めっき電線管の露出配管には塗装を施す。 ※　屋外　※　居室　・
	39. 山留め	切取り面にその箇所の土質に見合った勾配を保って掘削できる場合を除き、掘削の深さが1.5mを超える場合には、山留めを行うものとする。
	40. 舗装工事	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（建築工事編）２２章（舗装工事）及び建築工事監理指針（下巻）２２章（舗装工事）による。
	㊶ はつり	既存コンクリート床、壁などの配管貫通は、原則としてダイヤモンドカッターによる。
	42. 再使用機器	再使用する機器は、現場内で清掃、絶縁抵抗測定のうえ、取り付ける。
	43. 撤去後の補修等	機器撤去後の天井、壁及び床等の補修は、既存仕上げと同等とする。なお、施工に際し、既存設備及び施設に損傷を及ぼした場合は、原状に復旧する。
	44. アスベスト	アスベストについては、労働安全衛生法（石綿障害予防規則）・廃棄物処理法等に則り、事前調査を実施し、調査結果を整理のうえ、監督職員へ報告すること アスベスト使用状況（　　）
	45. 有害物質の取り扱い	ＰＣＢ（変圧器、コンデンサ、安定器等）、鉛・カドミウム（鉛蓄電池、小形二次電池等）、水銀、放射性物質（イオン化式感知器等）の有害物質の含有を搬出前に確認し、監督職員に報告書を提出するとともに、その処理方法を監督職員と協議し、関係法令に基づき適正に取り扱うこと。

電灯設備	① 工事範囲	○　配管　○　配線　・　分電盤類　○　機器類　○　撤去一式
	② 電気方式	・　幹線　単相３線式　１００／２００Ｖ　５０Ｈｚ ・　分岐　単相３線式　１００／２００Ｖ ○　分岐　単相２線式　１００Ｖ 幹線　・　金属管配線　・　ケーブル配線
	③ 施工方法	分岐　電灯　・　合成樹脂管配線　・　金属管配線　○　ケーブル配線　・　その他（　　） コンセント　・　合成樹脂管配線　・　金属管配線　・　ケーブル配線　・　その他（　　） 屋外露出　・　合成樹脂管配線　・　金属管配線　・　ケーブル配線 ボックス　・　合成樹脂製　・　金属製
	④ 照明器具	ＬＥＤ　○　一体型　○　直管型（ＪＥＬ８０１）　○　直管型（ＪＥＬ８０２）　・　ダウンライト　・　その他
	５．防災用照明器具	・　非常用照明器具　（　※　電池内蔵形　・　電源別置形　） ・　誘導灯　（　※　ＬＥＤ誘導灯　・　誘導標識　）
	６．照度測定	照度測定は、原則、本工事範囲全て行うものとするが、これにより難い場合は監督職員との協議による。
	７．ハイテンション アウトレット	※　銅合金製　・　アルミ製 ※　飛び出し形　・　外部固定形
	８．人感センサプレート	照明の人感センサ制御を行う部屋には注意プレートを設置する。
	９．予備配管	埋込形分電盤からの立上り予備配管は、予備の配線用遮断器が４個以下の場合は（ＰＦ２２）を１本、５個以上の場合は（ＰＦ２２）を２本以上、天井裏まで立上げる。 梁下に配管・配線スペースのない梁には、１スパンにＶＥ（３６）２本を予備スリーブとして埋込む。
動力設備	① 工事範囲	・　配管　○　配線　・　制御盤類
	② 電気方式	・　幹線　三相３線式　２００Ｖ　５０Ｈｚ ・　分岐　三相３線式　２００Ｖ
	③ 施工方法	幹線　○　金属管配線　○　ケーブル配線　・　その他 分岐　・　合成樹脂管配線　○　金属管配線　・　その他 屋外露出　・　合成樹脂管配線　○　金属管配線　・　ケーブル配線 ボックス　○　合成樹脂製　○　金属製
	４．警報盤	※　壁掛形（電源装置　※　内蔵　・　別置　）　・
	５．電磁開閉器用押釦（遠方操作用）	※　埋込連用形配線器具　・
	⑥ 機器の接続	電動機などへの接続は本工事とする。
	⑦ 電動機等の接地	図示以外は金属管接地とする。
	８．進相用コンデンサ	各負荷ごとに適合するコンデンサを取り付ける。
	９．電気自動車用充電装置	・　機器類　・ ・　普通充電装置　電圧　相　Ｖ　・　屋外型　・　屋内型 ・　急速充電装置　直流電圧　Ｖ
電熱設備	１．電気方式	幹線　相　線式　Ｖ　５０Ｈｚ 分岐　相　線式　Ｖ
	２．施工場所及び面積	・　（　㎡）　・　（　㎡）

雷保護設備	１．工事範囲	・　受雷部　・　引下げ導線　・　接地極埋設
	２．受雷部	・　突針　・　棟上導体　・　笠木（別途）など
	３．避雷導線	・　引下げ導線　・　構造体利用
	４．接地極	※　接地極埋設　・　構造体利用（測定時期　　回数　　）
	５．測定用補助接地極	・　設置
受変電設備	１．工事範囲	・　機器類　・
	２．電気方式	・　高圧　三相３線式　６ｋＶ　５０Ｈｚ ・　低圧　三相３線式　２００Ｖ　・　低圧　単相３線式　１００Ｖ／２００Ｖ
	３．引込ケーブル	・　ＥＭ−ＣＥＴ３８°　・　ＥＭ−ＣＥＴ６０° ・　ＥＭ−ＣＥ３８°−３Ｃ　・　ＥＭ−ＣＥ６０°−３Ｃ　・
	４．配電盤	・　屋内形　・　屋外形（防塵処理及び結露対策を施す） ・　キュービクル式配電盤　・　高圧閉鎖配電盤　・　・
	５．主遮断装置	※　限流ヒューズ及び高圧負荷開閉器（ＰＦ−Ｓ）　・　高圧交流遮断器（ＣＢ） 定格遮断電流　ｋＡ
	６．高圧機器類	・　油入式　・　モールド
	７．変圧器	・　単相変圧器　ｋＶＡ　・　三相変圧器　ｋＶＡ （油入式：ＪＩＳ Ｃ4304-2013適合品 乾式：JIS C4306-2013適合品）
	８．進相用コンデンサ	・　低圧　・　高圧 ・　油入式　・　ガス式
	９．リアクトル	・　６％　・　１３％ ・　油入式　・　モールド
	10．自動力率制御装置	・　メーターリレー形　・　静止形
	11．測定用補助接地極	・　設置
電力貯蔵設備	１．直流電源装置	※　非常用照明器具電源、受変電設備制御電源供用　・　受変電設備制御専用　・　非常用照明器具専用 蓄電池　・　鉛蓄電池（　・　ＨＳ　・　ＣＳ　・　ＭＳＥ　・　長寿命形ＭＳＥ　・　） ・　アルカリ蓄電池（　・ＡＨ　・ＡＭＨ　・　） ・　リチウムイオン蓄電池
	２．交流無停電電源装置	用途（　　） 容量　ｋＶＡ 蓄電池　・　鉛蓄電池（　・　ＨＳ　・　ＣＳ　・　ＭＳＥ　・　長寿命形ＭＳＥ　・　） ・　アルカリ蓄電池（　・ＡＨ　・ＡＭＨ　・　） ・　リチウムイオン蓄電池
発電設備	１．工事範囲	・　機器類　・
	２．形式	・　簡易形　・　キュービクル式　・　オープン形　・ ・　屋内形　・　屋外形
	３．発電機	電気方式　相　線式　５０Ｈｚ　電圧　Ｖ　定格出力　ｋＶＡ　運転時間　時間
	４．原動機	種類　・　ディーゼル　・　ガスタービン　・ 定格出力　ｋＷ以上（　ＰＳ以上） 始動方式　※　電気式　・　手動式 冷却方式　・　ラジエータ式　・　水冷循環式
	５．燃料	種類　・　軽油　・　灯油　・　Ａ重油 燃料小出槽　Ｌ 主貯油槽　・　なし　・　あり（　・　別途　・　本工事：　）
	６．太陽光発電装置	太陽電池アレイ公称出力　ｋＷ パワーコンディショナ　相　線式　定格電圧　Ｖ　定格出力　ｋＷ 自立運転　・　有　・　無 蓄電池　・　有（定格容量　ｋＷｈ）　・　無
	７．系統連系	・　有　・　無
構内交換設備	１．工事範囲	・　交換機　・　電話機　・　配線（　・　全部　・　端子盤以降　）
	２．電話交換機	形式　・　ボタン電話装置　・　デジタルＰＢＸ　・ＩＰ−ＰＢＸ　・ＶｏＩＰサーバ 回線数　局線　／　回線　内線　／　回線
	３．電話機への配線	電話機１台につき、下記のものを見込む。 ・　ＥＭ−ＴＩＥＦＯ．６５−２Ｃ　（　・２０ｍ　・　） ・　ＥＭ−ＥＢＴ０．４−２Ｐ　（　・２０ｍ　・　） ・　ワイヤープロテクタ　（樹脂製　外形寸法約２０×８）１．５ｍ
	４．ローテンションアウトレット（亀甲形）	※　一般電話用　個（　・　納入する　・　取り付ける　）
	５．保安器用接地	※　本工事　・　別途工事
通信・情報設備	１．工事範囲及び施工方法	工事範囲：配管（○）配線（○）機器類（○）合成樹脂管配線（○）金属管配線（○）ケーブル配線（○） 施工方法：通（○）埋（○）露（○） ・　構内情報通信網　・　・　・　・　・　・ ・　情報表示　・　・　・　・　・　・ ・　映像・音響　・　・　・　・　・　・ ・　拡声　・　・　・　・　・　・ ・　誘導支援　・　・　・　・　・　・ ・　テレビ共同受信　・　・　・　・　・　・ ・　テレビ電波障害防除設備　・　・　・　・　・　・ ・　監視カメラ　・　・　・　・　・　・ ・　駐車場管制設備　・　・　・　・　・　・ ・　防犯・入退室管理　・　・　・　・　・　・ ボックス　・　合成樹脂製　・　金属製
	２．構内情報通信網設備	種類　・　１０ＢＡＳＥ−Ｔ　・　１００ＢＡＳＥ−ＴＸ　・　１０００ＢＡＳＥ−Ｔ ・　１０ＧＢＡＳＥ−ＳＲ　・
	３．情報表示設備	・　親時計　回線（　※　壁掛形　・　自立形　）
	４．映像・音響設備	・　増幅器　Ｗ ・　ＶＴＲ　（　・　ＤＶＤ　・　ＢＤ　・　） ・　プロジェクタ（　※　前面投射式　・　背面投射式　） ・　音響設備　（　・ＣＤ　・　オーディオレコーダー　・　・　）
	５．拡声設備	・　一般放送用　・　非常放送兼用 ・　増幅器　Ｗ　（　※　卓上形　・　キャビネットラック形）
	６．誘導支援設備	・　インターホン　・　トイレ等呼出装置　・　音声誘導装置
	７．テレビ共同受信設備	・　テレビアンテナ（　・　ＡＵ−　・　ＣＳＢＳＡ−　・　ＣＳＡ−　） ・　地上波アンテナマスト（　※　壁面取付形　・　自立形　） ・　ＢＳアンテナマスト（　・　壁面取付形　・　自立形　） ・　電界強度測定及び受信調査（　※　全チャンネル　）
	８．テレビ電波障害防除設備	・　事前調査　・　機器類
	９．監視カメラ設備	・　白黒方式　※　カラー方式 ・　伝送方式　（　・　アナログ　・　ネットワーク　）
	10．駐車場管制設備	・　管制盤　・　検知器（　・　光線式　・　ループコイル式） ・　信号灯・警報灯　・　発券機　・　カーゲート　・　カードリーダー
	11．防犯・入退室管理設備	・　接地工事（　※　本工事　・　別途　）
火災報知設備	１．工事範囲	・　配管　・　配線　・　機器類
	２．火災報知装置	・　壁掛形　・　自立形 ・　受信機　型　級　回線（　アドレス） ・　複合盤　型　級　回線（火報　回線、自動閉鎖　回線、ガス漏れ　回線） ・　副受信機　型　級　回線 ・　機器収容箱　・　専用形（　・　埋込形　・　露出形　）　・　屋内消火栓箱に組込み ・　感知器類　型用　総数　個（　・　自動試験機能付　）
	３．非常警報装置	・　非常ベル（自動式サイレンを含む）　・　非常放送装置
	４．自動閉鎖装置	・　連動制御器 ・　自動閉鎖装置（　・　防火戸用　・　防煙ダンパ用　・　防火シャッター用　） ・　感知器
	５．ガス漏れ火災警報装置	・　受信機　回線（　・　都市ガス用　・　液化石油ガス用） ・　単独（　・　壁掛形　・　自立形　）　・　火災受信機などとの複合盤 ・　検知器 ・　併設　・　連動 ・　定格電圧　（　・　ＡＣ１００Ｖ　・　ＤＣ２４Ｖ　） ・　ガス検知出力信号（　・　有電圧出力方式　・　無電圧接点方式　）
	６．消火器類	・　消火器　種別　・　数量　本 ・　消火器収納箱　仕様　・　材質　・　数量　面

中央監視制御設備	１．工事範囲	・　配管　・　配線　・　機器類
	２．監視制御対象設備	・　動力設備　・　受変電設備　・　発電設備　・　火災報知設備
	３．表示操作盤	・　壁掛形　・　自立形 組込み機器　・　・ ・　・
	４．監視制御装置	構成機器　・　グラフィックパネル　・内照式液晶ディスプレイ　・　操作卓 監視操作装置　・　信号処理装置　・　伝送装置　・　分散処理装置 ・　中央処理装置　・　補助記憶装置　・　記録装置　・　電源装置 ・　帳票用印字装置　（　・　インクジェット式　・　写真式　）
構内配電線路	１．工事範囲	・　管路　・　配線　・　機器類
	２．電気方式	・　高圧　三相３線式　６ｋＶ　５０Ｈｚ ・　低圧　三相３線式　２００Ｖ ・　低圧　単相３線式　１００Ｖ／２００Ｖ ・　低圧　単相２線式　１００Ｖ
	３．布設方法	※　地中埋設式（　・　ＦＥＰ　・　厚鋼電線管　・　ＧＬＴ　）　・　架空線式
	４．柱上機器	・　高圧負荷開閉器　※　一般用　・　耐重塩じん用 ※　地絡継電器付き（※　方向性　・　無方向性） ・　避雷器　※　一般用　・　耐塩用 ・　高圧カットアウト、がいしなど　※　一般用　・　耐塩用
	５．高圧ケーブルの端末処理	屋外側　※　一般用　・　耐塩用 ※　処理者銘板取付（屋内外共、線名、作業日、氏名を表示）
	６．その他	東北電力（株）外線工事基準（架空線編）に準ずる。
	７．外灯設備	・　定格電圧　Ｖ　Ｗ
	８．沈下対策	地中線路及びハンドホール等沈下が考慮される場合は、沈下対策を施す。（　　）
	９．標識シート	・　高圧ケーブル　・　低圧ケーブル
	10．予備配管	屋外キュービクルから第１ハンドホールまでの予備配管（ＦＥＰ１００：１本）を設ける。 分電盤、動力盤から建物へのハンドホールまでの予備配管（ＦＥＰ８０：２本）を設ける。
構内通信線路	１．工事範囲	・　管路　・　配線
	２．用途	・　電話用　・　時計、拡声用　・　火災報知用
	３．施工方法	※　地中埋設式（　・　ＦＥＰ　・　厚鋼電線管　・　ＧＬＴ　）　・　架空線式
	４．標識シート	※　弱電用

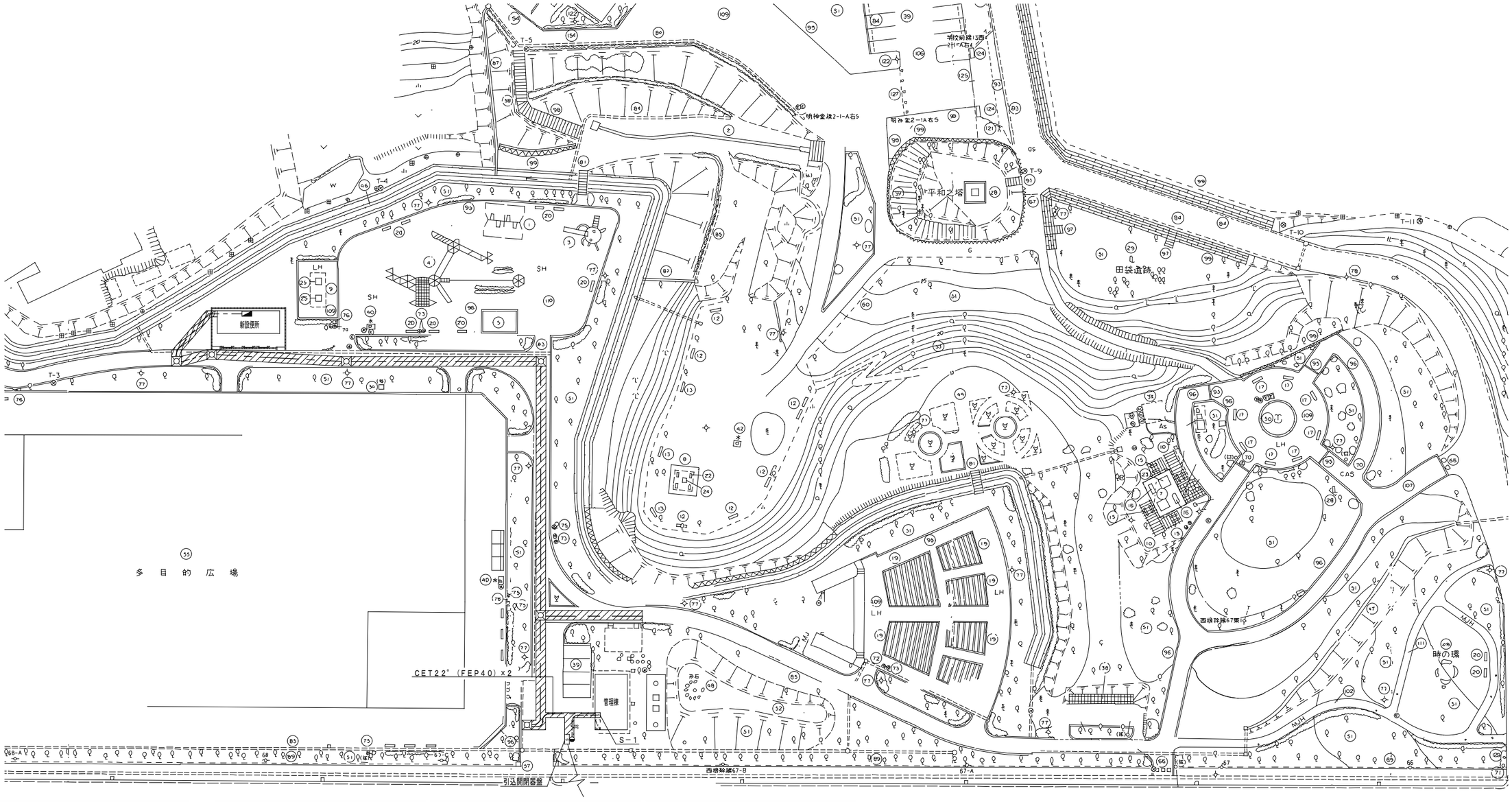
表２「機器取付高さ」　図面に特記なき場合は下表による。ただし、これによりがたい場合は監督員と協議する。

	電力設備			通信設備		
	名称	測点	取付高（mm）	名称	測点	取付高（mm）
電力共通	取引用計器	地上〜室中心	約 1,800	引込線更の高	地上〜引込点	
	引込開閉器	床上〜中心	1,800〜2,200	集合保安器箱	天井下〜上端	200
	分電盤	床上〜中心	1,500(上端1,900以下)	端子盤（節下、室内）	床上〜下端	300
				〃（ＥＰＳなど）	床上〜中心	1,500
				〃（ファン用）	床上〜下端	300
電話				壁付アウトレット（一　般）	床上〜中心	〃
				〃（和　室）	〃	150〜200
電灯	スイッチ（一　般）	床上〜中心	1,300	壁掛形親時計	床上〜中心	1,500(上端2,000以下)
	〃（和　室）	〃	1,200	子時計	〃	2,300
	コンセント（一　般）	〃	300	壁掛形スピーカ	〃	2,300
	〃（和　室）	〃	150〜 200	壁付アッテネータ	〃	1,300
	〃（台　上）	台上〜中心	100	壁付インターホン（一　般）	床上〜中心	1,300
	〃（ファン用）	床上〜下端	ファン下端	〃（身体障害者）	〃	1,300
	〃（厨　房）	床上〜中心	800〜1,000	壁付アウトレット（一　般）	〃	300
	〃（車　庫）	〃	1,300	〃（和　室）	〃	150〜200
	〃（機械室）	〃	500〜1,000	機器収容箱	天井下〜上端	200
	〃（土　間）	〃	800〜1,300	〃	床上〜中心	300
	ブラケット（一　般）	床上〜中心	2,100〜2,300	〃（和　室）	〃	200
	〃（誘　場）	〃	2,000〜2,500	表示盤	床上〜中心	2,300
	〃（鏡　上）	鏡上端〜中心	150	壁付発信機	〃	1,300
	避難口誘導灯	床上〜下端	1,500以上	ベル、ブザー、チャイム	〃	2,300
	廊下通路誘導灯	床上〜上端	1,000以下	壁付押しボタン（一　般）	床上〜中心	1,300
				〃（身体障害者玄関）	〃	900
動力	壁掛形制御盤	床上〜中心	1,500（上端2,000以下）	受信機	床上〜中心	800〜1,500
	開閉器箱	〃	1,500	副受信機	〃	800〜1,500
	電磁開閉器用ボタン	〃	1,300	機器収容箱	〃	800〜1,500
	非常ボタン（便所用）	床上〜中心	400、900	〃	〃	800〜1,500
呼出	壁付インターホン（親機）	〃	1,300	表示灯	床上〜中心	2,100
障害	〃（玄関子機）	〃	1,100	ベル	〃	2,300
者用	廊下表示灯（復旧ボタン付）	〃	1,300	液化石油ガス用検知器	床上〜上端	250
	身障表示ランプ	〃	1,500	都市ガス用検知器（軽質）	天井〜上端	150
	スイッチ	〃	1,100	〃（重質）	床上〜上端	250

表１「完成書類」　引き渡し時には下記の書類を提出する。

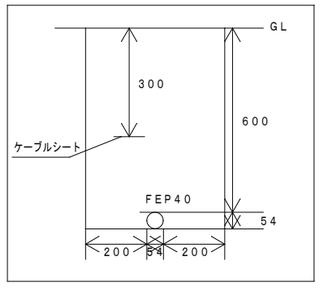
名称	完成書類	部数	名称	完成書類	部数
1　完成調書	営繕工事完成引渡調書 （令和７年４月１日版）	1部	7　管理の手引き ①工事概要書 ②機器完成図 ③機器別取扱説明書 ④保守に関する案内書 ⑤緊急連絡先一覧表	Ａ４版：チューブ式ファイル	1部
2　完成図書	Ａ４版：黒表紙金文字製本 （機器完成図、取扱説明書と合本可。ただし、厚さが８０ｍｍを超える場合は分冊とする。）	2部	8　工事写真 ①施工写真 ②完成写真	Ａ４版：チューブ式ファイル （着手前、施工状況、完成の各写真） Ａ４版：ペーパーファイル 完成届に添付	CD 2枚 1部 1部
3　完成図（縮小）	白焼縮小製本 Ａ３版二つ折り うち１部は設備課保管	2部			
4　完成図・施工図（電子データ）	JWW又はDXF形式のCADデータ及びPDF形式	1部			
5　機器完成図 ①機器別完成図 ②機材材質証明書 ③機材検査成績書 ④工場試験成績書 ⑤工場立会検査成績書 ⑥現場据付試験成績書 ⑦総合試運転成績書	Ａ４版：黒表紙金文字製本	1部	9　工事に関する書類 ①施工計画書 ②施工要領書 ③承諾書・確認書 ④協議書 ⑤打合せ議事録 ⑥工事週報又は日報 ⑦安全に関する書類 ⑧廃棄物管理票の写し ⑨官公庁への届出書	Ａ４版：チューブ式ファイル	1部
6　取扱説明書 ①保守に関する案内書 ②機器別取扱説明書 ③緊急連絡先一覧 ④各種保証書	Ａ４版：黒表紙金文字製本				

注記：機器参考図について
本図面中で、機器の品質・グレードを規定する目的で機器のサ法形状や諸元を参考図として記載している。
これらのものについては、その品質・性能が図面と同等品もしくはそ

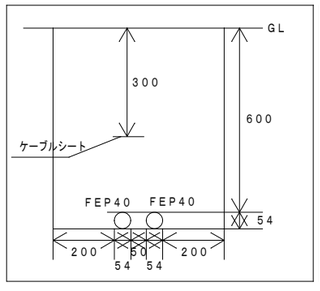


記号	名称	備考
⊠	ハンドホール	既設
	分電盤	既設
	新設便所　分電盤（建築工事）	
S	引込開閉器盤	改修
S	S－1	新設
	引込柱	既設
	アスファルト解体・復旧	
	根切・埋戻し	

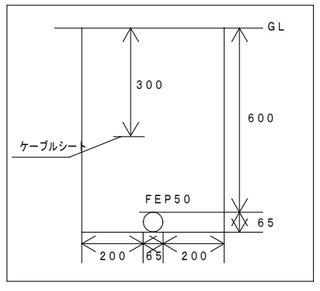
配線凡例	
―― ― ――	CET22°（FEP40）
―― 38 ――	CET38°（FEP50）



掘削断面図

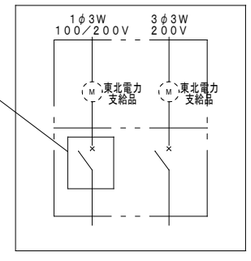


掘削断面図

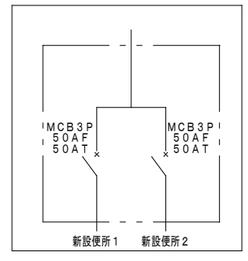


掘削断面図

1Φ3W　100／200V　MCB3P225AF／150AT×1　撤去
1Φ3W　100／200V　MCB3P225AF／200AT×1　新設



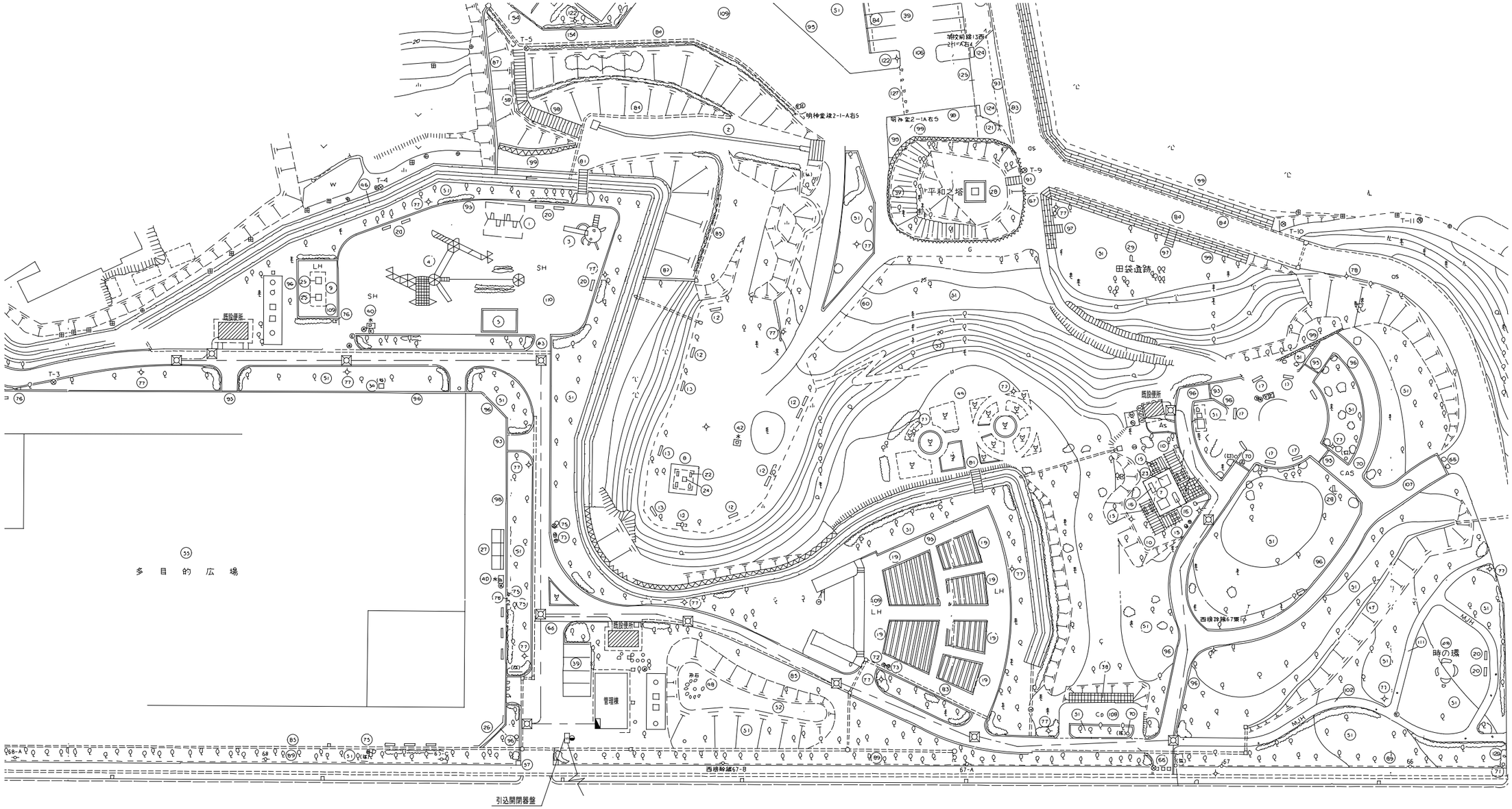
引込開閉器盤（改修）



S－1（新設）　鋼板製露出型　メーカー標準品

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜	
工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事
図面名称	構内配電線路（改築後）
縮尺	A1:1/400 A3:1/800
設計年月日	2025 年 9 月　日
図面番号	E ― 02



記 号	名　　称	備　考
⊠	ハンドホール	既設
◢	分電盤	既設
S	引込開閉器盤	改修
◒	引込柱	既設

配 線 凡 例	
―― ― ―― CV3．5－3C（FEP30）	ケーブルのみ撤去

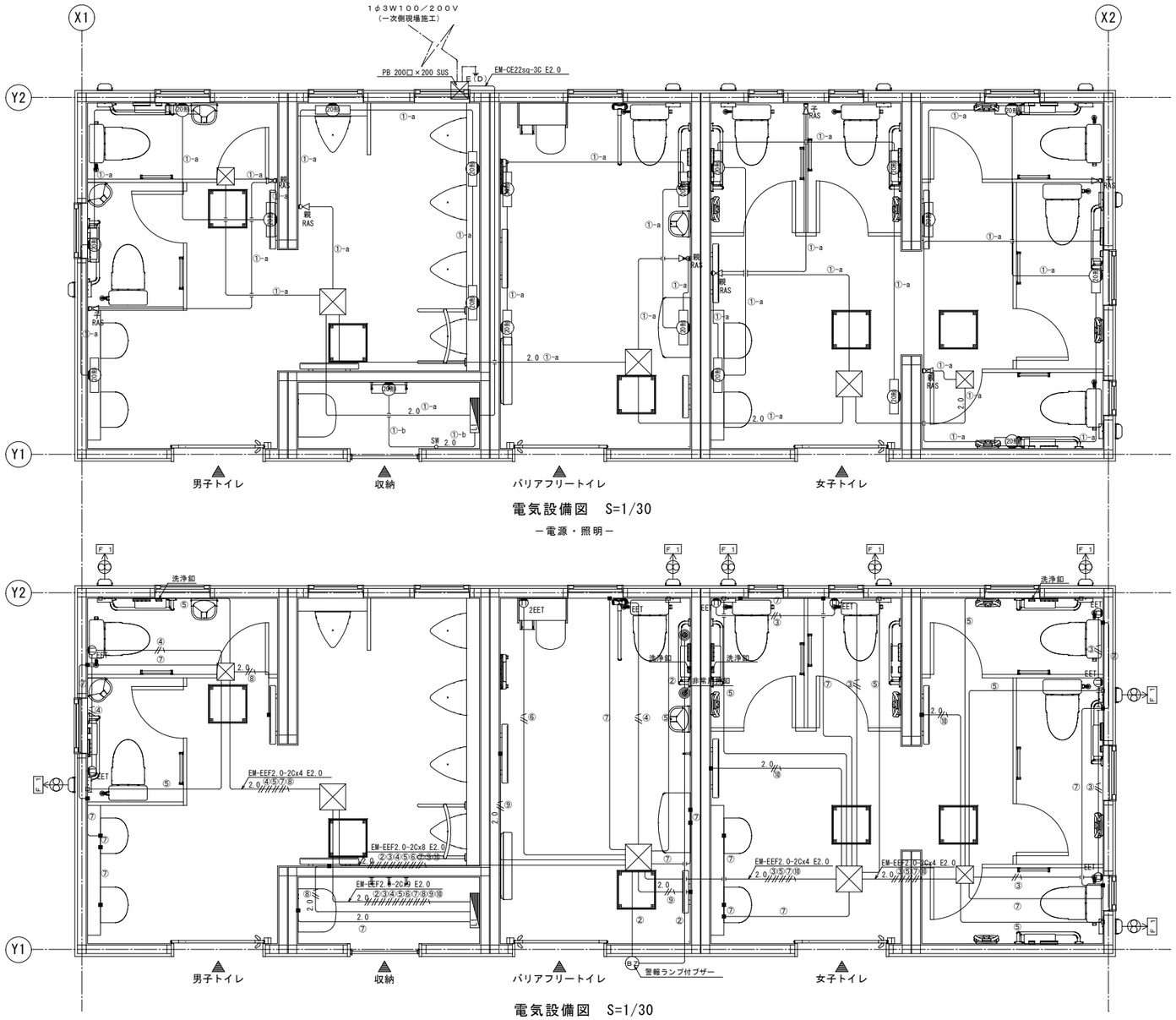
【既設便所解体】

蛍光灯４０W×１	6台
開閉器盤　３００×２００×１００	3面
プルボックス　２００×２００×２００	3個
蛍光管リスト	
ＦＬ４０W	6本

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌 著

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事		設計年月日 2025 年 9 月　日
図面名称	構内配電線路（改築前）	縮尺 A1:1/400 A3:1/800	図面番号 E ― 03



電気設備図　S=1/30

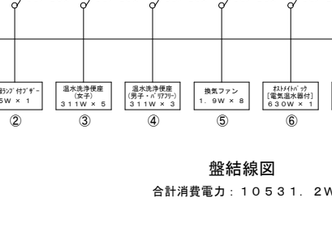
－電源・照明－

電気設備図　S=1/30

－警報・温水洗浄便座・換気ファン・オストメイトパック・電熱線・パネルヒーター

姿図

室内灯（２０形）	N	警報ランプ付ブザー	N
壁面取付・ＬＥＤ	２０	（５Ｗ）赤	1
記　号	20形	記　号	B2



記　号	名　　称	備　　考	N
Ｌ　1	**分電盤**	スチール製・鍵付	1
親 RAS	熱線センサ付自動スイッチ（親機）	室内灯用（トイレ用・壁面取付）	5
子 RAS	熱線センサ付自動スイッチ（子機）	室内灯用（トイレ用・壁面取付）	3
○ SW	手元スイッチ	室内灯用（収納用）	1
ロ	直結電源	換気ファン用	8
■	直結電源	電熱線・パネルヒーター用	23
EET	ｱｰｽﾀｰﾐﾅﾙ付接地一口コンセント	温水洗浄便座用（鍵・カバー付）	8
2EET	ｱｰｽﾀｰﾐﾅﾙ付接地二口コンセント	オストメイトパック用	1
F 1	室内換気ファン（φ１００）	人感センサ付	8
	ステンレスパイプフード	防虫網付	8
	パネルヒーター	500W　イタズラ防止カバー付	1
	パネルヒーター	1000W　イタズラ防止カバー付	1
	パネルヒーター	1375W　イタズラ防止カバー付	4
B2	非常用押釦	６Ａ３００Ｖ　ＡＣ	2
	外部Ｐ．Ｂ	ステンレス製・アース端子付	1

盤結線図

合計消費電力：１０５３１．２W

［ 特　記 ］

※　室内灯は壁面取り付けとする。
※　電気配線実線部は既製品の本体に含む。
※　電気配線点線部は一次側現場施工
※　アースの必要なものに関しては全て接地工事施工とする。
※　接地工事は一次側現場施工
※　電線はエコケーブルを使用する。

［ 凡　例 ］

———	EM－EEF1．6－2C
———//—	EM－EEF1．6－3C
2.0 ———	EM－EEF2．0－2C
2.0 ———//—	EM－EEF2．0－3C
⊠	内部P．B 200×200×200 WPVE製
⊠	内部P．B 300×300×200 WPVE製

特記事項	株式会社 櫻田建築設計事務所 一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号 一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜	工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事
		設計年月日	2025 年 9 月　日
		図面名称	トイレ　電気設備図
		縮尺	A1:1/30 A3:1/60
		図面番号	E ― 04

機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書【令和７年４月版】

Ⅰ．工事概要

１．工事名称　令和８年度　台山公園トイレ改築工事

２．工事場所　角田市角田字寺前　地内外

３．建物概要

建 物 名 称	構　造	階　数	延床面積(㎡)	建築面積(㎡)	消防法施行令別表第一による用途区分	備　考
屋外トイレ１	Ｓ造	１				

４．工事種目（○印のついたものを適用する。）

工事種目＼建物別及び屋外	工　事　種　別							屋　外
・空気調和設備								
・換気設備								
・排煙設備								
・自動制御設備								
・衛生器具設備								
○給水設備								
○排水設備								
・給湯設備								
・消火設備								
・厨房機器設備								
・ガス設備								
・さく井設備								
・浄化槽設備								
・昇降機設備								
・その他工事								

５．指定部分　※　なし　・　あり　（工　期：令和　年　月　日）　（対象部分：　　）

６．概成工期　※　なし　・　あり　（工事工期より　　日前）

６．設備概要　（○印のついたものは、主要方式を示す）

方　式	設　備　概　要
空気調和方式等	・空気調和　・全空気方式　・ファンコイルユニット，ダクト併用方式　・パッケージ方式
	・温風暖房　・全空気方式　・ファンコンベクター，ダクト併用方式
	・直接暖房　・温水暖房　・
自動制御方式	・電気式　・電子式　・デジタル式　・空気式　・中央監視制御
給水方式	・水道直結方式　・高置タンク方式　・タンクレスブースター方式　・
排水方式	建物内の汚水及び雑排水（・分流式　・合流式）
	建物内の汚水及び雑排水（・分流式　・合流式）
	放流先　汚　水（・下水道直放流　・浄化槽）
	雑排水（・下水道直放流　・浄化槽　・側溝　・別途桝）
給湯方式	・局所式　・中央式
消火設備方式	・屋内消火栓　（・湿式　・乾式）　・連結送水管　・屋外消火栓
	・スプリンクラー　（・湿式　・乾式）　・不活性ガス消火　・泡消化
	・粉末消火　・連結散水　・フード等用簡易自動消火　・消火器
ガス設備方式	・都市ガス　種別（　　）　ｋＪ／ｍ３（Ｎ）（供給圧力　　Ｐａ）　・液化石油ガス

Ⅱ．特記仕様書

１．一般事項　（１）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は，すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編　令和７年版）」（以下「標準仕様書」という。），同部設備・環境課監修の「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編　令和７年版）」（以下「標準図」という。）による。

（２）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合，電気設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお，電気設備工事の工事仕様書は（　／　）図，建築工事の工事仕様書は（　／　）図による。

２．特記事項　（１）項目は番号に○印のついたものを適用する。

（２）特記事項は○印のついたものを適用する。●印のない場合は，※印のついたものを適用する。

○印と●印の付いた場合は，共に適用するものとする。

章	項　目	特　記　事　項
一般共通事項	① 適用基準等	○ 建設工事執行規則（昭和３９年３月宮城県規則第９号） ○ 宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱（最新版） ○ 営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房庁営繕部整修　令和５年版） 及び工事写真撮影ガイドブック＜機械設備工事編＞　（国土交通省大臣官房庁営繕部監修　令和５年版）
	② 機 材 等	※　本工事に使用する機材等は，設計図書に規定するもの，またはこれらと同等のものとする。ただし，これらと同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受けるものとする。 ※　本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ※　使用する材料のホルムアルデヒド仕様は，日本産業規格及び日本農林規格のＦ☆☆☆☆規格品，壁装材料協会規格適合品または同等品。化学物質等製品安全データシート等にホルマリン不使用が明示されたものとする。 本工事草手前に機器製作図を提出し，監督職員の承諾を受ける。 また，設備機材は，設計図書に定める品質及び性能を有することの証明資料又は外部機関等が発行する資料等の写しを監督職員に提出して，承諾を受ける。なお，標準仕様書に規定される製作図，試験成績表等を含む。
	③ 機材の品質・性能証明	
	④ 保　険	本工事着手前に工事目的物及び工事材料等を，本工事完了後引渡し期日まで，火災保険及びその他の保険に付し，写しを監督職員に提出のこと。
	⑤ 雇　用	本工事は，公共職業安定所の紹介する者の雇い入れに努めること。
	⑥ 施工計画書および施工図等	工事の着手に先立ち，工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書を作成し，監督職員に提出する。 工事の施工に先立ち，工種別施工要領書および施工図等を作成し，監督職員の承諾を受ける。 また，県が実施する「公共事業環境マネジメントシステム」の対象工事においては，環境配慮計画（実施）書を作成し，監督職員に提出する。
	⑦ 工事実績情報の登録	請負額が５００万円以上の場合は，工事実績情報に登録する。 受注時，変更時及び完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け，登録手続きを行い，工事カルテの受領証を監督職員に提出のこと。
	⑧ 手続	工事の着手，施工，完成にあたり，関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等を遅滞なく行う。 なお，当該手続きに係わる費用は，受注者の負担とする。
	⑨ 事故報告	施工中に事故が発生した場合には，直ちに監督職員に通報するとともに，別に指示する「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。
	10. 電気保安技術者	※　配置する　・　配置しない
	⑪ 技能士の適用	本工事に下記の当該職種別技能士（・１級・２級）を適用させる。（資格証の写しを提出する） ○ 配管（配管工事）　・　建築板金（ダクト製作及び取付け）　・　熱絶縁施工（保温工事） ・　冷凍空気調和機器施工（手リングユニット，パッケージ形空気調和機の据付及び調整）
	12. 足場等	・　別契約の関係請負者が定置してものは無償で使用できる。　・　本工事で設置 枠組足場を設ける場合は，「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成２１年４月改訂）」によるものとし，二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。
	⑬ 監督職員事務所	※　設けない　・　設ける（　　号・・・建築工事仕様書）
	⑭ 工事用電力，水，その他	本工事に必要な工事用電力，水及び諸手続などの費用はすべて引渡しまで受注者の負担とする。 構内に作ることが　※　できる　・　できない
	⑮ 工事用仮設物	
	⑯ 残土処理	・　構外搬出　※　構内指示の場所に散き均し　・　構内指示の場所にたい積
	17. 発生材の処理	（１）建設リサイクル法の規定に基づく通知義務等の該当　・　なし　・　あり（　　） （２）フロンガス回収破壊法の規定に基づく措置の該当　・　なし　・　あり（　　） （３）引渡しを要するもの　※　なし　・　あり（　　） （４）廃棄物は，「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の関係法令を遵守し，場外搬出の上，適切に処分すること。 （ア）特別管理産業廃棄物 ※　なし　・　あり　（　　） （イ）特定建設資材廃棄物の再資源化等を行う施設 ・　コンクリート　（　　） ・　コンクリート及び鉄から成る建設資材（　　） ・　木　　材　（　　） ・　アスファルトコンクリート　（　　） （ウ）その他発生材の処分を行う施設 ・　コンクリートガラ等の安定型の産業廃棄物（　　） ・　木くず等の管理型の産業廃棄物　（　　） ※アスベストについては，労働安全衛生法（石綿障害予防規則）・廃棄物処理法等に則り，事前調査を実施し，調査結果を整理のうえ，監督職員へ報告すること

章	項　目	特　記　事　項
一般共通事項	⑱ 総合試運転調整等	※　本工事において下記の項目の総合試運転調整等を行い，報告書を提出する。　・　別途 総合試運転調整等の項目 ・　風量調整　○ 水量調整　・　室内外空気の温湿度測定 室内気流及びじんあいの測定　・　騒音の測定　・　初期運転状態の記録 ○ 来端水栓の水質測定　・　し尿浄化槽放流水質の測定 ○ 機器の絶縁抵抗の測定　○ 水圧調整 測定箇所は，監督職員の指示による。
	⑲ 容量等の表示	（１）機器類の能力，容量等は指示された数値以上とする。 （２）電動機出力，燃料消費量及び圧力損失は，原則として表示された数値以下とする。
	20. 耐震措置	機器，配管，ダクト等は耐震を考慮し堅固に据え付け，取付け又は支持を行う。 耐震措置の計算及び施工方法は，次に掲げる事項以外すべて建築設備耐震設計・施工指針（国土交通省国土技術政策総合研究所・独立法人建築研究所監修２０１４年版）による。
	㉑ 弁等のサイズ	設計用標準水平震度（Ｋａ）
	㉒ 電線類	本工事では環境配慮の観点から，原則としてＥＭケーブルを使用するものとする。なお，電気設備工事編標準仕様書第６編通信・情報設備工事による。
	23. 溶接部の非破壊検査	対象配管系統　・冷温水　・冷却水　・消火（水用）　・油　・ガス 検査の種類　・浸透探傷検査（ＰＴ）又は磁粉探傷検査（ＭＴ）　・放射線透過検査（ＲＴ）
	24. はつり	既存のコンクリート部の床，壁の配管貫通部等の穴開けは原則としてダイヤモンドカッターによる。
	㉕ 支持及び固定	（１）標準仕様書以外の天吊り機器の支持は，標準仕様書第３編２．１．１３（ｂ）に準ずる。 （２）横走りエダクト・主管の振れ止めは端部も行うこと。
	26. 支持金物・固定金具	（１）ポンプ・屋外機器のアンカーボルトのナット及び屋外の配管・ダクトに使用する支持金物はステンレス製（ＳＵＳ３０４）とし，ポンプ・屋外機器のアンカーボルトのナットにはナットキャップ（樹脂製）を取り付ける。 （２）振動を伴う機器の支持金物のナットはダブルナットとする。 （３）冷水及び冷温水管の吊バンド等の支持部は，合成樹脂製の支持ゲットを使用する。
	㉗ 埋戻し土・盛土	図面に特記のない場合は下記によるほか標準仕様書第２編による。ただし，各工事種目で別に指定されたものは除く。 ・　根切りまでの掘削底面（ただしヒューム管以外の管の周囲は山砂の間）　○ 山砂の間
	㉘ 地中埋設標及び埋設表示用テープ	地中埋設標及び埋設用テープは，下記により屋外埋設部分に布設する。なお，地中埋設標の設置場所は図示によるほか，屋外埋設管の分岐及び曲がり部に設置する。 （１）給水管　○ 地中埋設標　○ 埋設用表示テープ （２）ガス管　・地中埋設標　・埋設用表示テープ （３）油　管　・地中埋設標　・埋設用表示テープ （４）消火管　・地中埋設標　・埋設用表示テープ
	29. 保　温	・　主機械室は下記の室とし，他は各階機械室とする。 主機械室： ・　ダクトの保温の外装は下記による。内装は（・ロックウール　・グラスウール） 屋内露出：倉庫・書庫　・アルミガラスクロス　・ 各階機械室　・アルミガラスクロス　・ 主機械室　・アルミガラスクロス　・ 居室・廊下など　・カラー亜鉛鉄板　・ 屋内隠ぺい，ＰＳ内　・アルミガラスクロス 屋外露出，多湿箇所　・ステンレス鋼板 （　　） ・　配管の保温の外装は下記による。内装は（・ロックウール　・グラスウール　・ポリスチレンフォーム） 屋内露出：倉庫・書庫　・アルミガラスクロス　・ 各階機械室　・アルミガラスクロス　・ 主機械室　・アルミガラスクロス　・ 居室・廊下など　・合成樹脂製カバー　・ 屋内隠ぺい，ＰＳ内　・アルミガラスクロス 屋外露出，多湿箇所　・ステンレス鋼板　・着色アスファルトプライマー （　　）　・アスファルトプライマー　・ （１）下記部位に使用する，外面めっき鋼線管の露出配管には塗装を施す。 ※　屋外露出　※　居室 （２）保温を行わない居室・便所・給湯室及び屋外の露出配管（鋼管）には塗装を行う。
	30. 塗　装	
	31. 防食処理	土中埋設の鋼管（ステンレス鋼管及び外面被覆鋼管は除く）及び金属製継手類（防食製品・継手を含む）にはペトロラタム系防食テープ及びプラスチックテープによる防食処理を行う。（埋設配管は原則として，防食処理不要の管材とする。）
	㉜ 山留め	切取り面にその箇所の土質に見合った勾配を保って掘削できる場合を除き，掘削の深さが１．５ｍを超える場合には，山留めを行うものとする。
	33. 舗装工事	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の建築工事標準仕様書２２章（舗装工事）による。
	㉞ 他工事との取り合い	図面に特記なき場合は，表「工事区分表」による。
	35. 予備品等	ヒューズ（温度ヒューズも含む）及び表示灯は予備品として，２０％納入する（種別ごと最低１個）。
	㊱ 施工条件	別添の施工条件明示書による。
	37. 三相誘導電動機	省エネ法の特定機器の対象となる機器はＪＩＳＣ４０３４-３０:２０１１のＩＥ３（プレミアム効率）に相当する機器を導入すること。

設置場所	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階，屋上及び塔屋	２．０（２．０）	１．５（２．０）	１．５（２．０）	１．０（１．５）
中層階	１．５（１．５）	１．０（１．５）	１．０（１．５）	０．６（１．０）
一階及び地下階	１．０（１．０）	０．６（１．０）	０．６（１．０）	０．４（０．６）
	重要水槽（飲料用）	一般水槽	重要水槽（飲料用）	一般水槽
上層階，屋上及び塔屋	２．０	１．５	１．５	１．０
一階及び地下階，中間階	１．５	１．０	１．０	０．６

注（１）設置場所の区分は標準仕様書による。　注（２）（　）内の数値は防震支持の機器の場合に適用する。
（３）本工事の施設は（・一般の施設　・特定の施設）とする。
（４）地域係数は１．０とする。
（５）１００ｋｇ以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し，据付支持は取付を行うものとするが，前記指針の方法によらなくてもよい。
（６）昇降機のつり合おもりブロックの脱落防止は，十分な強度を有する方法で固定し，水平総直方向の地震力に対して，つり合おもりが枠から脱落しないようにした構造とすること。
特記されていない弁等のサイズは，機器付属品を除き接続配管のサイズと同じとする。

外　気		屋内（調整目標値）					
		一　般　系　統				コンピューター室系統	
温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）
夏期　30.6℃（９時） 32.4℃(12時) 32.6℃(14時) 31.8℃(16時)	65.5%（９時） 60.2%(12時) 57.8%(14時) 61.0%(16時)	２６℃	４５％	℃	%	２４℃	４５％
冬季　－２．０℃	６９．２％	２２℃	４０％	℃	%	２４℃	４５％

取付箇所は図示による。

屋内露出	倉庫・書庫	・アルミガラスクロス　・
	各階機械室	・アルミガラスクロス　・
	主機械室	・アルミガラスクロス　・
	居室・廊下など	・カラー亜鉛鉄板　・
屋内隠ぺい，ＰＳ内		・アルミガラスクロス
屋外露出，多湿箇所		・ステンレス鋼板
（　　）		

屋内露出	倉庫・書庫	・アルミガラスクロス　・
	各階機械室	・アルミガラスクロス　・
	主機械室	・アルミガラスクロス　・
	居室・廊下など	・合成樹脂製カバー　・
屋内隠ぺい，ＰＳ内		・アルミガラスクロス
屋外露出，多湿箇所		・ステンレス鋼板　・着色アスファルトプライマー
（　　）		・アスファルトプライマー　・

章	項　目	特　記　事　項
空気調和設備	1. 設計温湿度	上表による。
	2. ばい煙濃度計	※　別途　・　本工事（鋼板厚　　mm，高さ　　m以上）
	3. 煙　突	※　煙道径３００mm以下は鋼板厚３．２mm，３００mmを超えるものは４．５mmとする。　・　図示による。 （煙道径が４００mmを超えるものには，掃除口に螺番を取り付ける。）
	4. 煙　道	低圧とする（高圧１及び高圧２の部位は図示による。）
	5. ダクトの区分	・　アングルフランジ工法　・　コーナーボルト工法　（　・　共板　・　スライド）
	6. 長方形ダクトの工法	
	7. 風量測定口	取付け場所は図示による。取付面は監督職員の指示による。
	8. チャンバ	（１）内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。 （２）空気調和機に取付けるサプライチャンバー及びレタンチャンバーで消音内貼りしたチャンバーには，点検口を設ける。なお点検口の大きさは図示による。 （３）外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。
	9. 防煙ダンパ	（１）復帰方式　※　遠隔式（電気式（定格入力ＤＣ２４Ｖ，０．７Ａ以下） （２）復帰動作　※　順送り
	10. 配管材料	（１）冷温水管　※　配管用炭素鋼鋼管（白）　・ （２）冷却水管　※　配管用炭素鋼鋼管（白）　・ （３）蒸気管（給気管）　※　配管用炭素鋼鋼管（黒）　・ （還水管）　※　圧力配管用炭素鋼鋼管（Ｓｃｈ４０） （４）油管，油用通気管（一般）　※　配管用炭素鋼鋼管（黒）　・ （土中）　※　ポリエチレン被覆鋼管 （５）膨張管，空気抜き管，膨張タンクよりボイラ等への給水管 ※　配管用炭素鋼鋼管（白）　・ （６）空調用排水管　※　配管用炭素鋼鋼管（白）　・結露防止層付硬質塩化ビニル管 （７）冷媒管　※　断熱材被覆銅管　・　銅管

章	項　目	特　記　事　項
排煙設備	11. 弁　類	※　ＪＩＳ又はＪＶ５Ｋ　・　ＪＩＳ又はＪＶ１０Ｋ ステンレス鋼管に取り付ける弁類は，ステンレス製とする。
	12. 鋼管用伸縮管継手	※　ベローズ形　・　スリーブ形
	13. 温度計	※　標準仕様書，標準図による他，図示した箇所に取り付ける。（配管用はＬ形，ダクト用は円形） ・　空気調和機，温風暖房機まわりの給気ダクト，還気ダクト及び外気ダクト ・　冷温水ヘッダー（往）及び冷温水ヘッダーの各還り管 ・　パッケージ形空気調和機の冷却水及び温水の出入口
	14. 瞬間流量計	※　着脱可能形（※　全数　・　図示による） 着脱可能形の場合，その指示部（・　４０Ａ用　個　・　１００Ａ用　個　・　２５０Ａ用　個）を付属する。 ・　固定形（止水コック付）　・　測定用タッピング（３２ｍｍピトー管測量計用）
	15. オイルタンク	（１）オイルタンク本体は図示による。 （２）遠隔油用指示計　※　取付ける　・　取付けない （３）計量尺は，青銅製，黄銅製又はアルミ製とし，１０リットル実測目盛刻印とする。計量口は錠付とする。
	16. 積算油量計	図示の箇所に取付ける（熱源機器等）。
	17. 注油口及び指示ｶﾞｳｽ	標準図（機材　６　）による。 ・　単独形　・　共用形（　・　ローリーアース付）
	18. 消音内貼り	（１）施工箇所は図示による。 （２）内貼りチャンバー部の寸法表示は，外形寸法とする。 （３）吹出口に接続するチャンバーの消音内貼りは別図による。
	19. 保　温	（１）建物内の空気吹き管の保温は室気抜き許すこと（空気抜き弁も含む），仕様は冷温水管の項による。 （２）屋外露出配管の保温は，給水設備の項による。 （３）外気導入れダクト及びチャンバーボックスの保温　※　要（全熱交換器の給気ダクトを含む）　・　不要 （４）排気ダクトの外壁開放部より１ｍ程度保温する。（チャンバーボックスを含む） （５）冷媒管（断熱材被覆銅管）の保温外装 屋内露出部　・　保温化粧ケース（樹脂製）　・　外装なし　・ 屋外　・　保温化粧ケース（樹脂製）　・ （６）高圧蒸気管及びヘッダーの保温厚は　　mmとする。
	20. 電気工事の範囲	（１）地震感知器の配管配線　※　別途　・　本工事 （２）防煙ダンパと連動制御器迄の配管配線及び連動制御盤から煙感知器迄の配線配管は ※　別途　・　本工事
	21. 塗装	（１）屋内露出煙ダクトの塗装（屋室を除く）は　※　行わない　・　行う （２）屋内露出冷却水配管の塗装（居室は除く）は　※　行わない　・　行う

章	項　目	特　記　事　項
換気設備	1. 準拠事項	［　空気調和　・　冷房　・　暖房設備　］の当該事項に準ずる。
	2. 開放形湯沸器排気ﾌｰﾄﾞ	・　５　・　６　・　７　・　８　・　９　・　１８　・　１９　・　２１ ※　別途　・　本工事　・既設
	3. 厨房用排気ダクト	※　亜鉛鉄板　・　ステンレス鋼板（ＳＵＳ３０４）（板厚は高圧ダクトによる）
	4. 厨房用排気ダクト工法	※　アングルフランジ工法　・　コーナーボルト工法（共板フランジ又はスライドオンフランジ）
	5. 厨房用排気フード	（１）フード周囲の天井（フード面から天井面まで）　※　取り付ける　・　取り付けない （２）フードコック　※　取り付ける　・　取り付けない （３）材質（天板とも）　※　ステンレス鋼板（ＳＵＳ４３０又はＳＵＳ３０４）
	6. 多湿箇所の排気ﾀﾞｸﾄ	次の系統のダクトのシールは，標準図（施工４５．４６）のＮシール＋Ａシール＋Ｂシールとし，水抜き管を設ける。 （　　）

章	項　目	特　記　事　項
排煙設備	1. ダクト	・　亜鉛鉄板製　・　鋼板製（１．６ｍｍ以上）
	2. 排煙口の形式	・　可動羽根（スリット共）　・　可動パネル
	3. 排煙口開放装置	・　ワイヤー式　・　電気式（遠隔操作機能　・　要　・　不要）
	4. 排煙風量測定方式	建築設備定期検査業務指導書（（財）日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量の検査方式に準ずる。

章	項　目	特　記　事　項
自動制御設備	1. 中央監視制御	中央監視制御装置の構成機能は別紙による。
	2. 計装工事の配線	（１）屋外・屋内露出の配線は，図面に特記のない限り金属管配線とする。 （２）天井内隠ぺいの配線は，図面に特記がなければケーブル配線とする。

章	項　目	特　記　事　項
衛生器具設備	1. 大便器洗浄弁	・　洗浄タンク方式　・　洗浄弁方式（不凍結節水弁付）
	2. 便器洗浄用タンク	※　手洗なし　・　手洗付
	3. 小便器自動洗浄	個別感知方式とする。（　・　小便器一体型　・　小便器分離型）
	4. 器具付属水栓	固定こまえ（節水こまえ）とする。
	5. 自動水栓	※　電源供給方式（　※　ＡＣ１００Ｖ）　・　乾電池　・自己給電
	6. 温水洗浄便座加熱方式	・　瞬間式　・　貯湯式
	7. 大便器ﾛｰﾙｶﾊﾞｰ	設ける（ピット内を除く）

章	項　目	特　記　事　項
給水設備	1. 量水器	（１）親メーター　※　指用　・　買取り　（隔測メーター　・　有　・　無） （２）子メーター　※　買取り　（隔測メーター　・　有　・　無）
	2. 量水器桝	（１）親メーター用　※　水道事業者の指定品　・　標準図（機材５７） （２）子メーター用　※　標準図（機材５７）　・　水道事業者の指定品
	⑤ 配管材料	（１）一般用 ・　ステンレス鋼管（ＳＵＳ３０４） ・　塩ビライニング鋼管（・ＶＡ　・ＶＢ） ・　ポリ粉体鋼管（・ＰＡ　・ＰＢ） ・ （２）土間配管用（厨房，浴室等のシンダー内含む） ・　ステンレス鋼管（ＳＵＳ３１６） ・　塩ビライニング鋼管（ＶＤ） ・　ポリ粉体鋼管（ＰＤ） ・ （３）屋外土中用 ・　ステンレス鋼管（ＳＵＳ３１６） ○ 塩ビライニング鋼管（ＶＤ） ・　ポリ粉体鋼管（ＰＤ） ・　水道用硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） ・　〃　（ＨＩＶＰ） ○ ポリエチレン管 ・　水道用ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管 ・
	4. 不凍水栓柱	化粧ケーシング（　・　アルミ合金製　・　合成樹脂製　）
	⑥ 弁　類	（１）水道直結部分　※　ＪＩＳ又はＪＶ１０Ｋ　・　水道事業所の規定による　Ｋ （２）その他の部分　※　ＪＩＳ又はＪＶ５Ｋ　・　ＪＩＳ又はＪＶ１０Ｋ ステンレス鋼管に取り付ける弁類は，ステンレス製とする。
	6. 給水栓	（１）屋内（　※　一般水栓　・　耐寒水栓　）　（２）屋外（　※　耐寒水栓　・　一般水栓　） 湯沸室，台所，厨房用水栓は泡沫式とする。　耐寒水栓はＪＷＷＡの認証品とする。
	⑦ 埋設深さ	（１）一般敷地内（　0.45　m以上）　（２）敷地内車両道路（　0.6　m以上） （３）公道部分（　※　水道事業者及び道路管理者規定による　）
	8. 保　温	（１）量水器桝内の保温を行う。 （２）屋外露出配管（弁フランジを含む）は，標準仕様書第２編（表２．３．６　ｅ２・（ハ））とし厚さは呼び径２５mm以下は５０mm，呼び径３２mm以上は４０mmとする。
	9. 埋設弁開閉用ハンドル	本工事に　※　含む（水道事業者管理用以外の弁操作用）　・　含まない
	10. 水道加入金等	水道加入金　・　要（　・　本工事　・　別途　）　・　不要 ・　その他（　　）
	11. ステンレス管の接合方法	（１）呼び径６０Ａ以下　ＳＡＳ３２２（一般配管用ステンレス鋼管の管継手性能基準）を満足した継手による接合 （２）呼び径７５Ａ以上　・　溶接接合　・　ハウジング形管継手による接合　・　フランジ接合
	⑫ その他	給水管の最小口径は２０mmとする。ただし，器具接続部分を除く。

章	項　目	特　記　事　項
排水設備	① 配管材料	（１）屋内汚水管 ・　排水用塩ビライニング鋼管 ・ ・ （２）屋内雑排水管 ・　配管用炭素鋼鋼管（白） ・　排水用塩ビライニング鋼管 ・ （３）屋外土中汚水，雑排水管 ・　硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） ○ 硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＵ） ・　排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管（ＲＥＰ－ＶＵ） ・ （４）土間配管用 ・　排水用塩ビライニング鋼管 ・ （５）通気管 ・　配管用炭素鋼鋼管（白） ・　硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） ・ （６）ポンプアップ排水管 ・　ポリ粉体鋼管（ＰＤ） ○ 硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） 台所流し等の床上露出部分の排水管は，硬質ポリ塩化ビニル管でもよい。

章	項　目	特　記　事　項
排水設備	② 排水桝	・　桝リストは図面番号（　　） （１）材料　・　ＲＣ　○ 硬質塩化ビニル　・　ポリプロピレン　・　ＳＣ （２）ふた　・鋳鉄製（・　ＭＨＡ　・ＭＨＢ　・ＴＢＡ　） ○ 樹脂製 ※ 景マーク，流体名入りおよび樹脂製ふたは原則としてＳＵＳチェーン付 （３）規格　・　日本下水道協会（ＪＳＷＡＳ）　・　プラスチック・マスマンホール協会（ＰＭＭＳ） ○ 市町村別基準（○ 有　・　無）
	3. グリース阻集器	・ＦＲＰ製（　　Ｌ）・ＳＵＳ製（　　Ｌ）　詳細は図示。
	4. 満水試験継手	図示の箇所に取付け，満水試験を行うこと。
	⑤ 試　験	○ 衛生器具などの取付完了後，排水試験又は通水試験を行う。 ・　衛生器具などの取付完了後，煙試験を行う。
	⑥ 放流負担金等	○ 不要　・　要（　・　別途工事　・　本工事　）
	7. 基礎材	※　再生クラッシャーラン

章	項　目	特　記　事　項
給湯設備	1. 配管材料	・　ステンレス鋼管（ＳＵＳ３０４）　・　耐熱性ライニング鋼管　・　銅管　・　被覆銅管 ・　保温付被覆銅管　＜即張管及び補給水タンクよりボイラー等への補給水管を含む。＞
	2. 弁　類	給水設備の当該事項による。
	3. 湯沸器の排気筒	厚さ０．５mm以上のステンレス鋼板製とする。
	4. 保　温	湯沸器の給湯気筒（二重管）のいんべい部保温を行う。標準仕様書第２編３．１．５表２．３．５の（ｈ・(イ)・Ｘ）
	5. ステンレス管の接合方法	（１）呼び径６０Ａ以下　ＳＡＳ３２２（一般配管用ステンレス鋼管の管継手性能基準）を満足した継手による接合 （２）呼び径７５Ａ以上　・　溶接接合　・　ハウジング形管継手による接合　・　フランジ接合

章	項　目	特　記　事　項
消火設備	1. 配管材料	（１）一　般　（２）地中埋設部 ・　配管用炭素鋼鋼管（白）　・　外面被覆鋼管（ＳＧＰ－ＶＳ） ・　圧力配管用炭素鋼鋼管（Ｓｃｈ４０）　・　ポリエチレン被覆鋼管（ＳＧＰ－ＰＳ） ・　ポリ粉体鋼管（ＳＧＰ－ＰＤ－３７０ＶＳ） ・　ポリエチレン被覆鋼管（ＳＴＰＧ－３７０ＰＳ）
	2. 屋内消火栓種別	・　易操作性１号消火栓　・　２号消火栓　・　広範囲型２号消火栓
	3. 消火栓開閉弁	・　ＪＩＳ１０Ｋ　・　ＪＩＳ２０Ｋ
	4. 保　温	（１）屋外露出管については給水管に準ずる。 （２）当ルームの保温 （３）消火配管の保温　屋内消火栓　・　施工しない　・　施工する スプリンクラー　・　施工しない　・　施工する
	5. 消火器	（１）消火器　種別・数量（　　） （２）消火器収納箱　仕様・材質・数量（　　）

章	項　目	特　記　事　項
厨房機器設備	1. 厨房機器類	（１）図示による（材質などは標準仕様書による）。ただし，寸法は参考とする。 （２）厨房機器据付要領は，標準図施工７４による。

章	項　目	特　記　事　項
ガス設備	1. 配管材料	（１）一般　（２）地中埋設部 ※　配管用炭素鋼鋼管（白）　※　ポリエチレン被覆鋼管 ・　ガス事業者の規定による　・　ガス事業者の規定による ・　・　ガス用ポリエチレン管 ・　・
	2. 都市ガス	（１）ガスメーター 親メーターはガス事業者の設置，子メーターは本工事 （２）引込み負担金　・　不要　・　要（　・　別途工事　・　本工事　）
	3. 液化石油ガス	（１）ガスボンベ　※　借用　・　買い取り（　・１０ｋｇ　・２０ｋｇ　・５０ｋｇ　　本） （２）ガスメーター　親メーターはガス事業者の設置，子メーターは本工事とする。 （３）集合装置　※　標準図（施工７２）による（　　本組） （４）転倒防止等　・　標準図（施工７３）［・（　　）　・（ｂ）］・ボルト，チェーン等はＳＵＳ製とする。 ・　容器固定具をＧＬＴ３００に追加設置する。
	4. ガス漏れ警報器	図示の箇所に取付ける　（　・分離形　・一体形　）　・別途電気工事 検知出力端子　（　・あり　・なし　）
	5. 埋設深さ	（１）一般敷地内（　　m以上）　（２）敷地内車両道路（　　m以上） （３）公道（ガス供給事業者及び道路管理者規定による）
	6. その他	配管工事は，原則として本ガス供給事業者の責任施工とする。　供給事業者名（　　）

章	項　目	特　記　事　項
昇降機設備	1. 方式　用途	方式（　・ロープ式　・油圧式　・　　）用途（　・一般乗用　・車いす用　・荷物用　・　　）
	2. 積載量・定員	積載量（　　kg）　定員（　　人）
	3. 速度・停止箇所	速度（　　m/分）　停止箇所（　　箇所停止）
	4. 管制運転	・　地震　・　火災　・　停電　・　冠水　・　自家発
	5. 工場検査予定	※　あり　・　なし
	6. 無償保守期間	・　あり（　　ヶ月）　※　なし

表１「完成書類」　本工事終了後下記の書類を提出すること。

名　称	完　成　書　類	部数	名　称	完　成　書　類	部数
1　完成調書	業務工事完成引渡要領 （令和７年４月１日版）	1部	6　管理の手引き ①工事概要書 ②機

遊 具 広 場

多 目 的 広 場

トイレ新設

倉庫

管 理 棟

浄化槽

中木

高木

T-3

KBM. ±0
(マンホール蓋上)

GV32
(舗装)

100V

150V

(100)

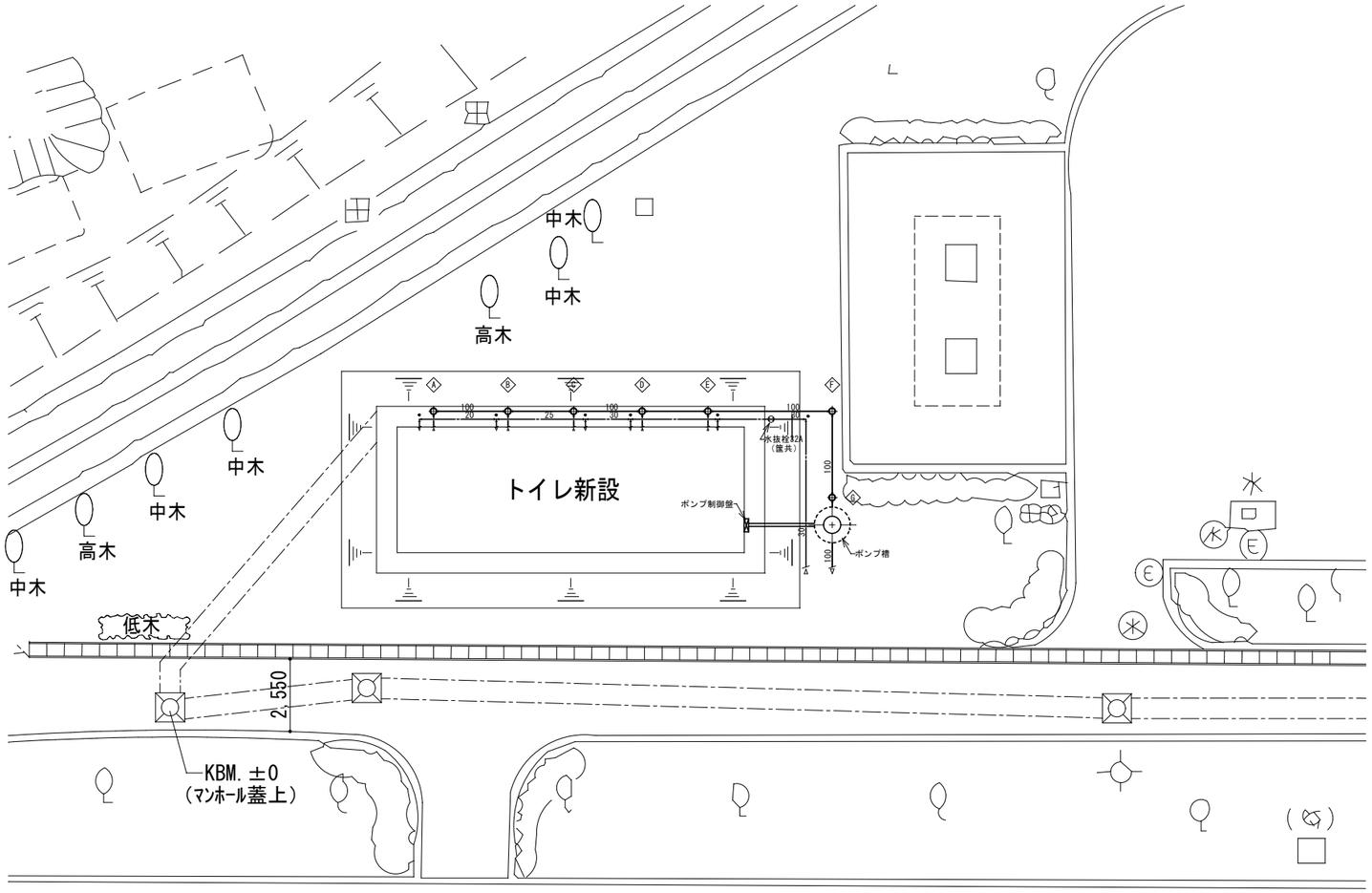
(75)

※ 注記 舗装通路掘削に伴う、アスファルト解体・復旧は建築時とする。

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事		設計年月日 2025 年 9 月　日
図面名称	屋外配管図（1）	縮尺 A1:1/200 A3:1/400	図面番号 M — 02



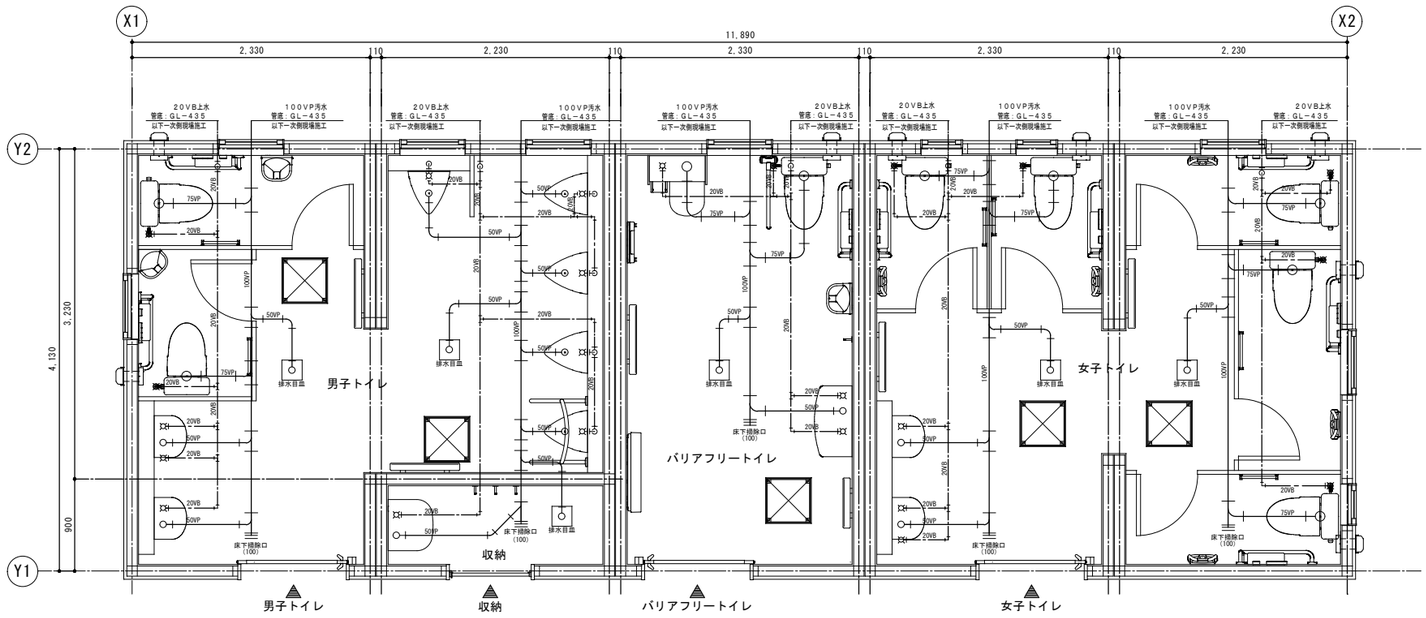
桝　表	※ 桝深さはＧＬを基準とする。				
記号	名　称	規格－仕様	蓋	地盤高	備　考
A	小口径桝	90L 100φ×150φ× 440H	塩ビ製	GL＋130	
B	〃	45Y 100φ×150φ× 520H	〃	GL＋140	
C	〃	45Y 100φ×150φ× 600H	〃	GL＋150	
D	〃	45Y 100φ×150φ× 660H	〃	GL＋140	
E	〃	45Y 100φ×150φ× 710H	〃	GL＋130	
F	〃	90L 100φ×150φ× 500H	〃	GL－190	
G	〃	DR 100φ×150φ× 800H	〃	GL－190	
H	〃	45Y 150φ×200φ× 450H	T-8A	GL－210	
I	〃	45Y 150φ×200φ× 530H	〃	GL－290	
J	〃	ST 150φ×200φ× 760H	〃	GL－290	
K	公　設　桝	600φ ×1,200H	町指定	GL－1,020	
L	小口径桝	ST 100φ×150φ× 500H	塩ビ製	GL＋160	
M	〃	90L 100φ×150φ× 600H	〃	GL＋160	
N	〃	ST 100φ×150φ× 640H	T-8A	GL－310	
O	〃	UTK 80φ×150φ× 450H	〃		掃除口用

注記　●は埋設標を示す。

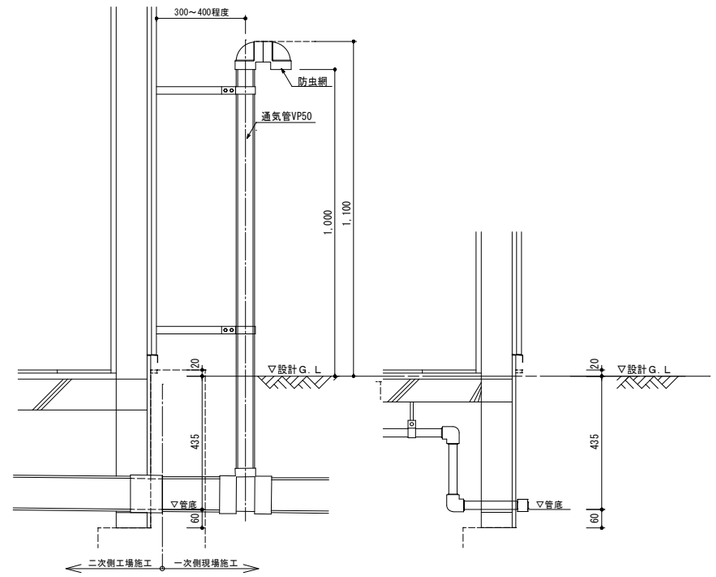
特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事	設計年月日	2025 年 9 月　日
図面名称	屋外配管図（2）	縮尺	A1:1/200 A3:1/400
		図面番号	M ― 03



給排水設備図　S=1/30



排水管底・通気管詳細図　S=1/10

給水管底詳細図　S=1/10

［ 凡 例 ］

VR 給水管：硬質塩化ビニルライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＢ）
床下：硬質ウレタンフォーム断熱材巻

VP 排水管：硬質塩化ビニル管（ＶＰ）

［ 特 記 ］

※　給排水管点線部は一次側現場施工
※　床上給水管は電熱線と保温材を施す

衛生器具表

男子トイレ

品　名	品　番	色　番　・　仕　様	N
小 便 器	ＵＦＳ９１０Ｗ（自動洗浄・発電タイプ）. TOTO	ホワイト　＃ＮＷ１	5
洋式大便器	ＣＳ５９７ＢＳ，ＳＨ５９６ＢＡＲ，ＴＣＦ５５２４ＡＰ，ＴＣＡ３５７（乾電池式）. TOTO	ホワイト　＃ＮＷ１	2
手 洗 器	Ｌ３０Ｄ，ＴＬＥ２８ＳＳ１Ｗ（自動水栓・発電タイプ）. TOTO	ホワイト　＃ＮＷ１	2
掃除用水栓	Ｔ２００ＣＳＮＲ１３. TOTO	キー式水栓	1
小便器用手すり	Ｔ１１２ＣＵ２２. TOTO	ステンレス樹脂被覆タイプφ３４ ホワイト　＃ＮＷ１	1
手 す り	Ｔ１１２ＣＬ１０（Ｌ型）. TOTO	ステンレス樹脂被覆タイプφ３４ ホワイト　＃ＮＷ１	2
紙 巻 器	ＹＨ７０１. TOTO	ステンレス　棚付２連	2
化 粧 鏡	ＹＭ４５６０ＦＥ（４５０ｘ６００）. TOTO	耐熱仕様・盗難防止形	2
ベビーチェア	ＹＫＡ１５Ｓ，ＹＫＡ１６Ｓ. TOTO	ホワイト	各1
折りたたみ棚	ＲＶ－２００－ＭＧ－Ｓ. 杉田エース	ステンレス・マグネット式	2
排 水 目 皿	ＨＳＵＴ－２０Ｌ２００Ｎ. ロンシール	トラップ・盗難防止用チェーン付	2

女子トイレ

品　名	品　番	色　番　・　仕　様	N
洋式大便器	ＣＳ５９７ＢＳ，ＳＨ５９６ＢＡＲ，ＴＣＦ５５２４ＡＰ，ＴＣＡ３５７（乾電池式）. TOTO	ホワイト　＃ＮＷ１	5
手 洗 器	Ｌ３０Ｄ，ＴＬＥ２８ＳＳ１Ｗ（自動水栓・発電タイプ）. TOTO	ホワイト　＃ＮＷ１	2
掃除用水栓	Ｔ２００ＣＳＮＲ１３. TOTO	キー式水栓	1
手 す り	Ｔ１１２ＣＬ１０（Ｌ型）. TOTO	ステンレス樹脂被覆タイプφ３４ ホワイト　＃ＮＷ１	5
紙 巻 器	ＹＨ７０１. TOTO	ステンレス　棚付２連	5
化 粧 鏡	ＹＭ４５６０ＦＥ（４５０ｘ６００）. TOTO	耐熱仕様・盗難防止形	2
ベビーチェア	ＢＫ－Ｆ６２. Ｃｏｍｂｉ	クリアホワイト	5
折りたたみ棚	ＲＶ－２００－ＭＧ－Ｓ. 杉田エース	ステンレス・マグネット式	5
排 水 目 皿	ＨＳＵＴ－２０Ｌ２００Ｎ. ロンシール	トラップ・盗難防止用チェーン付	2

バリアフリートイレ

品　名	品　番	色　番　・　仕　様	N
洋式大便器	ＣＳ５９７ＢＳ，ＳＨ５９６ＢＡＲ，ＴＣＦ５５２４ＡＰ，ＴＣＡ３５７（乾電池式）. TOTO	ホワイト　＃ＮＷ１	1
オストメイトパック	ＵＡＳ８１ＲＤＢ２ＮＷ（電気温水器付）. TOTO	ホワイト　＃ＮＷ１	1
大型手洗器	Ｌ２７０Ｄ，ＴＬＥ２８ＳＳ１Ｗ（自動水栓・発電タイプ）. TOTO	ホワイト　＃ＮＷ１	1
掃除用水栓	Ｔ２００ＣＳＮＲ１３. TOTO	キー式水栓	1
手 す り	Ｔ１１２Ｈ７Ｒ（はね上げ式），Ｔ１１２ＣＬ１０（Ｌ型）. TOTO	ステンレス樹脂被覆タイプφ３４ ホワイト　＃ＮＷ１	各1
紙 巻 器	ＹＨ７０１. TOTO	ステンレス　棚付２連	1
ステンレスフック	ＹＫＨ２０Ｒ. TOTO	ステンレス・ストッパー付	1
ベビーチェア	ＹＫＡ１５Ｓ. TOTO	ホワイト	1
ベビーシート	ＹＫＡ２５Ｎ. TOTO	ホワイト	1
ﾌｨｯﾃｨﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ	ＹＫＡ４１Ｒ. TOTO	ホワイト	1
化 粧 鏡	ＹＭ４５６０ＦＥ（４５０ｘ６００）. TOTO	耐熱仕様・盗難防止形	1
排 水 目 皿	ＨＳＵＴ－２０Ｌ２００Ｎ. ロンシール	トラップ・盗難防止用チェーン付	1

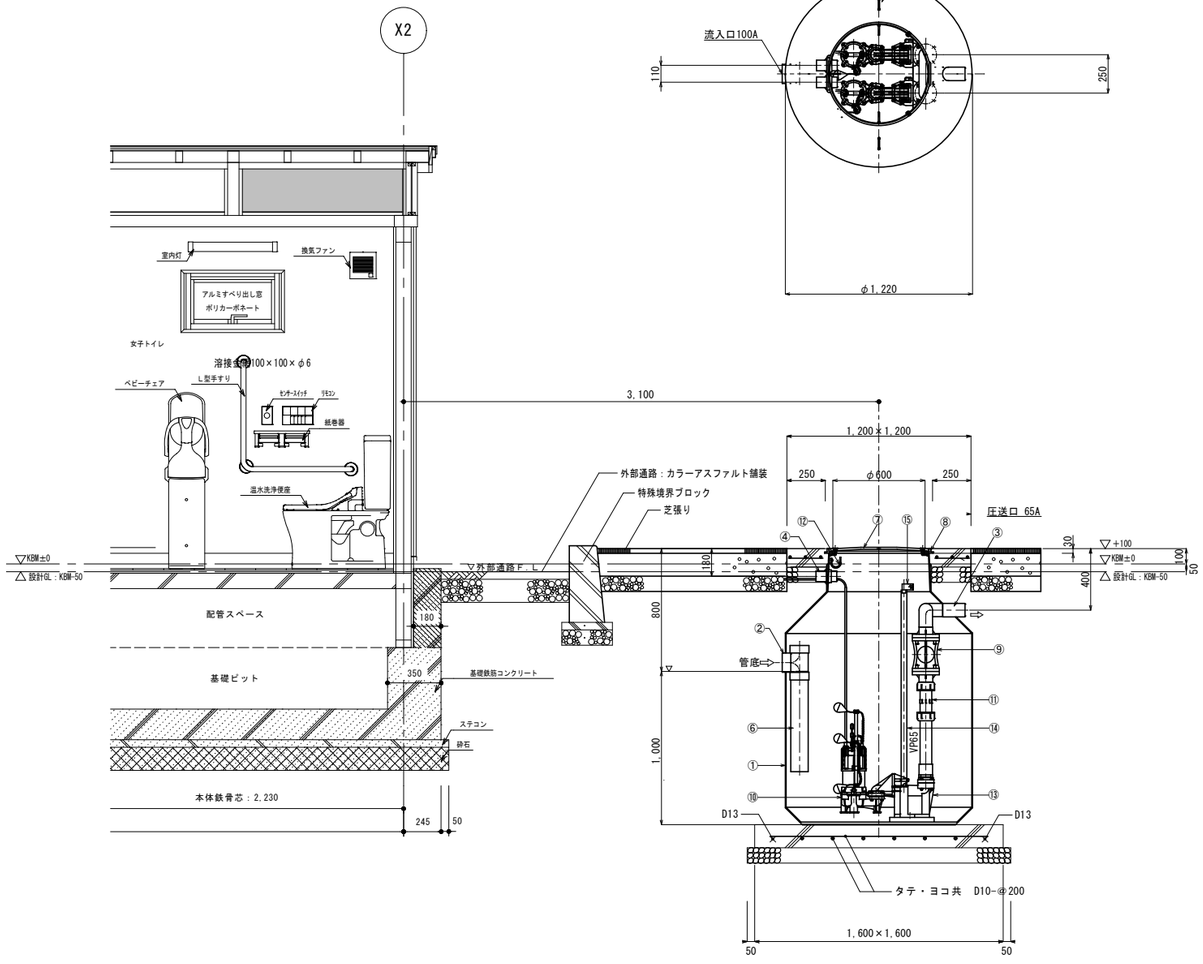
収納

品　名	品　番	色　番　・　仕　様	N
ＳＫシンク	ＳＫ５１０Ｄ，Ｔ１３６ＡＵＮ１３ＮＲ. TOTO	ホワイト　＃ＮＷ１	1
ステンレスフック	ＹＫＨ２０Ｒ. TOTO	ステンレス・ストッパー付	3
排 水 目 皿	ＨＳＵＴ－２０Ｌ２００Ｎ. ロンシール	トラップ・盗難防止用チェーン付	1

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事		設計年月日 2025 年 9 月　日
図面名称	給排水設備図	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図面番号 M ― 04



ポンプ槽仕様

番号	部品名	材料	数量
①	タンク本体（1.5m³）	ＦＲＰ	1
②	流入口 100A	ＰＶＣ	1
③	圧送口 65A	ＰＶＣ	1
④	ケーブル取出し口 50A	ＰＶＣ	2
⑤	吊り金具	ＳＳ/メッキ	2
⑥	波動防止管	ＰＶＣ	1
⑦	マンホール蓋φ600ロック付	ＰＰ	1
⑧	マンホール枠	ＰＰ	1
⑨	汚物チャッキ弁 CVFP型	樹脂	2
⑩	水中ポンプ	樹脂/ＳＵＳ	2
⑪	伸縮継手	ＰＶＣ	2
⑫	フロート用フック	ＳＵＳ	1
⑬	着脱装置	樹脂製	2
⑭	着脱ガイド	ＳＵＳ304	4
⑮	ガイド支持金具	ＳＵＳ304	2

ポンプ仕様

名称		数量
汚物ポンプ	セミボルテックスポンプ	2
	65A×150L/min×10m×3φ200V2.2KW	
付属品	壁掛型制御盤（屋外防滴型）	1
	自動単独・交互並列運転	
	漏電遮断器警報接点・サーマルリレー付	
	電流計・パトライト・警報ブザー・監視窓付	
	フロートスイッチ（ケーブル6m付）×4個	

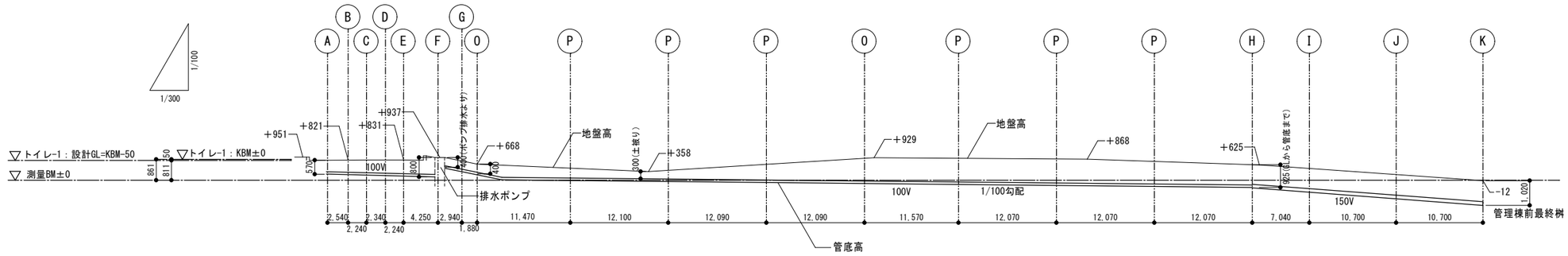
構造仕様

コンリート Fc-21N/mm2
スランプ 15cm

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号 佐々木 昌喜

工事名称	令和８年度 台山公園トイレ改築工事		設計年月日 2025 年 9 月 日
図面名称	排水ポンプ・ポンプ槽参考図	縮尺 A1:1/20 A3:1/40	図面番号 M — 05



トイレ：排水経路

備　考
表記レベルは、測量BMからの数値を示す。

特記事項

株式会社 櫻田建築設計事務所
一級建築士事務所 宮城県知事登録 21810071 号
一級建築士 第 238980 号　佐々木　昌喜

工事名称	令和８年度　台山公園トイレ改築工事
設計年月日	2025 年 9 月　日
図面名称	下水本管接続　排水経路　全体縦横断図
縮尺	A1:1/100･300 A3:1/200･600
図面番号	M ― 06